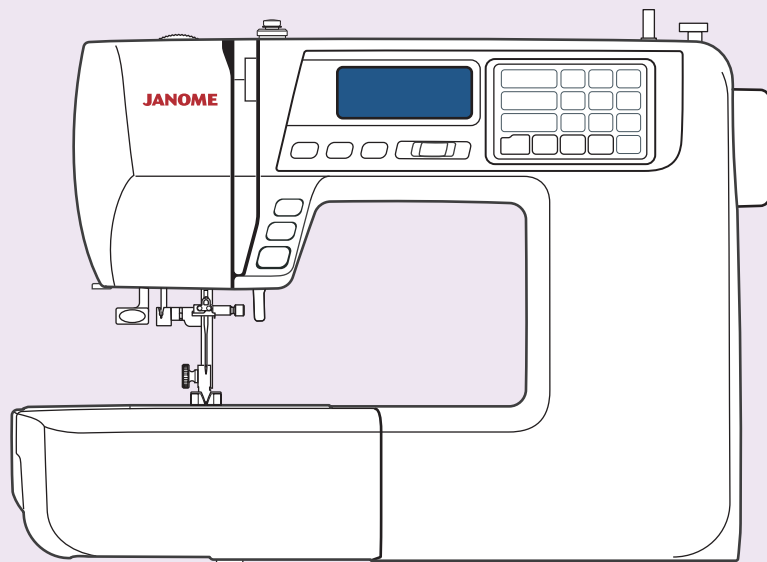


# 取扱説明書



---













**JANOME**






# 安全上のご注意












- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

<b>危害・損害の程度を表わす表示</b>		<b>警告</b> この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。		<b>注意</b> この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
-----------------------	---	---	---	---

<b>本文中の図記号の意味</b>		△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
		⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
		●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

	<b>警告</b> 感電・火災の原因になります。
 禁止	ストープ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は5℃～35℃です。
 禁止	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
 禁止	電源コードやフットコントローラーのコードを傷つけたり、加工したり、はさみ込んだり、たばねたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、重い物をのせたり、高温部に近づけたりしないでください。 電源コード、フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
 必ず実行	一般家庭用、交流電源100Vでご使用ください。
 必ず実行	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
 必ず電源プラグを抜く	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき

	<b>注意</b> 感電・火災・けがの原因になります。
 分解禁止	お客様自身での分解はしないでください。
 接触禁止	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
 禁止	めい中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。
 禁止	曲がった針や先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。

	<b>注意</b> 感電・火災・けがの原因になります。
 禁止	ミシンの通風口はふさがらないでください。
 禁止	フットコントローラーの上に物をのせないでください。また、ご使用の際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
 注意	お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
 必ず実行	ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。
 必ず実行	プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
 必ず実行	針および押さえは、確実に固定してください。また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
 必ず実行	電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
 必ず実行	以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
 必ず電源プラグを抜く	以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのお手入れを行うとき ・針、針板を交換するとき
 必ず電源プラグを抜く	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

# 目次

◎お取り扱いについてのお願い	2	●ファスナー付け	32～34
◎各部の名まえ	3	●ピンタック	35
◎標準付属品と収納場所	4～5	●ギャザー	35
●標準付属品	4	●まつりぬい	36～37
●収納場所（補助テーブル）	5	●シェルタック	38
◎早見板の取り付けと使い方	5	●ゴムひも付け	38
◎操作方法	6～23	●ボタンホールの種類と用途	39
●電源のつなぎ方	6	●スクエアボタンホール	40～44
★スタート/ストップボタンを使用する場合	6	★ぬい方	40～42
★フットコントローラーを使用する場合	6	★芯入りスクエアボタンホール	43
●操作ボタンのはたらき	7～9	★ボタンホールの幅をかえるとき	44
●速さの調節	10	★ボタンホールのぬい目のあらさをかえるとき	44
★スピードコントロールつまみ	10	●ラウンドボタンホール	45
★フットコントローラー	10	●キーホールボタンホール	45
●操作パネルキーのはたらき	11	●ニットボタンホール	46
●模様の選び方	12	●たまぶちボタンホール	47～48
●押さえ上げ	13	●ダーニング	49～50
●押さえ圧調節ダイヤルの使い方	13	●かんぬき止め	51
●送り歯のさげ方	13	●アイレット	52
●糸調子の合わせ方	14	●ボタン付け	53
★自動糸調子	14	●アップリケ	54
★マニュアル糸調子	14	●フリンジ	55
●模様の形の整え方	15	●ドロンワーク	55
●押さえの外し方、付け方	16	●スモッキング	56
●押さえホルダーの外し方、付け方	16	●ファゴティング	56
●針の取りかえ方	17	●スカラップ	57
●布に適した糸や針を選ぶ目安	17	●ボーダーガイド押さえの使い方	57
●下糸の準備	18～20	◎パッチワーク／キルト	58～59
★ボビンを取り出します	18	●針板角度目盛りの利用	58
★糸こまをセットします	18	●地ぬい	58
★補助糸立て棒の利用	18	●パッチワーク	58
★ボビンに糸を巻きます	19	●ワンポイント（とじぬい）	59
★ボビンを内がまにセットします	20	●スティップリングステッチ	59
●上糸の準備	21～23	◎記憶ぬい	60～66
★上糸をかけます	21	●ワンサイクルぬい	60
★糸通しの使い方	22	●組み合わせ記憶	61
●下糸を針板の上に引き出す場合	23	●糸切り記憶	62
◎実用ぬい	24～57	●つなぎ模様	63～64
●直線ぬい	24～26	●模様の反転機能	65
★針板ガイドの使い方	25～26	●模様の頭出し機能	66
★直線模様の針位置をかえるとき	26	◎文字ぬい	67～69
★ぬい目のあらさをかえるとき	26	●文字選択	67
●その他の直線状模様	27～28	●ぬい例	68～69
●ジグザグぬい	29	★ひらがな	68
●かがりぬい	30～31	★文字サイズの縮小	69

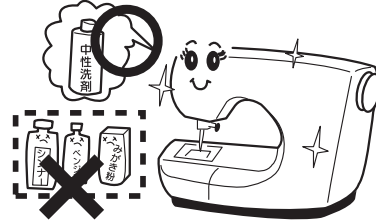
# 目次

◎編集機能 (1) .....	70～71
●記憶の確認 .....	70
●記憶の修正 .....	70～71
★模様の削除と挿入 .....	70
★模様のコピー (記憶) .....	71
◎編集機能 (2) .....	72～74
●統一マニュアル方式 .....	72～73
●個別マニュアル方式 .....	74
◎二本針ぬい .....	75～76
◎ミシンの設定 .....	77～79
◎ミシンのお手入れ .....	80
●かまと送り歯、糸切り部の掃除 .....	80
●内がまと針板の組み付け .....	80
◎こんな表示が出た場合 .....	81
★ブザー音の種類 .....	81
◎ミシンの調子が悪いときの直し方 .....	82
◎模様一覧表 .....	83

## ◎お取り扱いについてのお願い

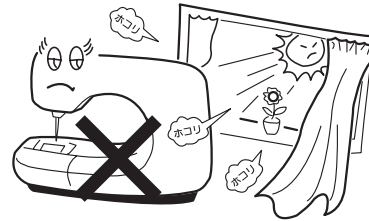
### ◇ご使用前に

- ① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使用前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

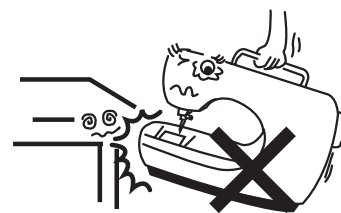


### ◇いつまでもご愛用いただくために

- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。



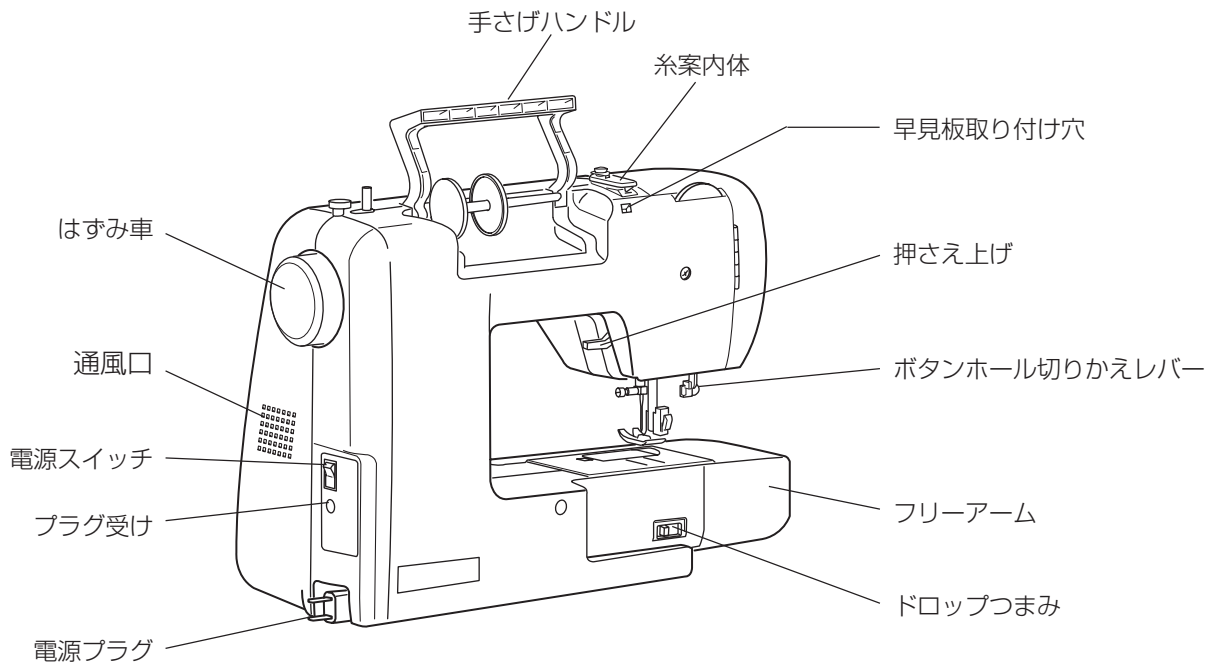
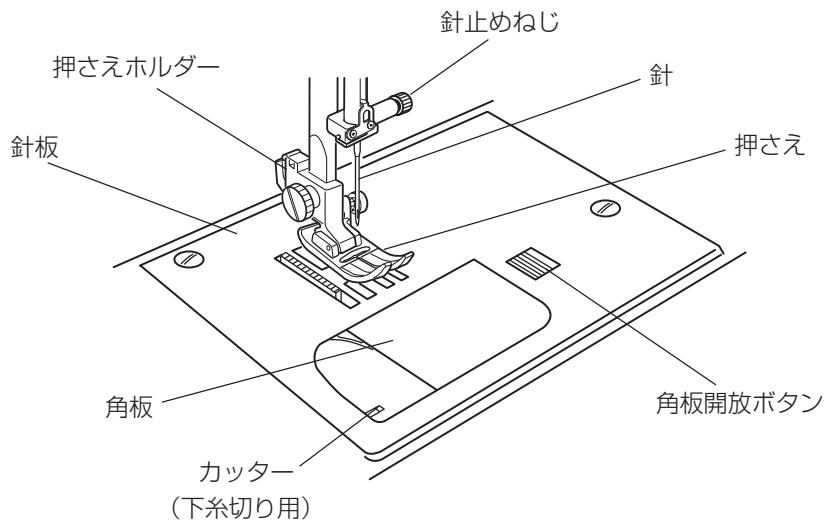
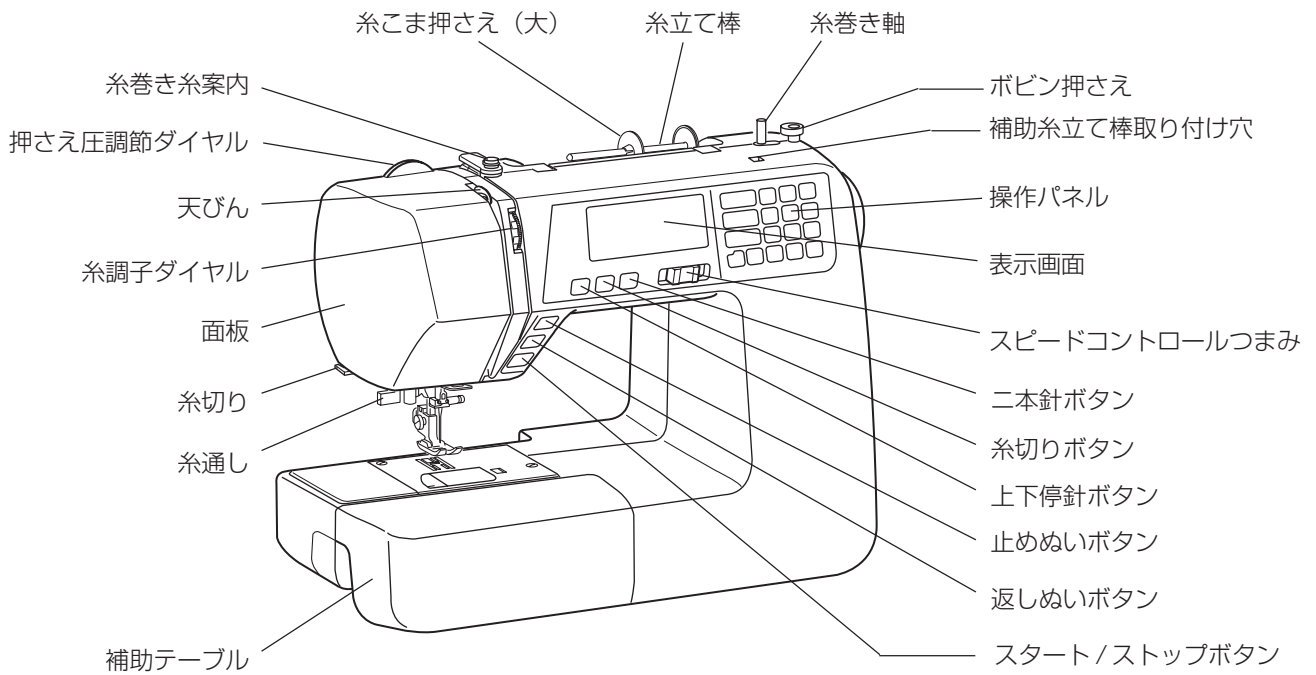
- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。  
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。



### ◇修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障が生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(82ページ)により点検・調整を行ってください。

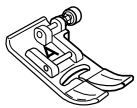
# ◎各部のなまえ



※製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

# ◎標準付属品と収納場所

## ●標準付属品

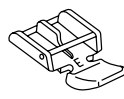


A: 基本押さえ  
〈24 ページ参照〉

※ ミシンの押さえホルダーに付いています。



C: たち目かがり押さえ  
〈30 ページ参照〉



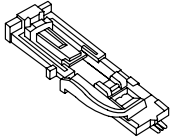
E: ファスナー押さえ  
〈32 ページ参照〉



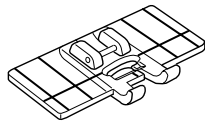
F: サテン押さえ  
〈24、38、53 ページ参照〉



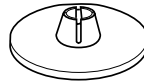
G: まつりめい押さえ  
〈35、36 ページ参照〉



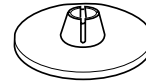
R: ボタンホール押さえ  
〈24、40、49 ページ参照〉



ボーダーガイド押さえ  
〈57 ページ参照〉

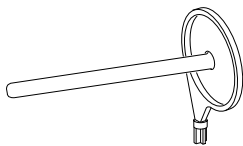


糸こま押さえ (大) [2 個]

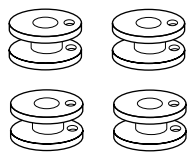


糸こま押さえ (小) [2 個]

※ 1 個は、ミシンの糸立て棒に付いています。

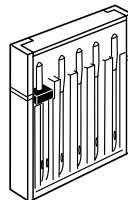


補助糸立て棒  
〈18、75 ページ参照〉



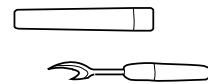
ボビン [4 個]

※ 1 個は、ミシンの内がまに入っています。

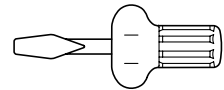


針  
〈17 ページ参照〉

- ・ 14 番 ..... 1
- ・ 11 番 ..... 2
- ・ プルー針 ..... 1
- ・ 2 本針 ..... 1



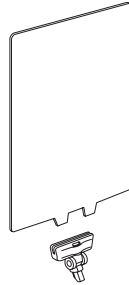
シームリッパー  
〈42 ページ参照〉



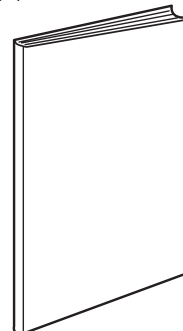
ドライバー



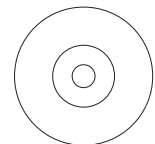
ミシンブラシ



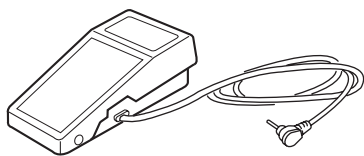
早見板  
〈5 ページ参照〉



取扱説明書

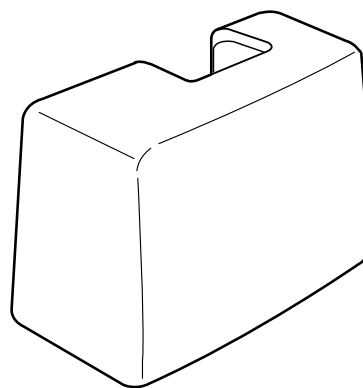


説明 DVD



フットコントローラー  
〈6、10 ページ参照〉

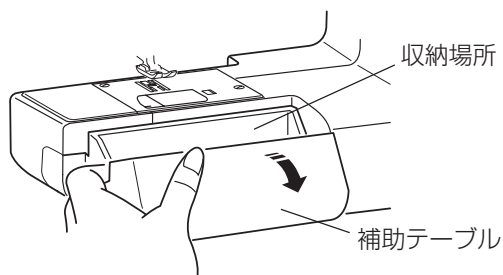
※ モデルによりオプションになります。



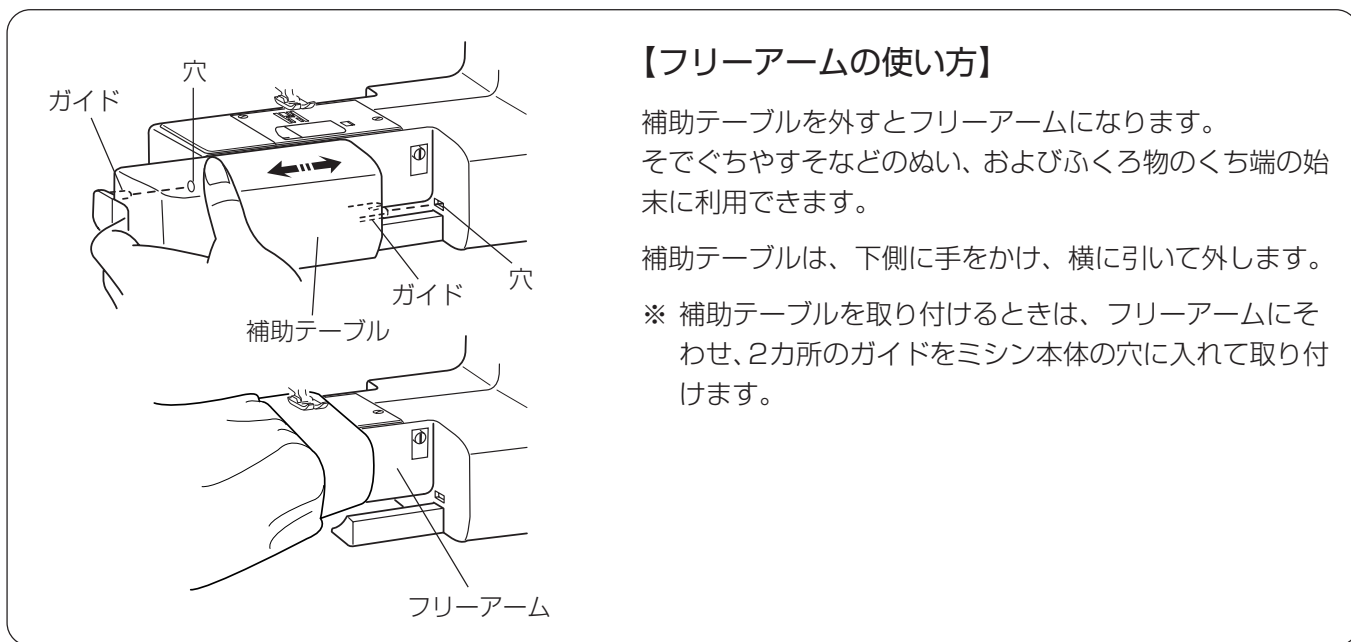
ミシンカバー

※ モデルによりオプションになります。

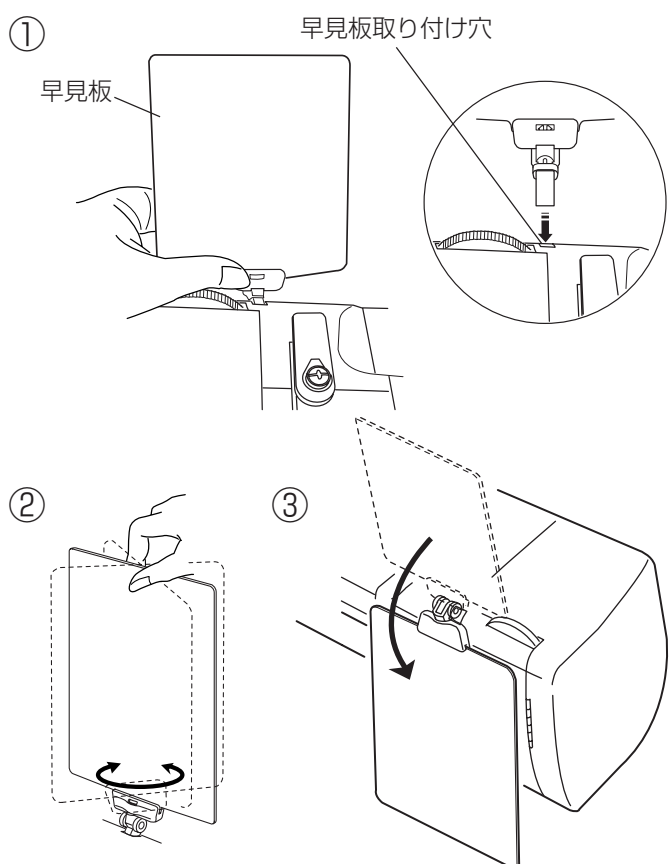
## ●収納場所（補助テーブル）



補助テーブルを開けると、押さえ等の小物が収納できます。



## ◎早見板の取り付けと使い方



① 早見板をミシンの取り付け穴に差し込みます。

※ 差し込み方向にご注意ください。逆の方向に差し込むことはできません。

② 早見板は回転させて、両面見ることができます。

③ 使用しないときは、ミシンのうしろ側に折りたたむこともできます。

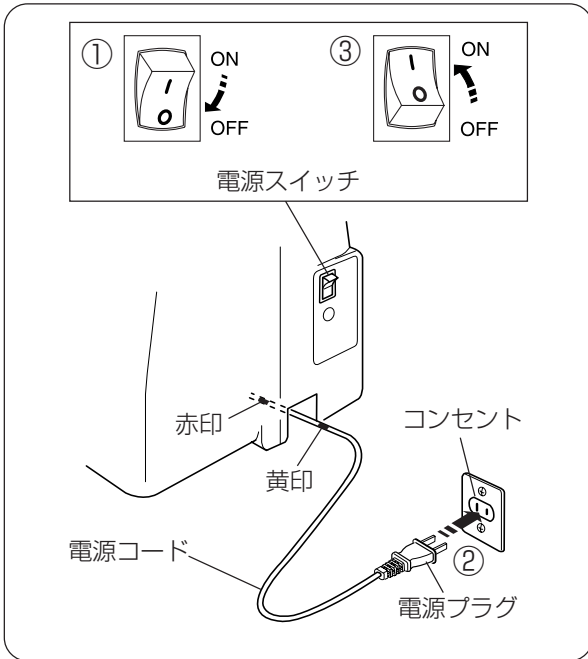
※ 早見板を手前に倒したり、ななめにひねったりして無理な力をかけないでください。破損するおそれがあります。

# ◎操作方法

## ●電源のつなぎ方

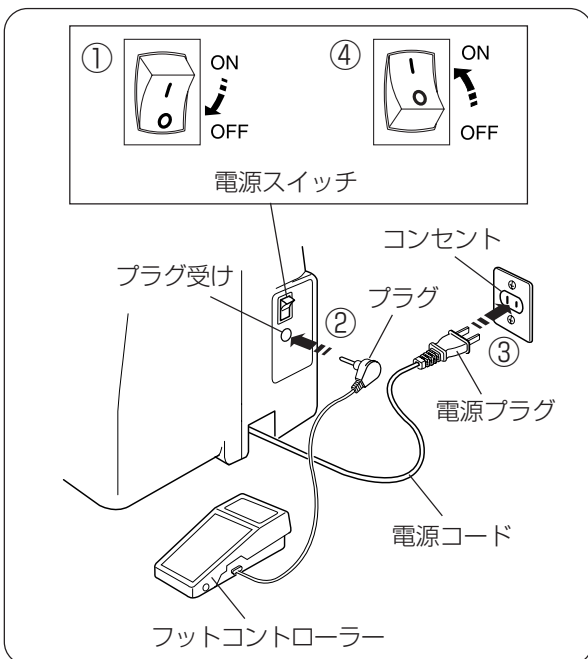
### ⚠ 警告

- 電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。  
ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。  
感電・火災の原因になります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。  
ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり火災の原因になります。



### ★スタート/ストップボタンを使用する場合

- ① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
  - ② 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
  - ③ 電源スイッチを「ON」(入) にします。
- ※ 電源コードは、赤印以上引き出さないでください。  
電源コードを引き出しすぎると断線の恐れがあります。  
(黄印から赤印まで約 30cm です。)
- ※ 電源スイッチを入ると、ミシンの準備のための初期設定が数秒間行われます。  
初期設定中は針などが動きますので、ミシンに触れないでください。

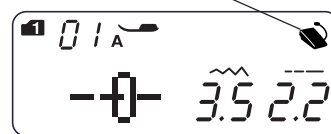


### ★フットコントローラーを使用する場合

(フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。)

- ① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
- ② フットコントローラーのプラグをプラグ受けに差し込みます。
- ③ 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ④ 電源スイッチを「ON」(入) にします。

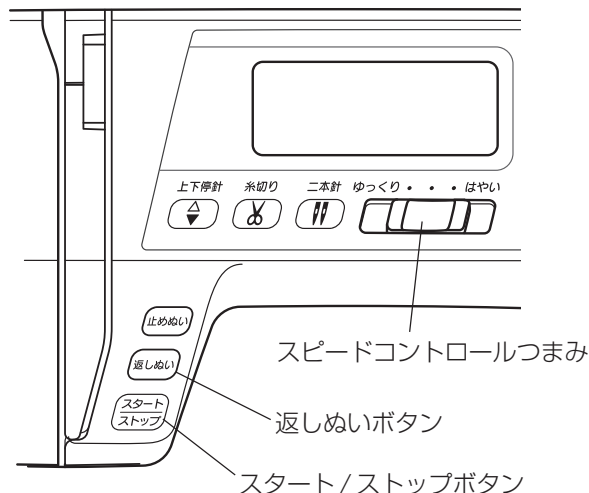
フットコントローラー表示 (点灯)



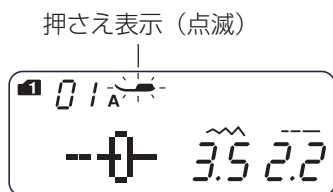
フットコントローラーを接続しているあいだは、表示画面にフットコントローラー表示が点灯しています。



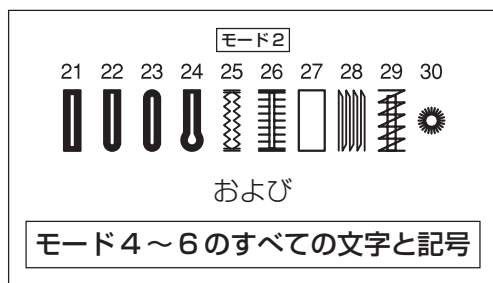
## ●操作ボタンのはたらき



【A】



【B】 針が上位置で止まる模様



### 【スタート/ストップボタン】

ボタンを押すと、ミシンはゆっくり動きはじめてからスピードコントロールつまみでセットした速さになります。もう一度押すと止まります。

(通常は針が下の位置で止まります。)

※ ボタンを押してスタートさせたとき、指をはなさないで押し続けているあいだは、ミシンは低速で動きます。ボタンを押して止めるときも、指をはなさないで押し続けているあいだは、ミシンは低速で動きます。

※ 押さえ上げをさげないでスタート/ストップボタンを押すと、表示画面の押さえ表示が点滅します。(左図【A】参照)

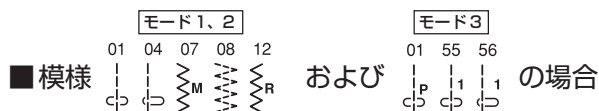
押さえ上げをさげてスタートしてください。

※ ミシンを止めたとき、通常は針が下の位置で止まりますが、針を上位置に止めることもできます。「◎ミシンの設定」(77ページ)をごらんください。

※ 針の停止位置が下位置に設定された状態でも、左図【B】の様をぬい終わったとき、および糸切り後は上位置で止まります。

※ フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップボタンは使用できません。

### 【返しぬいボタン】



#### 《ミシン運転中》

ボタンを押しているあいだは返しぬいを行い、指をはなすと前進ぬいにもどります。

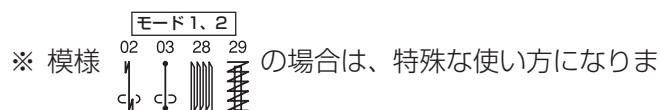
#### 《ミシン停止中》

(フットコントローラーを接続していないときのみ)  
ボタンを押しているあいだは低速で返しぬいを行い、指をはなすとミシンが止まります。

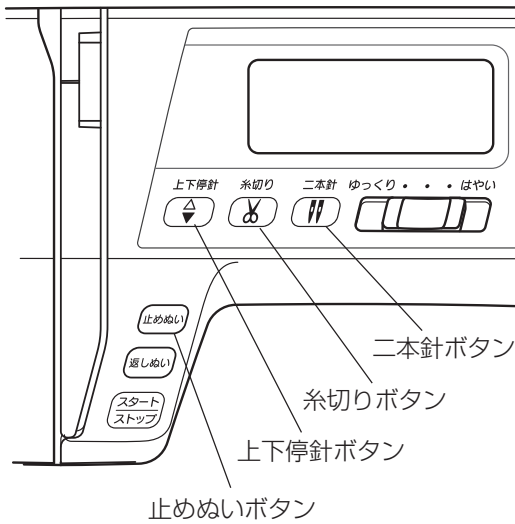
#### ■ その他の模様の場合

ぬい途中でボタンが押されると、その位置で止めぬいを行って自動的にミシンが止まります。

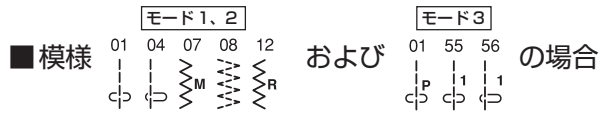
(停止してから押した場合、運転再開後、その位置で止めぬいを行って自動的にミシンが止まります。)



※ 模様 02, 03, 28, 29 の場合は、特殊な使い方になります。(27、28、49、51 ページ参照)



## 【止めぬいボタン】



ぬい途中でボタンが押されると、その位置で止めぬいを行って自動的にミシンが止まります。

(停止してから押した場合、運転再開後、その位置で止めぬいを行って自動的にミシンが止まります。)

## ■ その他の模様の場合

ぬい途中でボタンが押されると、ボタンが押されたときの模様を完成させたあと、止めぬいを行って自動的にミシンが止まります。

(停止してから押した場合、運転再開後、ボタンが押されたときの模様を完成させたあと、止めぬいを行って自動的にミシンが止まります。)

※ ぬう前にボタンを押しておく、模様を1つだけぬって自動的にミシンが止まります。

## 【上下停針ボタン】

ミシンが停止しているときにボタンを押すと、針の位置が上にあるときは下に、下にあるときは上に移動させることができます。

## 【糸切りボタン】

ぬい終わったあとにボタンを押すと、上糸と下糸を自動的に切ります。

糸切り中は糸切り表示が点滅します。(左図【A】参照) 糸切り後は下糸を針板の上に引きあげないで、そのままの状態ですぐぬうことができます。

## 《糸切り記憶》

模様を選んだあとに糸切りボタンを長押しして、表示画面に糸切り表示を点灯させると(左図【B】参照)、糸切りを記憶することができます。

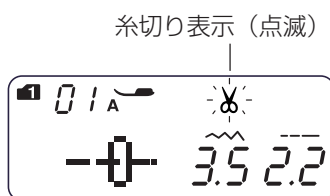
糸切りを記憶しておく、ぬい終わりに止めぬいが入っている模様(左図【C】参照)は、ぬい終わったあと糸切りボタンを押さなくても自動的に上糸と下糸を切ることができます。

また、その他の模様も、ぬい終わりに止めぬいボタンまたは返しぬいボタンを押して止めぬいを入れると、ぬい終わったあとに糸切りボタンを押さなくても自動的に上糸と下糸を切ることができます。

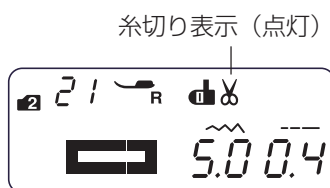
※ ぬい終わりに止めぬいを行う方法は、「返しぬいボタン」と「止めぬいボタン」(7、8ページ)をごらんください。

※ 糸切り記憶を取り消す場合は、表示画面の糸切り表示が消えるまで糸切りボタンを長押ししてください。

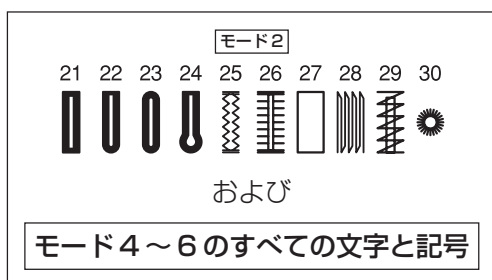
【A】



【B】



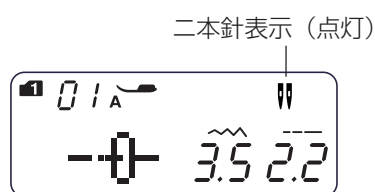
【C】 ぬい終わりに止めぬいが入っている模様



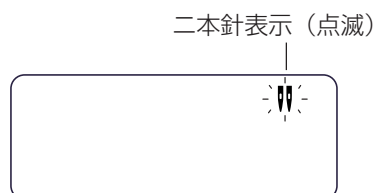
## 《糸切りの注意事項》

- ※ 30番および30番より太い糸や特殊な糸を切る場合、および二本針ぬいで糸を切る場合は、面板に付いている糸切りを使用してください。(25 ページ参照)
- ※ 糸こまの糸残りが少ないものは使用しないでください。糸がらみの原因になります。
- ※ 糸切り部に糸くずがたまると故障の原因になりますので、「◎ミシンのお手入れ」を参考に糸くずを取り除いてください。(80 ページ参照)
- ※ 糸が切れず糸がからんでしまった場合は電源スイッチを切り、針板を外して、からんでいる糸を取り除いてください。(80 ページ参照)

【A】



【B】



## 【二本針ボタン】

二本針ぬいのときに使います。

二本針ぬいを行うときは、ボタンを押して表示画面に二本針表示を点灯させます。(左図【A】参照)

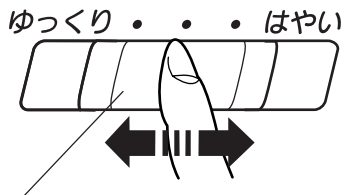
- ※ 二本針表示が点灯しているときに二本針ボタンを押すと、二本針表示の点滅している画面になります。(左図【B】参照)

針の交換をうながす注意表示画面で、この画面が表示されているあいだは、二本針ボタンを除くすべてのボタンやキーの操作は受け付けません。

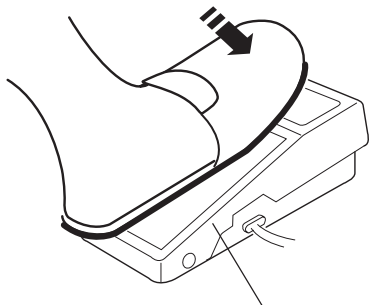
二本針ボタンをもう一度押すと、通常が表示画面になります。

二本針ぬいは、「◎二本針ぬい」(75 ページ) をご覧ください。

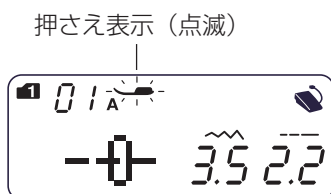
## ●速さの調節



スピードコントロールつまみ



フットコントローラー



ぬう速さは、スピードコントロールつまみやフットコントローラーで調節します。

### ★スピードコントロールつまみ

スピードコントロールつまみは、スタート/ストップボタン使用時のぬう速さを調節できます。つまみの位置が右側になるほど速くなります。

※ フットコントローラー使用時は、フットコントローラーをいっぱい踏み込んだときの最高速度を調節できます。

### ★フットコントローラー

フットコントローラーの踏みかげんで、ぬう速さが調節できます。

深く踏む→速くなる。  
浅く踏む→遅くなる。

※ スピードコントロールつまみは、通常、いちばん右側の位置（最高速）にして、踏みかげんで調節してください。

初心者の方が細かいものをぬうときなどは低速側にしておくと、フットコントローラーをいっぱい踏み込んでもスピードが出ないので便利です。

※ 押さえ上げをさげないでフットコントローラーを踏むと、表示画面の押さえ表示が点滅します。（左図参照）押さえ上げをさげてスタートしてください。

### ⚠ 注意

- フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。けがや故障の原因になります。
- フットコントローラーを使用する際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。

## ●操作パネルキーのはたらき



### ①モードキー（12 ページ参照）

モード1～モード6までの6種類にグループ分けされた模様を選ぶときに使います。

### ②とりけしキー（12、70 ページ参照）

選んだ模様番号（十の位）を取り消すときや、記憶した模様を削除するときに使います。

※ブザーが「ピー」と鳴るまでキーを長押しすると、記憶したすべての模様を一度で削除することができます。

### ③反転キー（55、65、66 ページ参照）

模様の形を左右反転させるときに使います。

組み合わせ記憶した模様をぬっている途中でミシンを停止した場合は、キーを押すと、停止したときにぬっていた模様の先頭からぬい始めることができます。

### ④記憶キー（60、66 ページ参照）

模様を組み合わせるときなど、選んだ模様を記憶させるときに使います。

※記憶キーが使えるのは、モード2～6です。

※模様は合計50個まで記憶できます。

組み合わせ記憶した模様をぬっている途中でミシンを停止した場合は、キーを押すと、組み合わせ記憶した模様の先頭からぬい始めることができます。

### ⑤テンキー（12 ページ参照）

モード1のダイレクトモードの場合は、キーに表示された10種類の模様を直接選ぶことができます。

モード2～6の場合は、模様番号（2桁）を選ぶときに使います。

### ⑥ぬい目の幅調節キー（26、29、69 ページ参照）

直線ぬいの針位置やぬい目の幅をかえるときに使います。

モード4～6の文字ぬいの場合は、文字サイズを縮小するときに使います。

### ⑦ぬい目のあかさ調節キー（26、29、50、52 ページ参照）

ぬい目のあかさをかえるときや、特殊な模様の形を整えるときに使います。

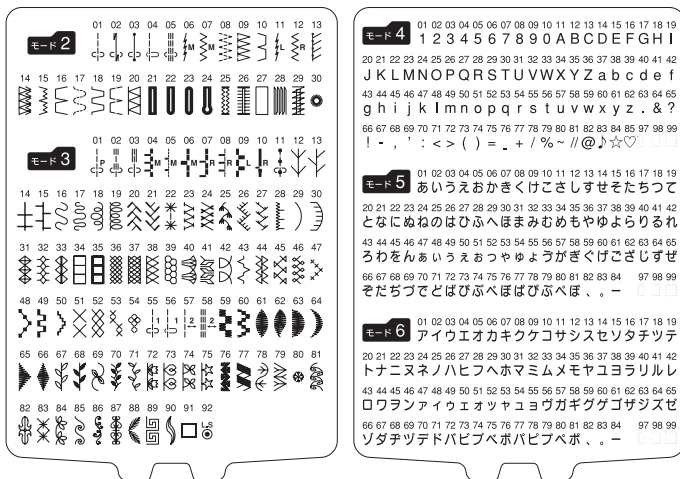
### ⑧カーソル移動キー（70、77 ページ参照）

記憶した模様の確認、削除、追加などの編集をするときのカーソル移動に使います。

ミシンの設定では、設定内容を変更するときに使います。

# ● 模様を選び方

〔早見板〕



モードキーを押すと、「ダイレクト」「実用ぬい」「飾りぬい」および3種類の文字ぬい（英数字・記号「ABC」、ひらがな「あいう」、カタカナ「アイウ」）の合計6種類のモードを選ぶことができます。

ダイレクトモードは、テンキーを押すとキーに表示されている10種類の模様を直接選ぶことができます。

ダイレクトモード以外のモードは、ぬいたい模様の模様番号を早見板から選び、次の方法で2桁の模様番号をテンキーで設定します。



61

## 【モード3「飾りぬい」の模様 を選ぶ例】

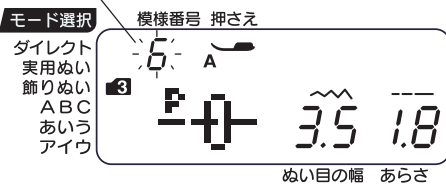
① モード3が選ばれている状態

① モードキーを押して、モード3「飾りぬい」を選びます。



② 模様番号：「6」表示（点滅）

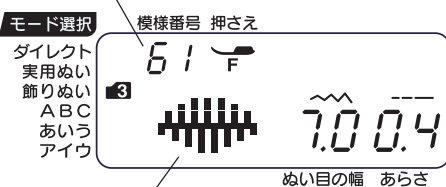
② テンキーの「6」を押します。  
画面の模様番号の十の位の数字に「6」が点滅表示されます。（一の位の数字は何も表示されていない状態です。）



※ まちがった番号を押してしまった場合は、とりけしキーを押してください。  
テンキーを押す前に選ばれていた模様番号表示（2桁）にもどります。

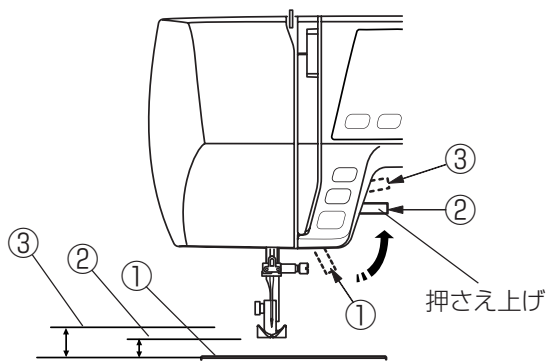
③ 模様番号：「61」表示（点灯）

③ テンキーの「1」を押します。  
画面に「61」の模様番号と模様のイラストが点灯表示され、選んだ模様をぬうことができます。



61番の模様のイラスト

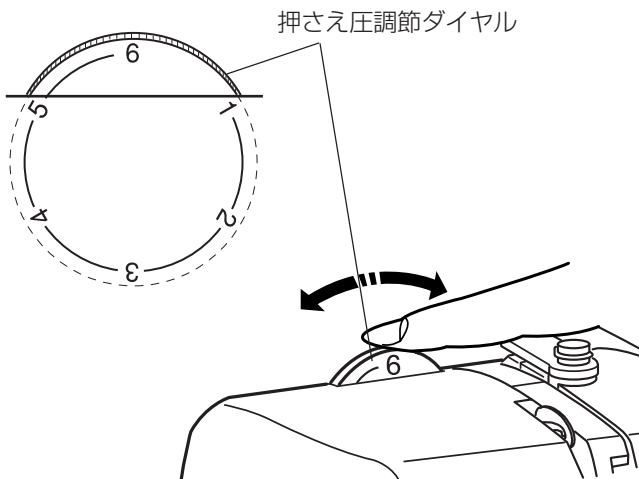
## ●押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげ下げを行います。普通にあげた位置よりさらに高くあげることもでき、厚い布を入れるときなどに利用できます。

- ① さげた位置 …ぬうときや糸通しを使用するときはさげておきます。
- ② 普通にあげた位置 …布の出し入れや上糸をかけるとき、および押さえを交換するときなどはあげます。
- ③ さらにあげた位置 …厚い布が入れやすくなります。

## ●押さえ圧調節ダイヤルの使い方



布地の厚さや特殊なぬい方によって、押さえ圧調節ダイヤルをまわして押さえ圧を調節します。

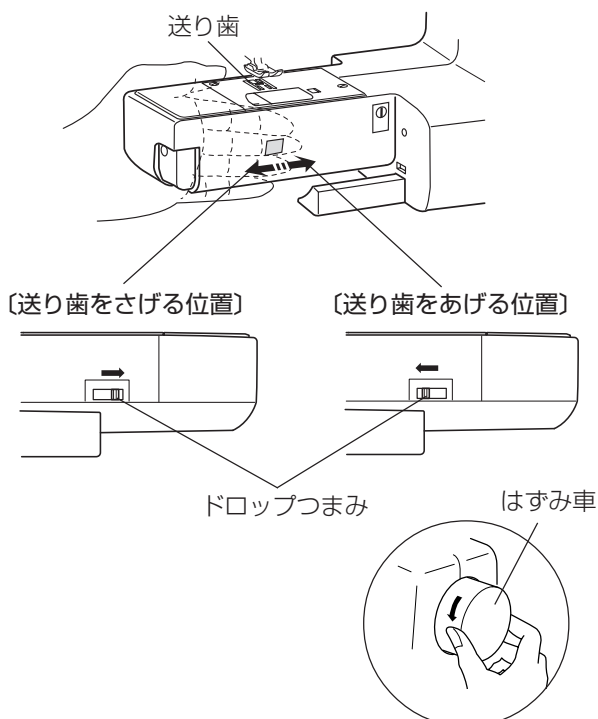
小さな数字ほど押さえ圧は弱くなります。

- ・薄物地は「1」～「3」
- ・普通地は「3」～「6」
- ・厚物地は「5」～「6」

を目安に合わせます。

また、伸縮性の布地をぬうときやアップリケなどぬいしる部分が重なりあうものをカーブしてぬうときなど、ぬいずれしやすい場合は弱めの「1」～「3」に合わせます。

## ●送り歯のさげ方

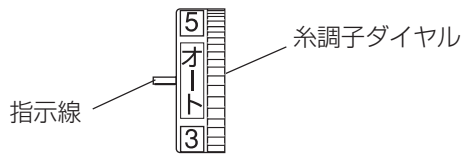


ボタン付けなどのときは、ドロップつまみを「送り歯をさげる位置」にセットして送り歯をさげます。

※ 送り歯をさげたときは、使用する模様のぬい目のあらかさを、ぬい目のあらかさ調節キーで最小値に設定してください。

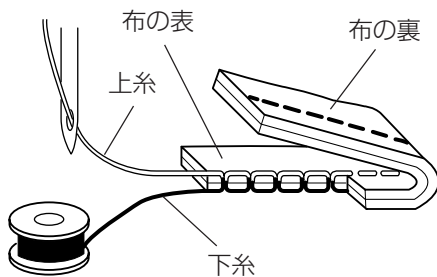
※ 送り歯をさげた場合、ぬいが終わったらドロップつまみを「送り歯をあげる位置」にもどし、手ではずみ車を手前にまわして送り歯があがることを確認してください。

## ●糸調子の合わせ方

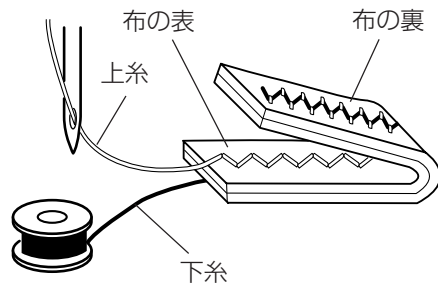


### 【バランスのとれた糸調子】

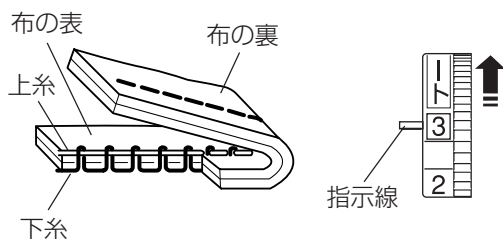
#### 《直線ぬいの例》



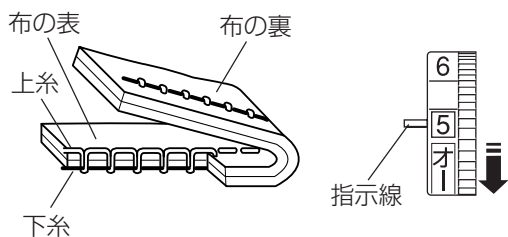
#### 《ジグザグぬいの例》



### 【上糸が強すぎる時】



### 【上糸が弱すぎる時】



## ★自動糸調子

通常は、糸調子ダイヤルの「オート」を指示線に合わせると、上糸と下糸がバランス良くぬえるように自動セットされます。

※ 糸や布の種類によって「オート」の位置で糸調子のバランスがとれないときや、特殊なぬい方をする模様の場合は、糸調子ダイヤルをまわして調節します。  
(下記「マニュアル糸調子」参照)

※糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

### 【バランスのとれた糸調子】

直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

## ★マニュアル糸調子

糸や布の種類によって「オート」の位置で糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルをまわして調節します。

### 【上糸が強すぎる時】

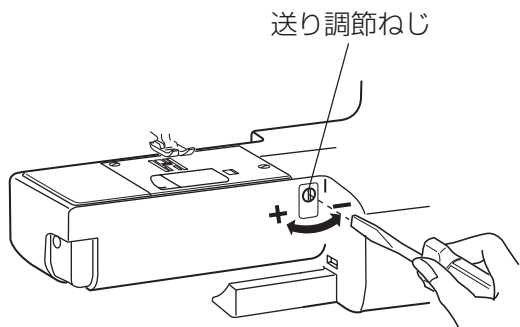
下糸が布の表に引き出されます。  
糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

### 【上糸が弱すぎる時】

上糸が布の裏に引き出されます。  
糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。



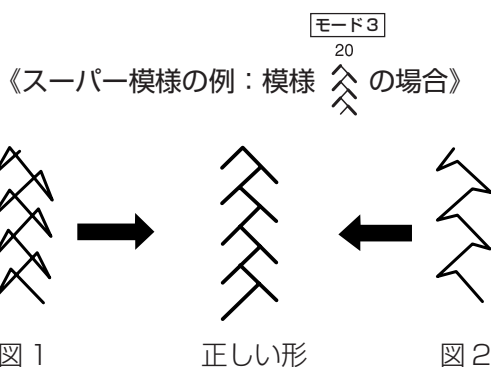
## ● 模様形の整え方



ぬいの条件によっては模様形がくずれて正しい形でぬえない場合があります。

実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをし、模様形がくずれている場合は送り調節ねじで調節してください。

補助テーブルを外すと、送り調節ねじの調節ができます。

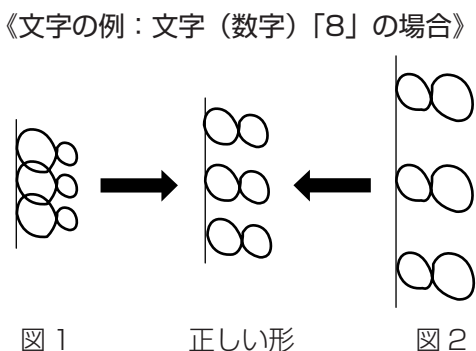


### 【スーパー模様の形の整え方】

※ スーパー模様とは、前進ぬいと後進ぬいが組み合わされている模様です。

図1のように模様がつまっているときは、送り調節ねじを「+」方向にまわします。

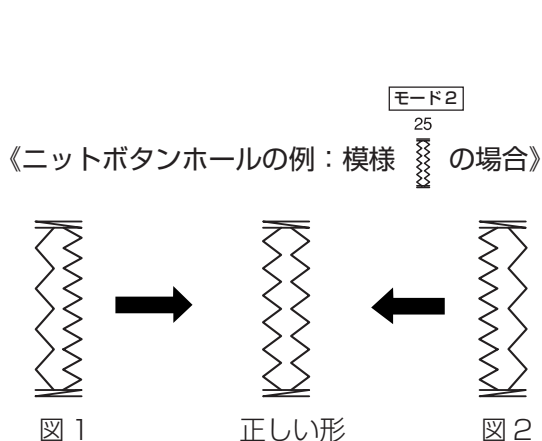
図2のように模様が伸びているときは、送り調節ねじを「-」方向にまわします。



### 【文字の形の整え方】

図1のように文字がつまっているときは、送り調節ねじを「+」方向にまわします。

図2のように文字が伸びているときは、送り調節ねじを「-」方向にまわします。



### 【ニットボタンホール の左右のぬい目のあらかの整え方】

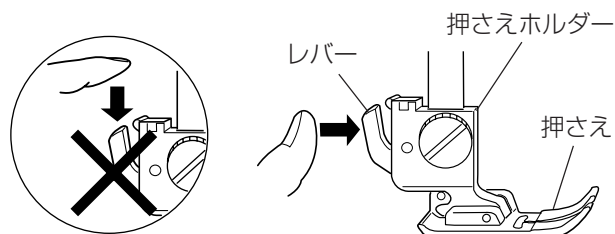
図1のように左側があらいときは、送り調節ねじを「+」方向にまわします。

図2のように右側があらいときは、送り調節ねじを「-」方向にまわします。

## ●押さえの外し方、付け方

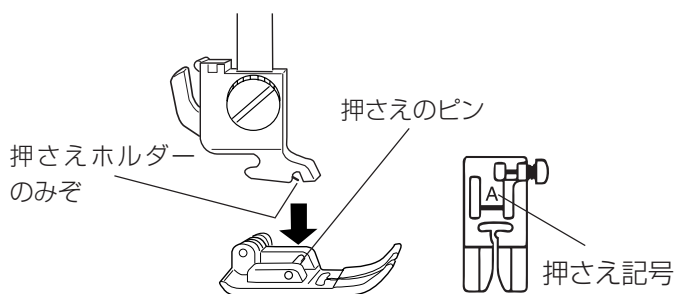
### ⚠ 注意

- 押さえの取り外し、取り付けは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。
- 押さえは模様にあったものをご使用ください。押さえが合っていないと、針が押さえにあたり、けがの原因になります。



### 【押さえの外し方】

- ① はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをあげます。
  - ② 押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押し、押さえを外します。
- ※ レバーを上から押さないでください。故障の原因になります。



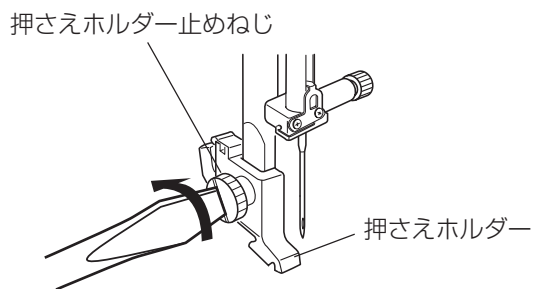
### 【押さえの付け方】

- 押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下において、押さえ上げをさげます。
- ※ 押さえは、模様にあったものを使用してください。押さえには記号が付いています。

## ●押さえホルダーの外し方、付け方

### ⚠ 注意

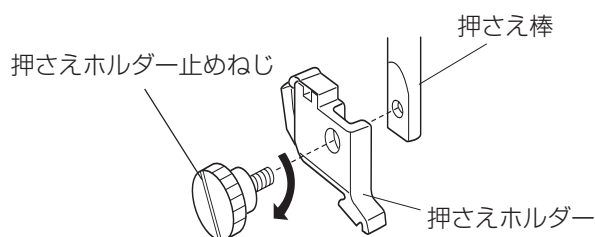
押さえホルダーの取り外し、取り付けは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。



- ※ 押さえホルダーはミシンのお手入れなどのときに外します。

### 【押さえホルダーの外し方】

- はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをあげます。
- 押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。



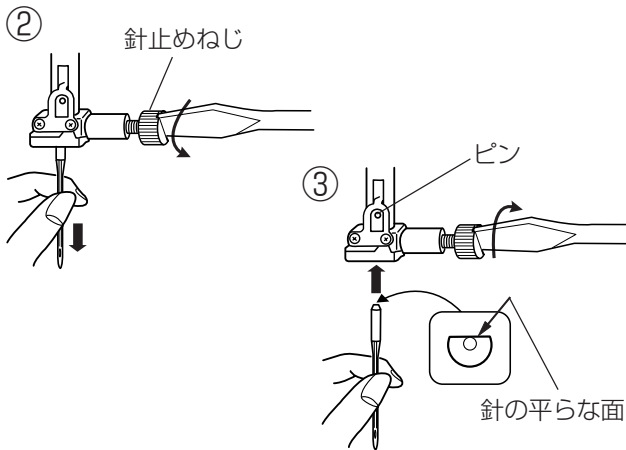
### 【押さえホルダーの付け方】

- 押さえ棒に押さえホルダーを取り付け、押さえホルダー止めねじを右にまわして固定します。

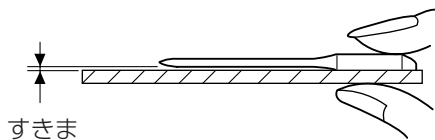
## ●針の取りかえ方

### ⚠ 注意

針の取りかえは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがの原因になります。



- ① はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをさげます。
  - ② 針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。
  - ③ 針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをドライバーでしっかりしめます。
- ※ 正しく針が付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。



### 【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

## ●布に適した糸や針を選ぶ目安

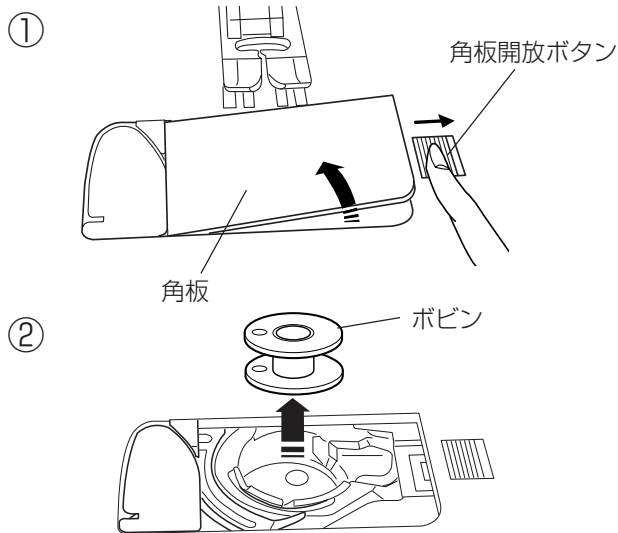
布の種類		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90番	9番～11番 またはブルー針
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール地	絹糸 50番 綿糸 60番 ポリエステル、ナイロン 50番～90番	11番～14番 またはブルー針
		綿糸 50番	14番
厚い布	デニム ツイード コート地	絹糸 50番 綿糸 40番～50番 ポリエステル 40番～50番	14番～16番
		ポリエステル 30番 綿糸 30番	16番

※ 一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に糸と針を選び、試しぬいをして確かめてください。

※ 通常は、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※ 伸縮性のある布（ジャージー、トリコット等）など目とびしやすい布地は、付属のブルー針〔11番〕（柄の部分が青色の針）を使用すると目とび防止効果があります。（市販SP針も同様の効果があります。）

## ●下糸の準備



※ ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

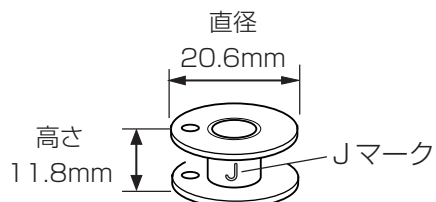
### ★ボビンを取り出します

① 角板開放ボタンを右へずらして角板を外します。

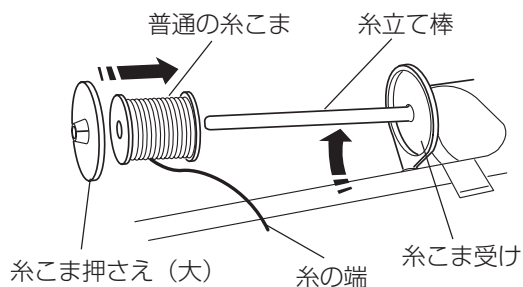
② ボビンを取り出します。

#### お願い

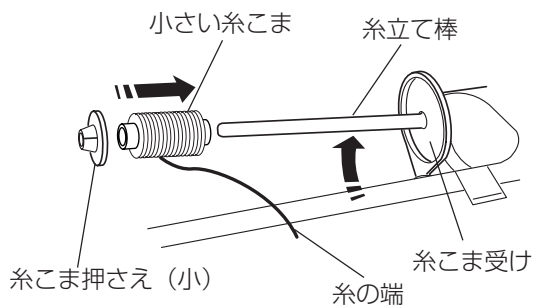
ボビンは当社専用のJマーク付きのプラスチックボビンをおすすめします。  
(お買い上げの販売店へご相談ください。)



#### 《通常の糸こまの場合》



#### 《小さい糸こまの場合》



### ★糸こまをセットします

糸立て棒を軽くおこし、糸の端が糸こまの下から手前になるように糸こまを向けて糸立て棒に入れ、糸こま受けにつきあてます。

糸こま押さえを押しつけて、糸こまを押さえます。

糸立て棒をもとにもどします。

※ 普通の糸こまには糸こま押さえ (大) を、小さい糸こまには糸こま押さえ (小) を使います。

### ★補助糸立て棒の利用

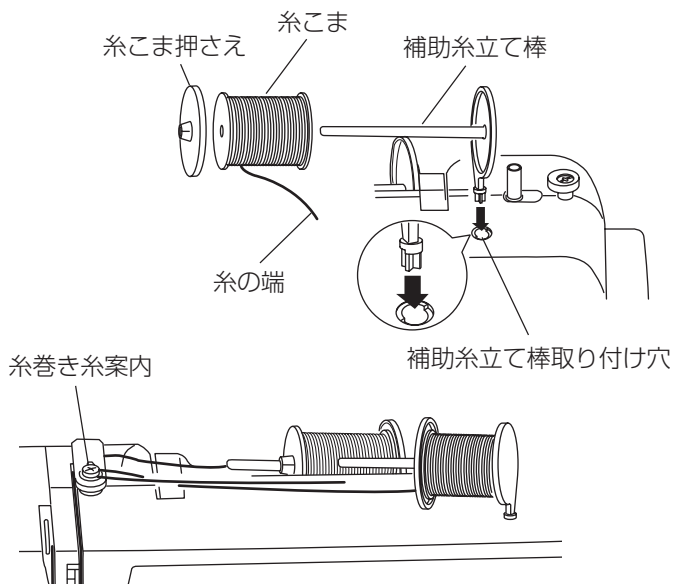
付属の補助糸立て棒は、ミシンに付いている糸立て棒に糸こまをセットした状態のまま別の糸こまで糸巻きをするときや、二本針ぬいどきなどに利用できます。

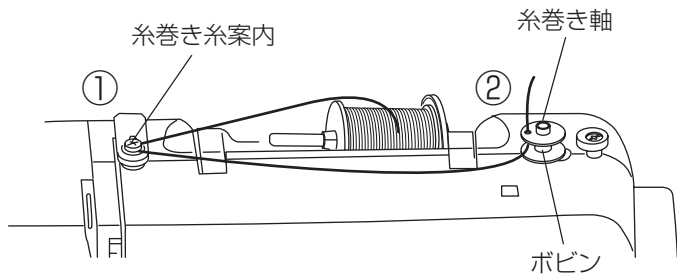
補助糸立て棒の先端を糸巻き糸案内の方に向けて、補助糸立て棒取り付け穴に差し込みます。

(正しい位置に差し込んだ場合、補助糸立て棒は回転しないで固定されます。)

糸こまの向きや固定方法は、上記「糸こまをセットします」と同じです。

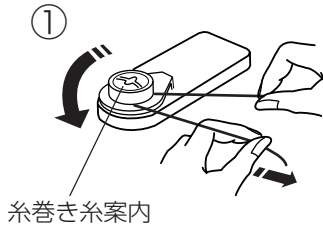
※ ミシンカバーなどに収納するときは、補助糸立て棒は外しておいてください。



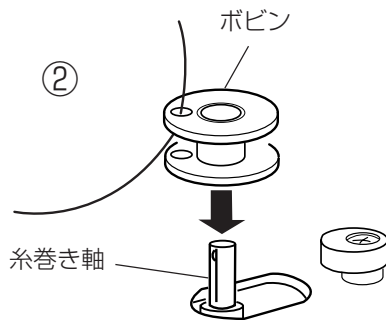


## ★ボビンに糸を巻きます

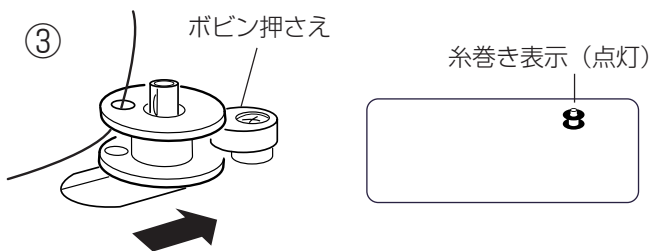
※ 糸巻きのときは、スピードコントロールつまみを最高速（いちばん右側の位置）にセットしてください。



① 糸こま側の糸を押さえ、糸巻き糸案内に、うしろ側から手前にまわして矢印方向に引いてかけます。

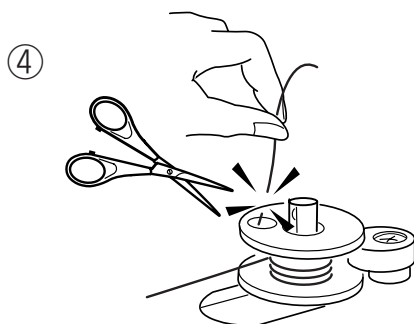


② ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

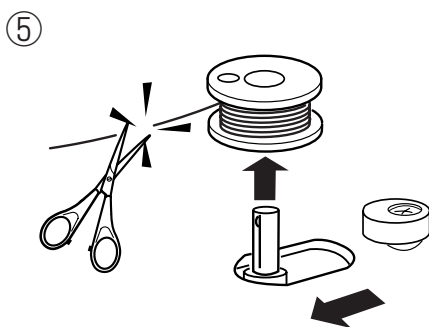


③ ボビンをボビン押さえの方に押しつけます。

※ 表示画面の糸巻き表示が点灯します。



④ 糸の端をつまんだままミシンをスタートして、ボビンに糸が3重ほど巻きついたらミシンを止め、つまんでいる糸をボビンのきわで切ります。



⑤ 再びミシンをスタートします。

ボビンの回転が止まって巻き終わったら、ミシンを止めます。

糸巻き軸をもどし、糸巻き軸からボビンを外して糸を切ります。

※ 糸巻き軸は、必ずミシンを止めてからもどしてください。

※ 安全のために、糸巻きはミシンがスタートしてから約90秒で自動停止します。

## ★ボビンを内がまにセットします

### ⚠ 注意

ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。

① 糸の端がボビンのうしろ側から矢印方向に出るように向けて（糸が左巻き）、ボビンを内がまに入れます。

※ ボビンから引き出される糸の状態の図が角板に表示されています。

② ボビンが回転しないように、右手でボビンを軽く押さえます。

左手で糸の端を持ち、内がまの手前のみぞにかけ、さらに手前のつもの下をくぐらせます。

※ 糸を各部に確実にかけるために、下記手順④が終了するまで、右手でボビンを押さえた状態で行ってください。

③ つもの下をくぐらせた糸を矢印1の方向に引きあげて、矢印1の右側のみぞに入れます。

※ 手順②で、内がまの手前のみぞに糸がかかっていないと、内がまの板ばねのあいだに糸が入らず、ボビンから直接矢印1の右側のみぞに通ってしまいます。

(図【B】参照)

その場合は手順②からかけ直してください。

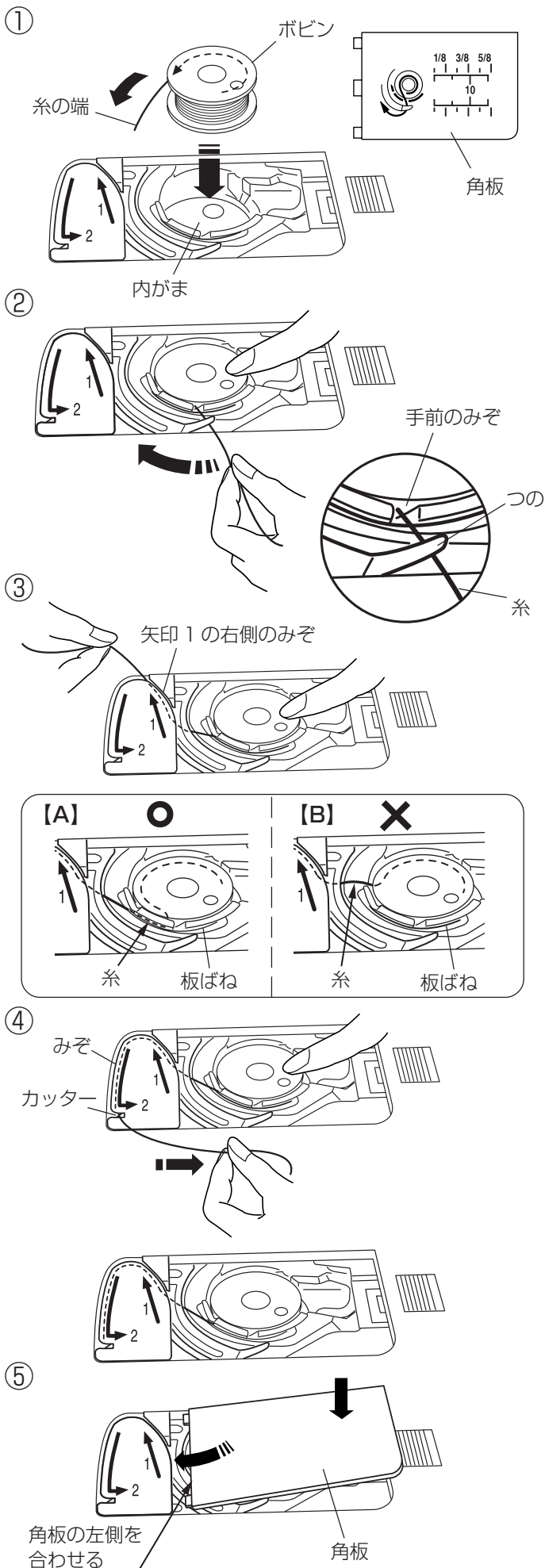
正しくかけられていないと、ぬい不良の原因になります。

④ そのままみぞにそって矢印2の方向に糸を通し、下側のカッターにかけてから右に水平に引いて糸を切ります。

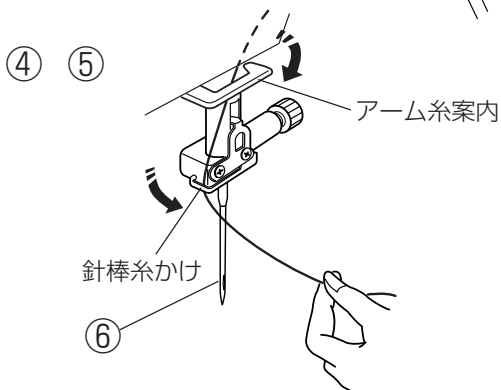
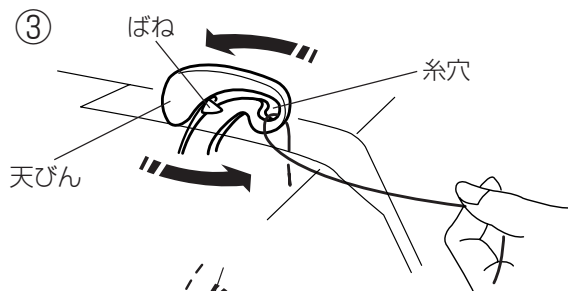
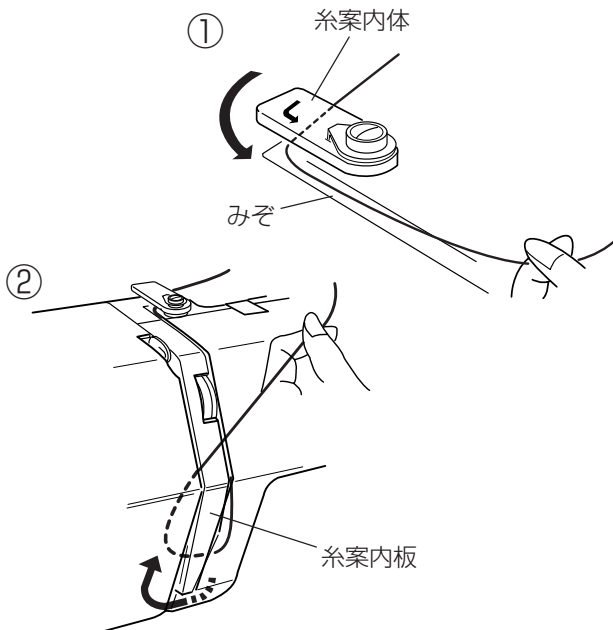
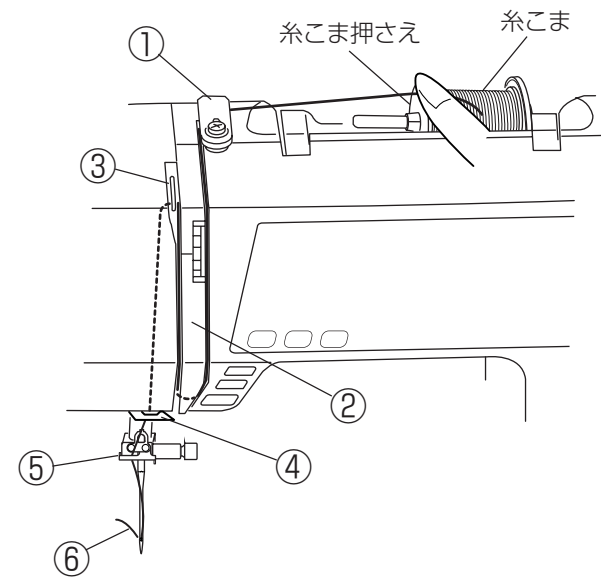
⑤ 角板を左側から合わせて取り付けます。

※ 通常は、下糸はこの状態のままぬい始めることができます。

ぬい始めに下糸を針板の上に引き出す必要があるときは、「●上糸の準備／★下糸を針板の上に引き出す場合」(23ページ)をごらんください。

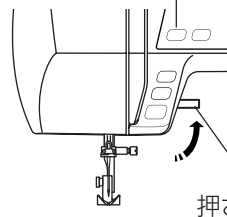


## ●上糸の準備



## ★上糸をかけます

### 【準備】上下停針ボタン



1. 押さえ上げをあげます。
2. 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを押して針と天びんを上にあげます。
3. 電源スイッチを切ります。

### ⚠ 注意

上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。

※ 糸こまが外れるのを防ぐため、必ず糸こま押さえを使用してください。

※ 上糸をかけるときは、必ず押さえ上げをあげてかけてください。  
押さえ上げがあがっていないと糸が正しくかけられないで、ぬい不良の原因になります。

① 糸こまから糸を引き出し、糸こま側の糸を軽く押さえながら糸案内体の下に巻きつけるようにつまみ、みぞにそって手前に糸を引き出します。

② 糸案内板の下をまわし、左上に引きあげます。

③ 右手で糸こま側の糸を押さえながら、天びんの右からうしろへまわして手前に引き、ばねを通過させて糸穴に入れ、まっすぐ下におろします。

④ アーム糸案内に右からかけます。

⑤ 針棒糸かけに左からかけます。

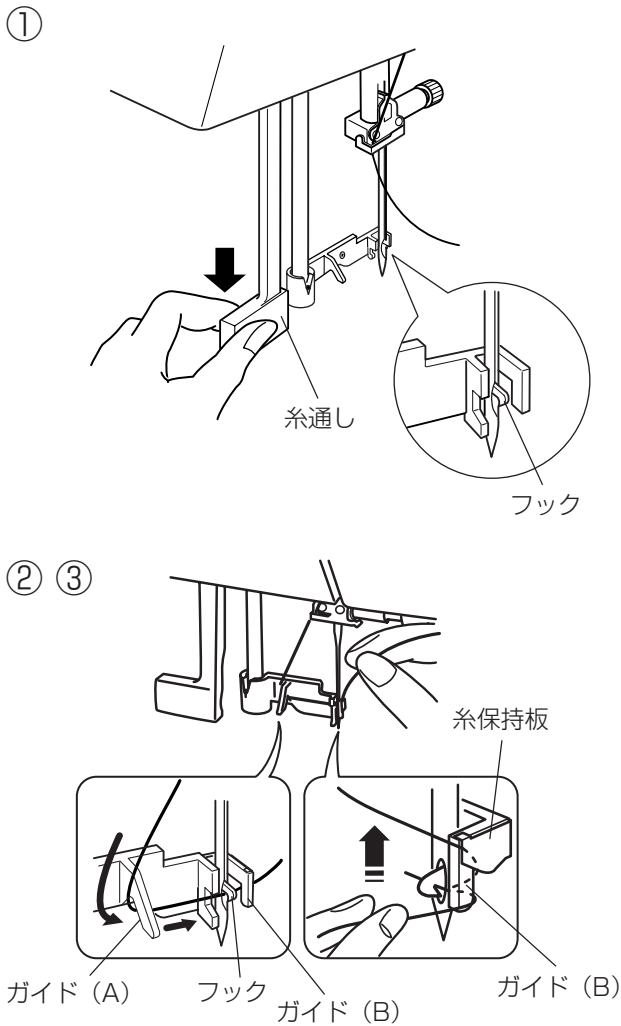
⑥ 糸通しを使って針に糸を通します。  
(糸通しの使い方は22ページをごらんください。)

## ★糸通しの使い方

### ⚠ 注意

糸通しを使うときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。

- ※ 針は、11番～16番  
糸は、50～90番が使用できます。
- ※ 二本針のときは、糸通しは使えません。



- ① 上糸かけのときに上下停針ボタンで針をあげた状態のまま、押さえ上げをさげます。  
糸通しを止まるまで引きさげます。

- ※ 糸通しが止まった位置で、針穴にフックが入っています。

- ② 糸をガイド (A) の左側から下にまわしてガイド (B) にかけます。

- ※ 糸はフックの下を通ります。

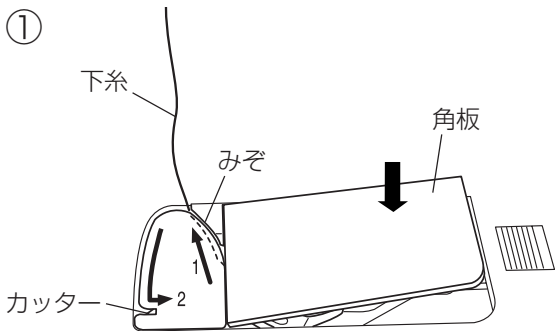
- ③ ガイド (B) にかけた状態で糸を手前にまわし、そのままガイド (B) の側面にそって上に引きあげ、糸保持板にはさみ込みます。

- ④ 糸通しを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

- ⑤ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に引いて、針穴から糸の端を引き出します。

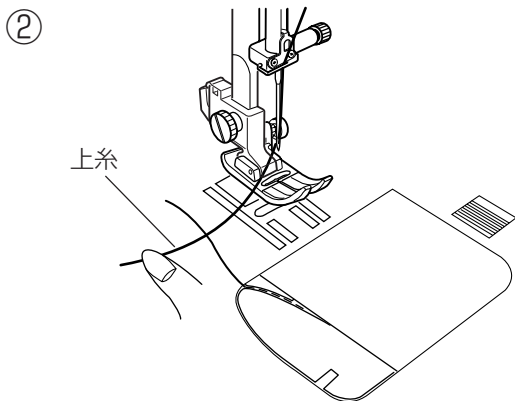


## ● 下糸を針板の上に引き出す場合

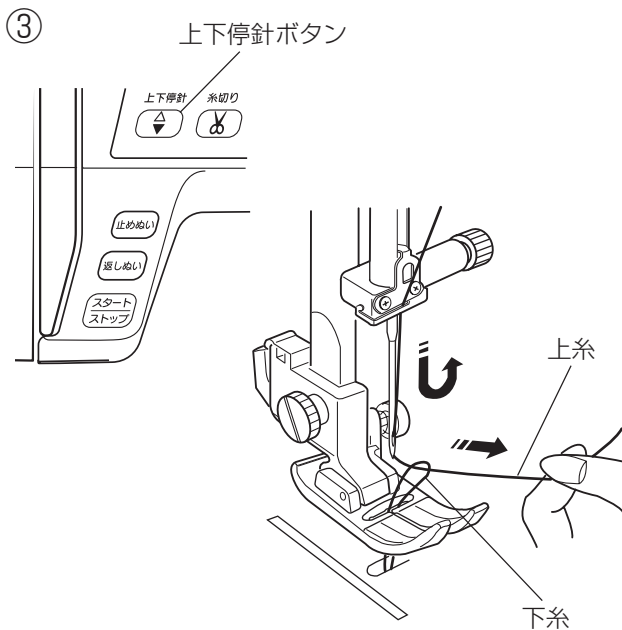


ギャザーやスモッキングなどをぬう場合のように、ぬい始めの下糸を長くする必要のあるときだけ、下記手順①～④の方法で下糸を針板の上に引き出してください。

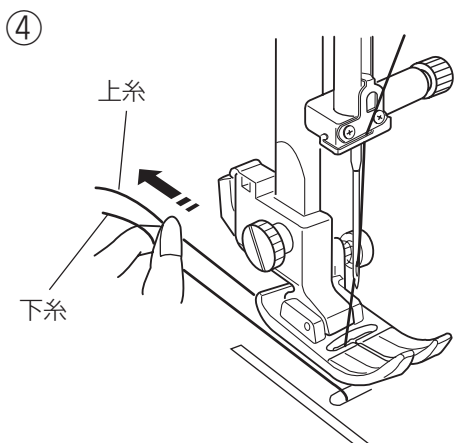
① 「●下糸の準備／★ボビンを内がまにセットします」手順①～③（20ページ）と同じ方法で下糸を矢印1の方向に引きあげてみぞに入れたら、そのまま10cmほど向こう側に引き出して、角板を取り付けます。



② 針に上糸を通し、押さえ上げをあげた状態で、上糸の端を指で押さえておきます。



③ 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを押して針をさげ、もう一度押して針をあげます。  
上糸を軽く引くと下糸の輪が引き出されます。

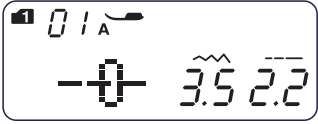




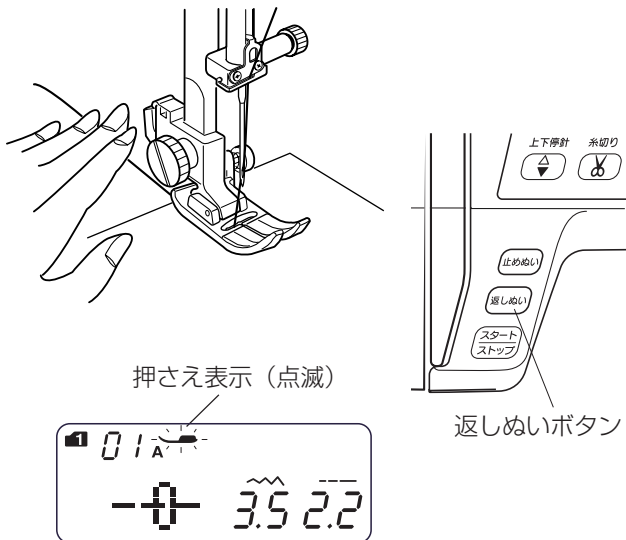
④ 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約10cmほど引き出して、そろえておきます。

# ◎実用ぬい

## ●直線ぬい

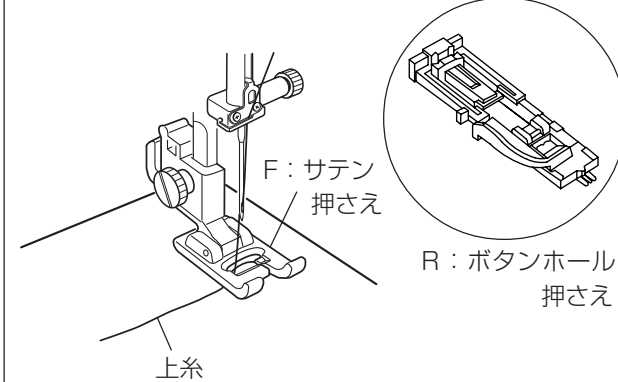
### ミシンのセット

表示画面 	模様 01 --- 巾 (モード1、2)	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	----------------------------------	---	---



### 【ぬい始め】

- ① 上糸を押さえの下から向こう側に引き出した状態で布を入れ、糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして最初のぬい位置に針をさします。  
※ 通常、内がまにボビンをセットしたあとや、糸切りボタンを使用して糸を切ったあとのぬい始めは、下糸は針板の上に引き出す必要はありませんが、上糸は必ず、向こう側に引いて、押さえで押さえてください。
- ② 押さえ上げをさげて、ぬい始めます。  
※ スタート/ストップボタンを押したとき、表示画面の押さえ表示が点滅したときは、押さえ上げをさげてからスタートします。  
※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいボタンを押します。

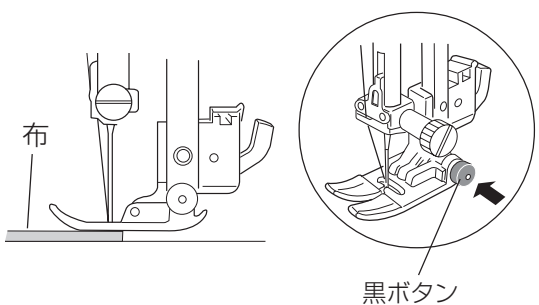


### ぬい始めの糸の引き出し方

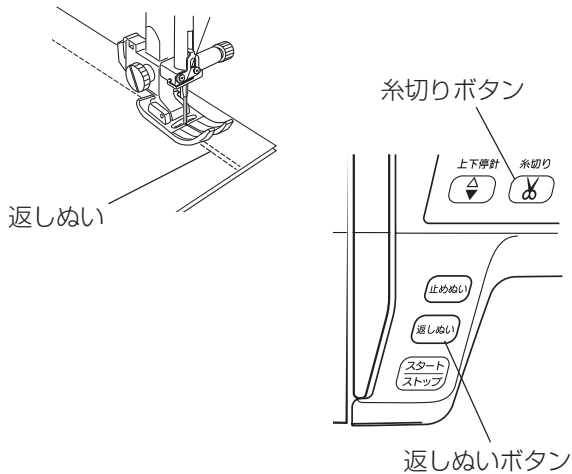
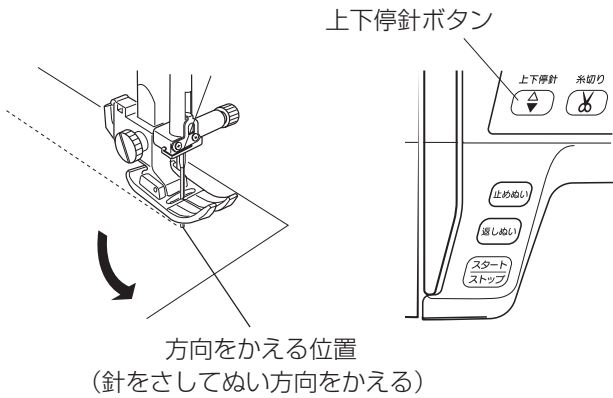
通常は、ぬい始めの上糸は押さえの向こう側に引き出して、押さえで押さえます。

ただし、F：サテン押さえやR：ボタンホール押さえなど押さえの裏側の前後方向（縦方向）がへこんでいて押さえ面がない押さえは、ぬい始めの糸は横方向に引き出して、押さえで押さえてください。

### 【厚手の布端のぬい始め】





- ① 最初のぬい位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。
- ② 黒ボタンを押したまま押さえ上げをさげます。
- ③ 黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。  
※ 黒ボタンを押した状態で押さえ上げをさげると押さえが水平に固定され、段部をスムーズにぬい始めることができます。  
ぬい始めると黒ボタンがもどり、押さえはもとの自由に動く状態になります。

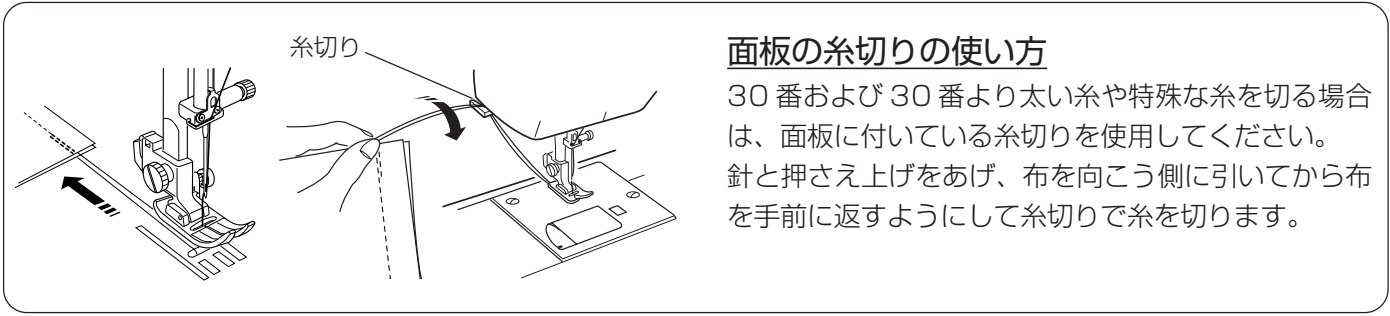


### 【ぬい方向をかえるには】

- ① 布の方向をかえる位置まできたらミシンを止めます。
- ② 布に針がささっていない場合は、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。
- ※ 通常はミシンを止めると、針が布にささった状態になっています。
- ③ 針を布にさしたままぬい方向をかえます。
- ④ 押さえ上げをさげて、ぬい始めます。
- ※ ぬい位置がずれなくて、きれいにぬうことができます。

### 【ぬい終わり】

- ① ぬい終わりの位置で、返しぬいボタンを押して数針返しぬいを行い、ミシンを止めます。
  - ② 糸切りボタンを押して糸を切ります。
  - ※ 針が布にささったままの状態でも、糸切りボタンを押すと針は上の位置に移動します。
  - ③ 押さえ上げをあげて布を向こう側に引き出します。
  - ※ ぬい始めとぬい終わりのほつれ止めを自動的に行う自動返しぬい模様  と自動止めぬい模様  があります。
- 27、28 ページをごらんください。



### ■ 面板の糸切りの使い方

30 番および 30 番より太い糸や特殊な糸を切る場合は、面板に付いている糸切りを使用してください。針と押さえ上げをあげ、布を向こう側に引いてから布を手前に返すようにして糸切りで糸を切ります。

### ★ 針板ガイドの使い方

針板には、布のぬい位置を決めるための便利なガイドがいろいろ表示されています。

#### 【ガイドライン】

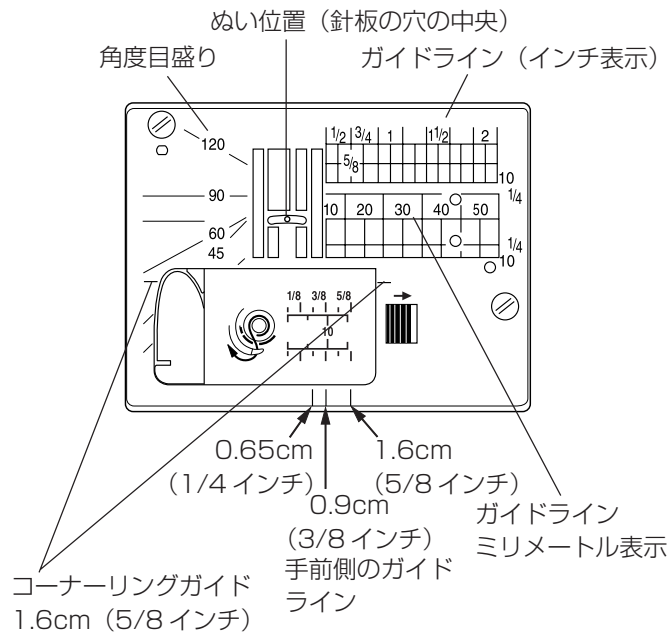
布端を針板のガイドラインに合わせてぬうと、布端から正確な位置にぬうことができます。

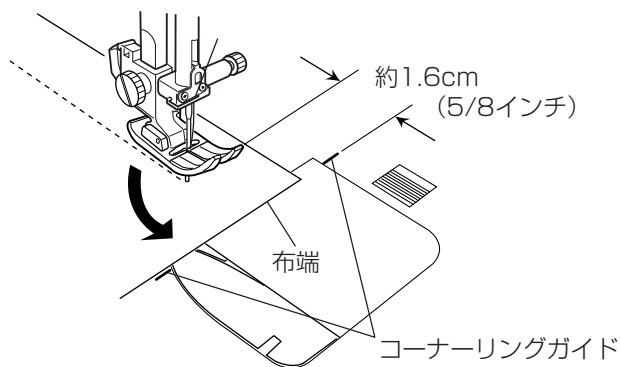
ガイドラインの数字は、ぬい位置（針板の穴の中央）からガイドラインまでの距離を「ミリメートル」と「インチ」で表示しています。

#### 【角度目盛り】

角度目盛りは、パッチワークのピース作りに使うと便利です。パッチワーク布（ピース）の角度と同じ角度目盛りに布端を合わせると、しるしなしでぬいしろ 0.65cm (1/4 インチ) のぬい始めの位置を決めることができます。

★ 使い方は、「◎ パッチワーク／キルト／● 針板角度目盛りの利用」(58 ページ) をごらんください。





## 【コーナーリングガイドの利用】

布端から1.6cm (5/8インチ) のところで直角にぬい方向をかえるときに利用します。(ぬい方向をかえたあと布端から1.6cmの位置でぬう場合)

- ① 布端がコーナーリングガイドのところに来たらミシンを止めます。
- ② 針を布にさした状態で、押さえ上げをあげ、布を直角に回転させます。(布端が針板右側のガイドラインの1.6cm (5/8インチ) の位置に合います。)
- ③ 押さえ上げを下げ、ミシンをスタートします。

## ★直線模様の針位置をかえるとき

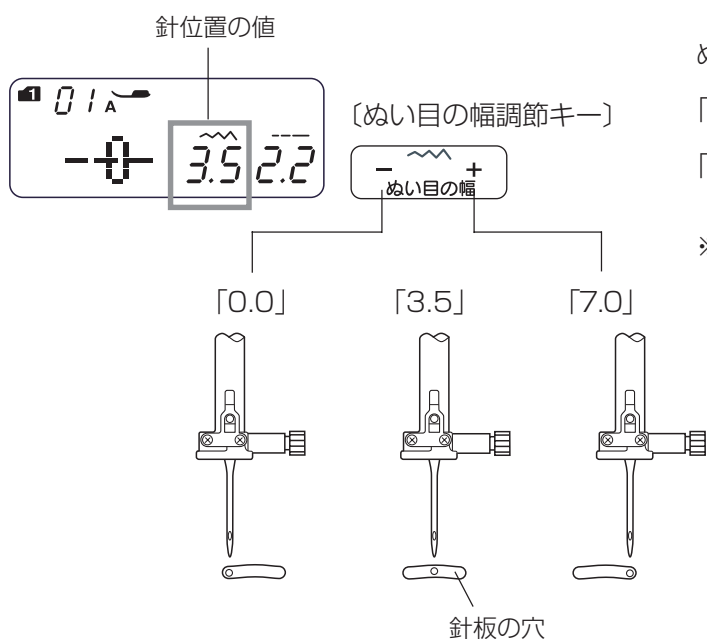
ぬい目の幅調節キーで針位置をかえることができます。

「-」を押すと針が左へ移動します。

「+」を押すと針が右へ移動します。

※ 表示画面の数値は、左針位置からの距離の目安をミリメートルで示しています。

左針位置が0.0、中央針位置が3.5、右針位置が7.0になります。



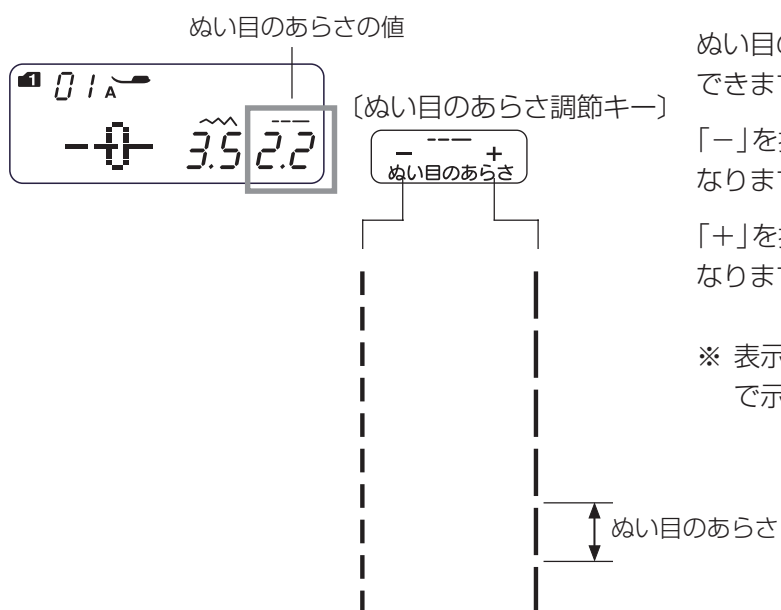
## ★ぬい目のあらしをかえるとき

ぬい目のあらし調節キーでぬい目のあらしをかえることができます。

「-」を押すと表示される数値が小さくなり、ぬい目が細くなります。

「+」を押すと表示される数値が大きくなり、ぬい目があらかくなります。

※ 表示画面の数値は、ぬい目のあらしの目安をミリメートルで示しています。



## ●その他の直線状模様

### 【直線ぬい】

#### ミシンのセット

表示画面	模様	押さえ	糸調子ダイヤル

端ぬいや、薄物ぬいに使います。

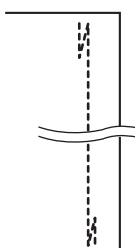
### 【自動返しぬい】

#### ミシンのセット

表示画面	模様	押さえ	糸調子ダイヤル



返しぬいボタン



ぬい始めとぬい終わりにしっかりしたほつれ止め(返しぬい)を自動的に行うときに使います。

#### 【ぬい始め】

ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に数針返しぬいを行います。

#### 【ぬい終わり(スタート/ストップボタン使用時)】

ぬい終わりの位置にきたらミシンを止め(または運転したまま)、返しぬいボタンを一度押します。

その位置から自動的に数針返しぬいを行ってミシンが止まります。

#### 【ぬい終わり(フットコントローラー使用時)】

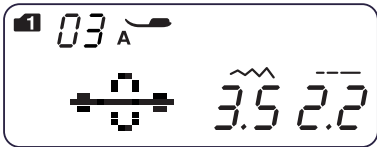

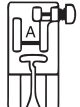

ぬい終わりの位置にきたらミシンを止め(または運転したまま)、返しぬいボタンを一度押します。

ミシンを止めてボタンを押した場合は、再度フットコントローラーを踏むと、その位置から自動的に数針返しぬいを行ってミシンが止まります。

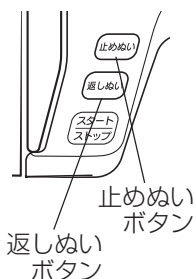
運転したままボタンを押した場合も、その位置から自動的に数針返しぬいを行ってミシンが止まります。

## 【自動止めぬい】

### ミシンのセット

表示画面 	模様 03  (モード 1、2)	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	--	---	---

ぬい始めとぬい終わりに目立たないほつれ止め（止めぬい）を自動的に行うときに使います。



### 【ぬい始め】

ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に数針止めぬいを行います。

### 【ぬい終わり（スタート/ストップボタン使用時）】

ぬい終わりの位置にきたらミシンを止め（または運転したまま）、止めぬいボタンまたは返しぬいボタンを一度押します。

その位置で自動的に数針止めぬいを行ってミシンが止まります。

### 【ぬい終わり（フットコントローラー使用時）】

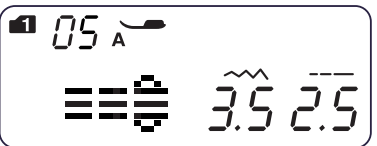

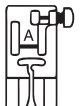

ぬい終わりの位置にきたらミシンを止め（または運転したまま）、止めぬいボタンまたは返しぬいボタンを一度押します。

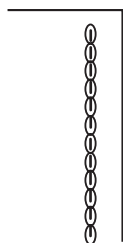
ミシンを止めてボタンを押した場合は、再度フットコントローラーを踏むと、その位置で自動的に数針止めぬいを行ってミシンが止まります。

運転したままボタンを押した場合も、その位置で自動的に数針止めぬいを行ってミシンが止まります。

## 【三重ぬい】

### ミシンのセット

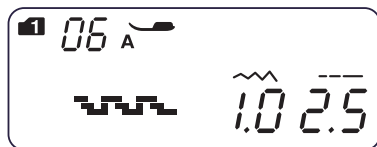
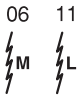
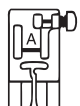

表示画面 	模様 05  (モード 1、2)	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	--	---	---

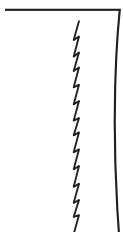


厚い布やニット地の地ぬい、補強ぬいに使います。

## 【伸縮ぬい】

### ミシンのセット

表示画面 	模様 06 11  (モード 1、2)	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	---	---	---



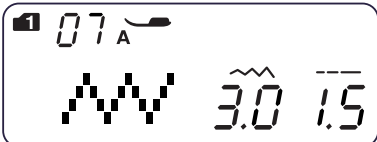



ニット地のぬい合わせに使います。

布が伸びても糸が切れにくい伸縮性のあるぬい目です。


※模様 <sup>11</sup> は、うす地のニット地に使用します。

# ●ジグザグぬい

## ミシンのセット

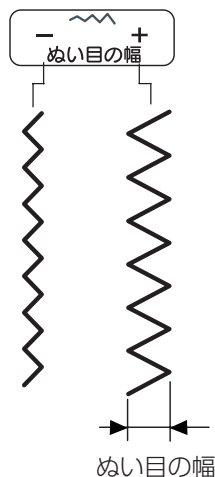
表示画面 	模様 07 12  (モード 1、2)	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	---	---	---

### 【1】



ぬい目の幅の値

〔ぬい目の幅調節キー〕



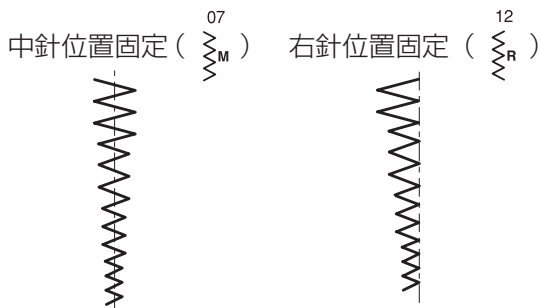
### 【1】ぬい目の幅をかえるとき



ぬい目の幅調節キーでぬい目の幅をかえることができます。

「-」を押すと表示される数値が小さくなり、ぬい目の幅がせまくなります。


「+」を押すと表示される数値が大きくなり、ぬい目の幅が広くなります。

※ 表示画面の数値は、ぬい目の幅の目安をミリメートルで表示しています。



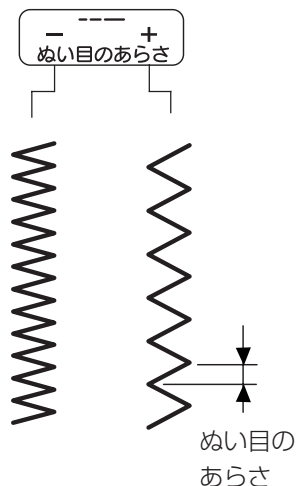
※ 模様  は中針位置が固定で、ぬい目の幅を変更すると中央を基準に左右に幅が変化します。  
模様  は右針位置が固定で、右側を基準に左に幅が変化します。

### 【2】



ぬい目のあらかさの値

〔ぬい目のあらかさ調節キー〕



### 【2】ぬい目のあらかさをかえるとき

ぬい目のあらかさ調節キーでぬい目のあらかさをかえることができます。

「-」を押すと表示される数値が小さくなり、ぬい目のあらかさが細かくなります。

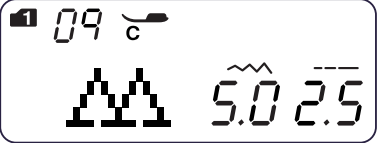

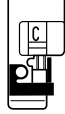

「+」を押すと表示される数値が大きくなり、ぬい目のあらかさがあらかくなります。

※ 表示画面の数値は、ぬい目のあらかさの目安をミリメートルで表示しています。

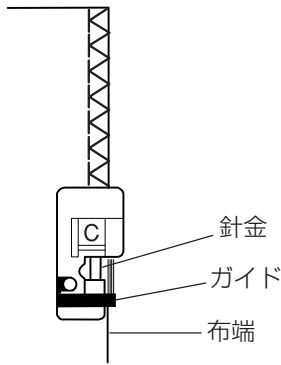
## ●かがりぬい

### 【かがりぬい1】

#### ミシンのセット

表示画面 	模様 09  (モード1、2)	押さえ 	糸調子ダイヤル オート 
---	---	--	---

C：たち目かがり押さえ



地ぬいをかねたかがりぬいで、たち目のほつれ止めに使います。

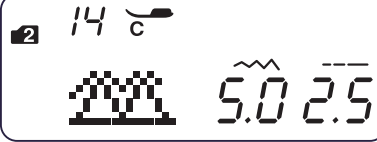

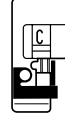

布端を押さえのガイドにあててぬいます。

※ ぬい目の幅は、4.5～7.0のあいだで変更できます。

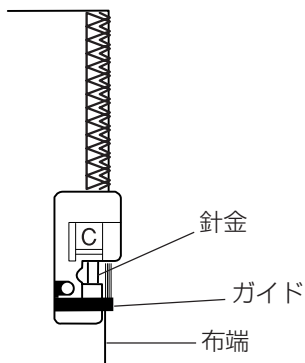
※ ぬう前に必ず押さえの針金に針があたらないことを確認してください。

### 【かがりぬい2】

#### ミシンのセット

表示画面 	模様 14  (モード2)	押さえ 	糸調子ダイヤル オート 
---	---	--	---

C：たち目かがり押さえ



普通の布や厚い布およびほつれやすい布のしっかりした布端をかがるときに使います。

布端を押さえのガイドにあててぬいます。





※ ぬい目の幅は、4.5～7.0のあいだで変更できます。

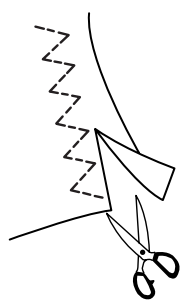
※ ぬう前に必ず押さえの針金に針があたらないことを確認してください。



## 【トリコットぬいのたち目かがり】

### ミシンのセット

表示画面 	模様 08  (モード1、2)	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	---	---	--







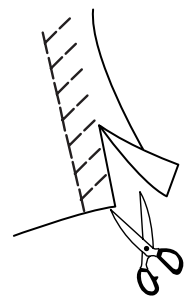
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに使います。

ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

## 【ニットステッチ】

### ミシンのセット

表示画面 	模様 13  (モード2)	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	---	---	--



ニット地のかがりぬいに使います。

ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

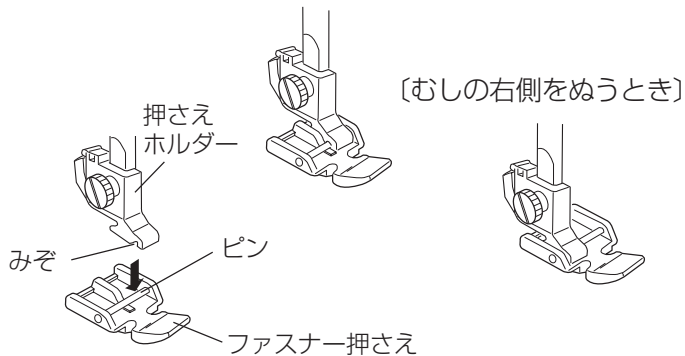
# ●ファスナー付け

## ミシンのセット

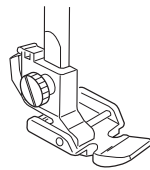
表示画面 	模様 01 --- 巾 (モード 1、2)	押さえ  A: 基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 
----------	-----------------------------------	---------------------	--------------------

### 【1】

〔むしの左側をぬうとき〕



〔むしの右側をぬうとき〕



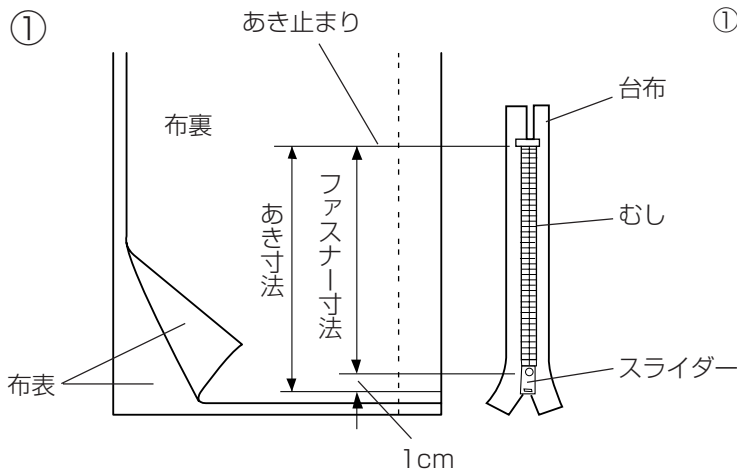
### 【1】ファスナー押さえの付け方

ファスナーのむしの左側をぬうときは、押さえの右側のピンを押さえホルダーにセットします。

むしの右側をぬうときは、押さえの左側のピンを押さえホルダーにセットします。

### 【2】

①

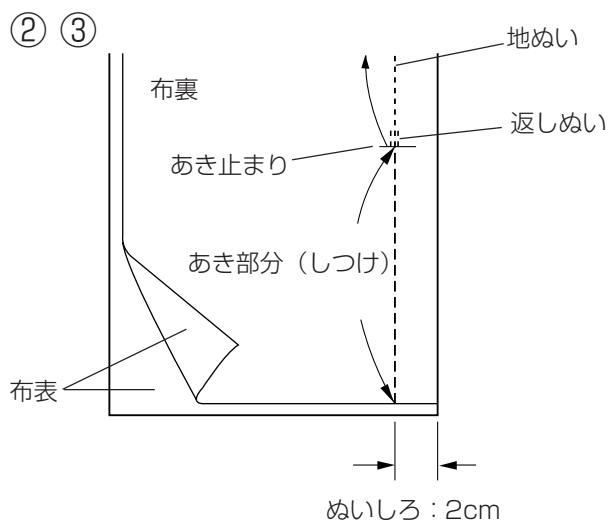


### 【2】準備 (例：左脇あきのぬい方)

① ファスナーのあき寸法を確かめます。

あき寸法はファスナー寸法に 1cm プラスした寸法です。

② ③



② 布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。

※ 地ぬいの部分は、A:基本押さえを使ってぬってください。

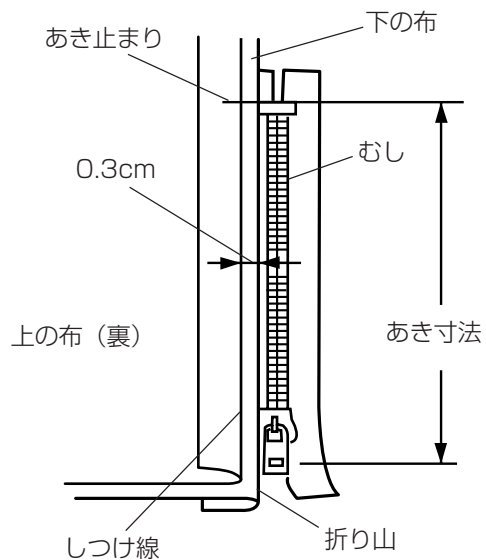
③ あき部分のしつけをします。

※ しつけは、ほどきやすくするために、ぬい目のあかさ「5.0」(約0.5cm)、糸調子「1」くらいでぬい(しつけ)ます。

しつけが終わったら、ぬい目のあかさおよび糸調子ダイヤルをもとの値にもどしてください。(糸調子ダイヤルは「オート」)

### 【3】

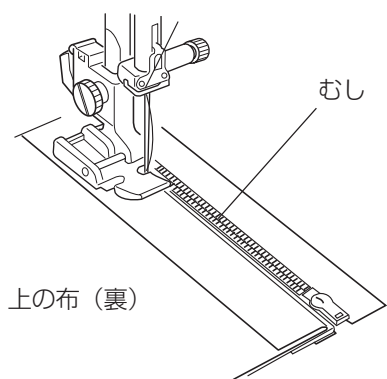
④



### 【3】 ぬい方

④ ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを0.3cm出してアイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

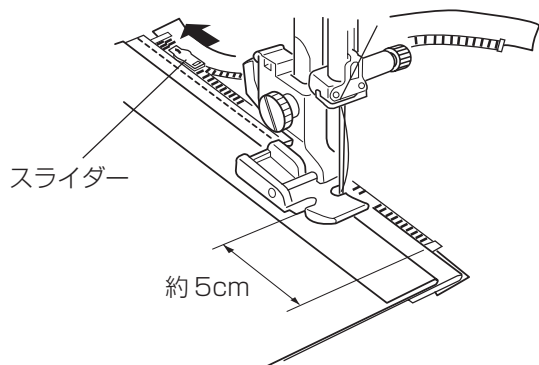
⑤



⑤ ファスナー押さえの右側のピンを押さえホルダーにセットし、むしのきわを押さえの端（右側段部）にあて、あき止まりからファスナーの左側をぬいます。

※ ぬい始めのほつれ止めは数針返しぬいをします。

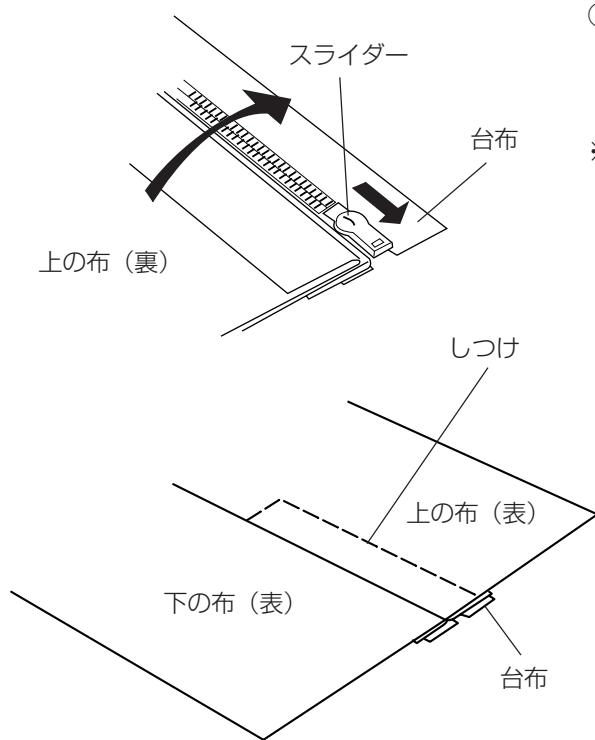
⑥



⑥ ファスナーの端から約5cmほど手前でミシンを止め、針を布にさした状態で押さえ上げをあげ、スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

※ ぬい終わりのほつれ止めは数針返しぬいをします。

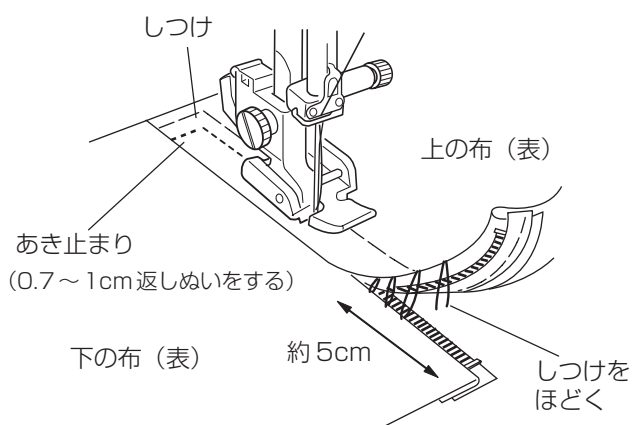
⑦



⑦ ファスナーをとじ、スライダーを上にしたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。

※ しつけはA：基本押さえを使用します。  
しつけは、ほどこきやすくするために、ぬい目のあかさ「5.0」（約0.5cm）、糸調子「1」くらいでぬい（しつけ）ます。  
しつけが終わったら、ぬい目のあかさおよび糸調子ダイヤルをもとの値にもどしてください。（糸調子ダイヤルは「オート」）

⑧

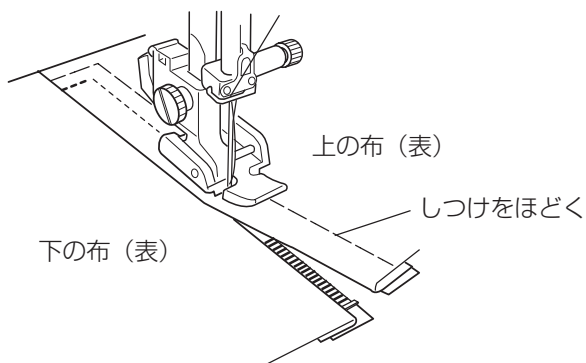


⑧ ファスナー押さえの左側のピンを押さえホルダーにセットします。

上の布のあき止まりを0.7～1cmほど返しぬいしてから、むしのきわを押さえの端（左側段部）にあて、ファスナーの右側をぬいます。

ファスナーの上側を5cmほど残したところでミシンを止め、針を布にさした状態で押さえ上げをあげ、準備の手順③でぬったしつけ糸をほどこきます。

⑨

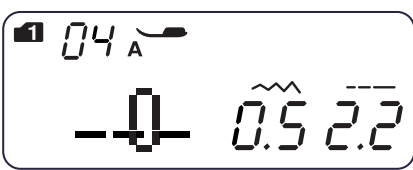
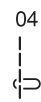




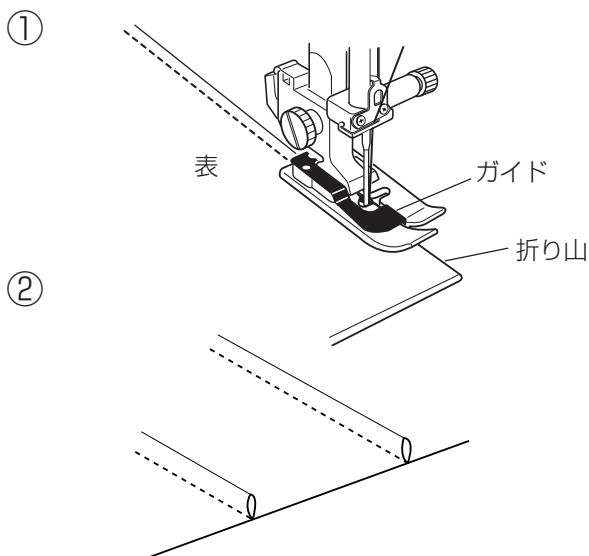
⑨ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

ぬい終わったらぬい方の手順⑦でぬったしつけ糸をほどこきます。

## ●ピンタック

### ミシンのセット

表示画面 	模様 04  (モード 1、2)	押さえ  G：まつりぬい押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	--	--	---

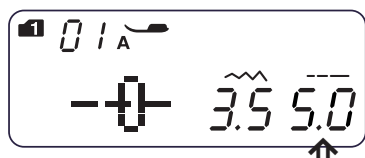

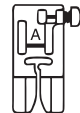
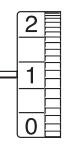


① 布の折り山をガイドに合わせてぬいます。

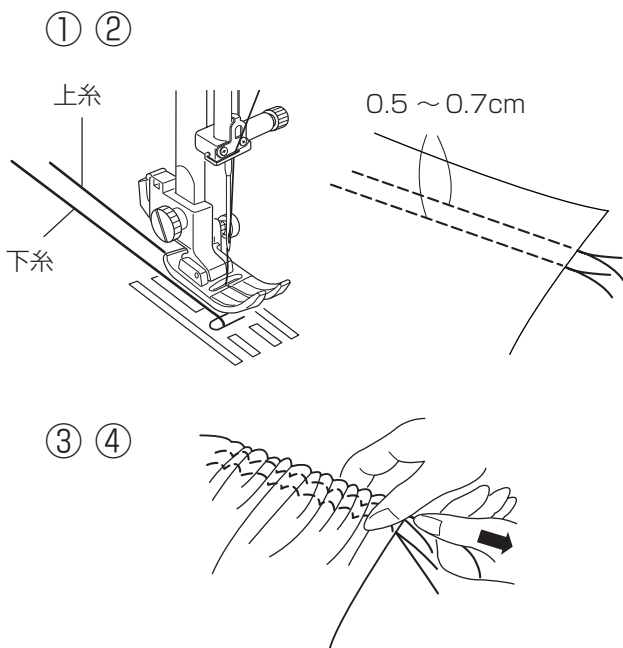
② ぬい終わったら片返しにして、アイロンで整えます。

## ●ギャザー

### ミシンのセット

表示画面 	模様 01  (モード 1、2)	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル 1 
---	--	---	---

※ぬい目のあらかさ調節キーでぬい目のあらかさを「4.0」～「5.0」にします。



① 上糸と下糸は、押さえの下から向こう側に10cmほど引き出しておきます。

※ 下糸を針板の上に引き出す方法は、「●上糸の準備／★下糸を針板の上に引き出す場合」(23ページ)をごらんください。

② 糸調子を弱く「1」して、ぬい目のあらかさが「4.0」～「5.0」の直線を0.5～0.7cm間かくで、2本平行にぬいます。

③ ぬい始めの糸を結んでから、ぬい終わりの下糸を2本一緒に引いて布を縮めます。

④ ぬい終わりの糸をそれぞれ結び、ギャザーを整えてからぬいしろ部分にアイロンをかけます。

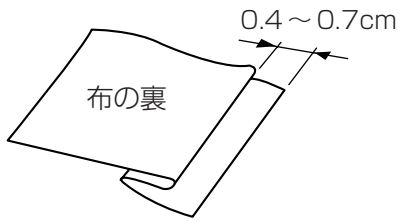
## ●まつりぬい

### ミシンのセット

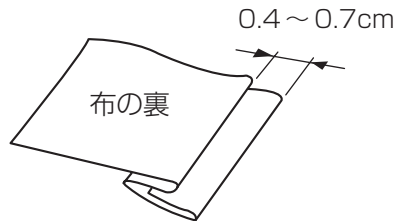
表示画面	模様	押さえ	糸調子ダイヤル
	 10 15 (モード1、2) 15 ※模様  (モード2) は伸縮性の布に利用します。	 G:まつりぬい押さえ	 オート

### 【布の折り方】

(厚い布の場合)

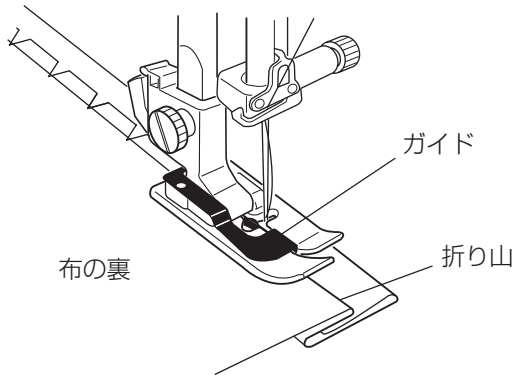


(うすい布、普通の布の場合)



### 【ぬい】

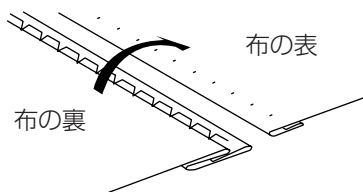
①



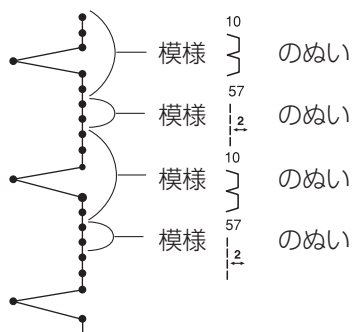
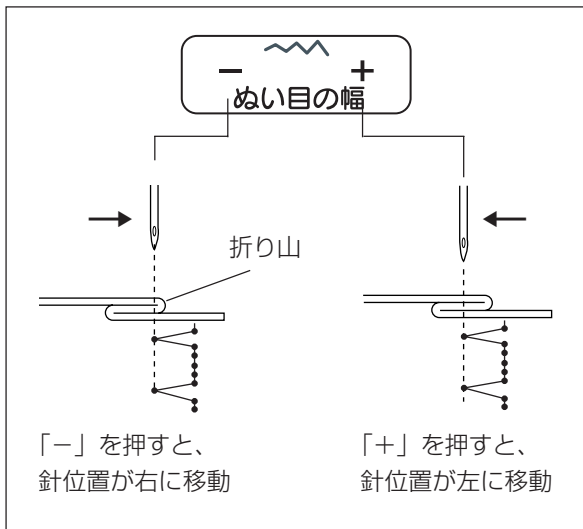
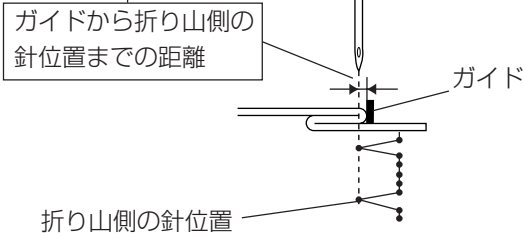
① 折り山をガイドに合わせてぬいます。

※ 針が折り山から外れないように、ぬい目の幅調節キーで針位置を調節します。(37ページ参照)

②



② ぬい終わったら布をひろげます。



### 【針位置を調節する場合】

模様 }<sup>10</sup> と }<sup>15</sup> の場合、ぬい目の幅調節キーは、折り山に針がささるときの針位置を調節できます。(模様の幅をかえることはできません。)

※ 画面のぬい目の幅に表示される数値は、ガイドから折り山側の針位置までの距離をミリメートル（目安）で示しています。

針が折り山にかかる量を増やしたい場合は、ぬい目の幅調節キー「+」を押して、針位置を左に移動させます。

針が折り山にかかる量を減らしたい場合は、ぬい目の幅調節キー「-」を押して、針位置を右に移動させます。

### 【直線ぬい部のぬい目数を多くしたい場合】

模様 }<sup>10</sup> と模様 |<sup>57</sup> (モード3) のつなぎ模様を組み合わせて記憶してぬいます。

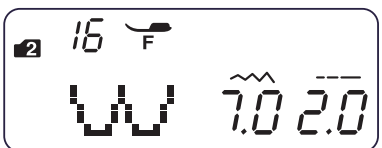

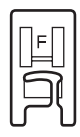
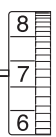
左記のように2針直線部のぬい目が増えます。

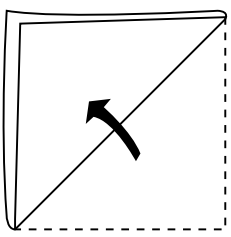
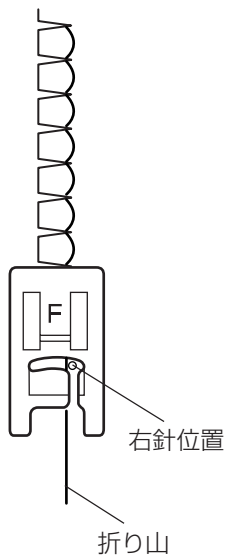
なお、直線つなぎ模様 |<sup>57</sup> のぬい目の幅の調節は不要です。この模様は、前の模様の針位置と、ぬい目のあらかさを引き継ぐつなぎ模様です。

※ つなぎ模様の使い方は「◎記憶ぬい／●つなぎ模様」(63ページ)をごらんください。

## ●シエルタック





### ミシンのセット

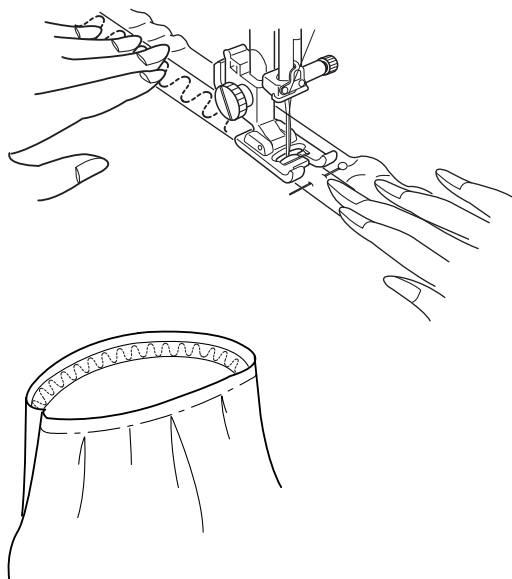
表示画面 	模様 16  (モード2)	押さえ  F：サテン押さえ	糸調子ダイヤル 6～8 
---	---	--	---

- ①  ① 布をバイヤスに2つ折りにします。
- ②  ② 右の針位置が布の折り山のきわ（布の外側）に  
おりるようにしてぬいます。

## ●ゴムひも付け


### ミシンのセット

表示画面 	模様 17  (モード2)	押さえ  F：サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	---	--	---



布の裏側に、まち針でゴムひもを等間かくに数力所とめます。（ゴムひもは、伸ばした状態で等間かくにとめます。）

ゴムひもを布と同じ長さに両手で伸ばしながら、ゴムひもの上をぬいます。

※ 模様  (モード1、2) などが使えます。



## ●ボタンホールの種類と用途

ボタンホールは、R: ボタンホール押さえにボタンをセットするだけで、自動的に最適なボタンホールをぬうことができます。



- ① スクエアボタンホール  
普通の布から厚い布まで一般的な使用目的のボタンホールです。



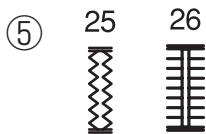
- ② 片ラウンドボタンホール  
普通の布からうすい布に使います。ブラウス、子供服でよく使われます。



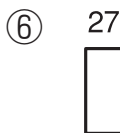
- ③ 両ラウンドボタンホール  
うすい布に使います。薄手のブラウスでよく使われます。



- ④ キーホールボタンホール  
普通の布から厚い布に使われる一般的なボタンホールです。  
大きく厚めのボタンはキーホールボタンホールがよく使われます。



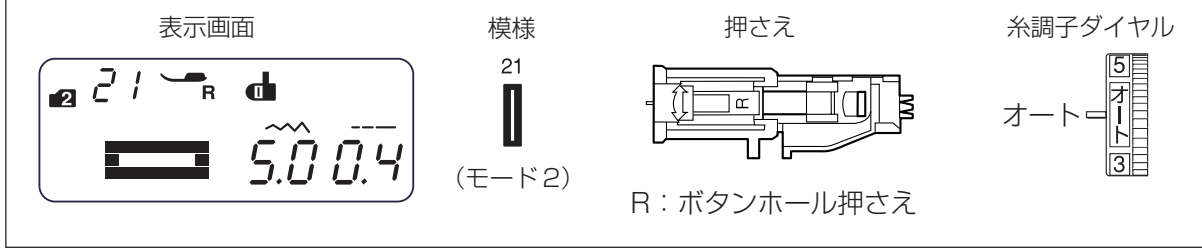
- ⑤ ニットボタンホール  
伸縮性のある布に適したボタンホールです。  
そのぬい目の形から飾りボタンホールとしても使われます。  
※模様 26 はうす地用です。



- ⑥ たまぶちボタンホール  
たまぶちボタンホールを作る最初の工程になります。

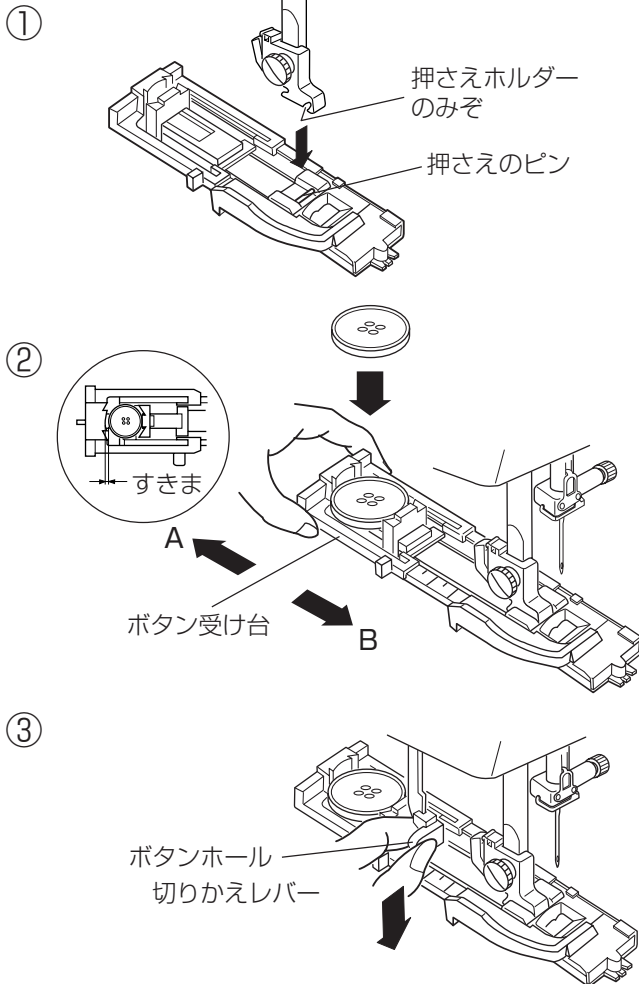
## ●スクエアボタンホール

### ミシンのセット



### ★ぬい方

- ※ ボタンホールの長さは使用するボタンをボタン受け台にはさみ込むと自動的に決まります。
- ※ ボタンの直径が1.0～2.5cmまでのボタンホールができます。
- ※ 伸縮性のある布には裏に伸びにくい芯地を貼ります。
- ※ 必ず試しぬいをして正しくぬえることを確認してください。
- ※ 布のボタンホールぬい位置にマークを付けてください。



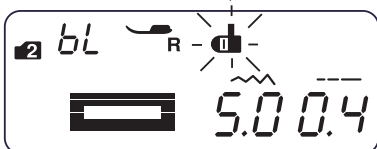
- ① 針をあげ、押さえ上げをあげます。  
押さえホルダーのみぞと押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてセットします。

- ② ボタン受け台を(A)方向へ引き、ボタンを乗せて(B)方向にもどしてはさみ込みます。

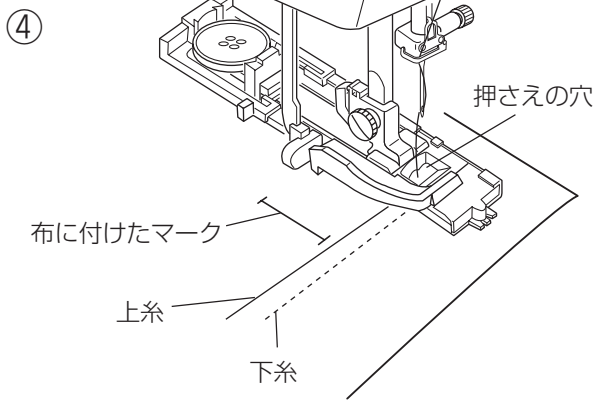
- ※ ボタン受け台とボタンのすきまをあけて位置決めをすると、その分大きいボタンホールができます。

- ③ ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱい引きさげます。

ボタンホール切りかえレバー表示 (点滅)

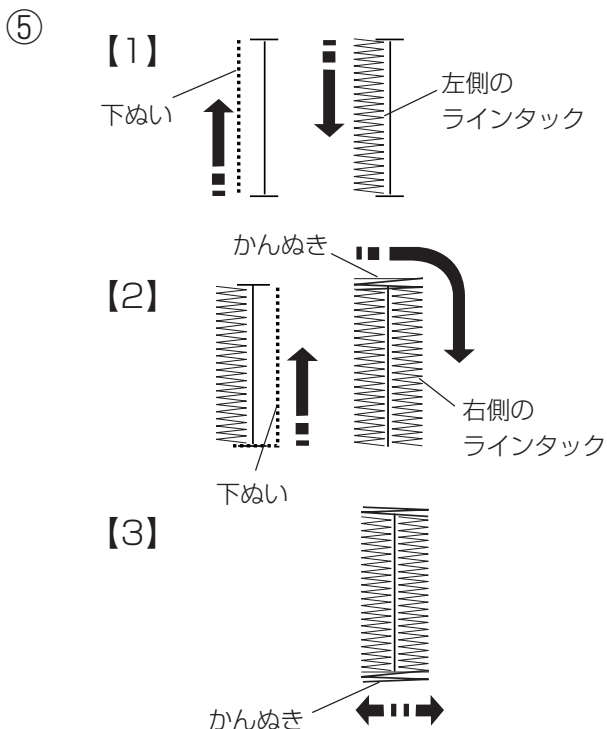
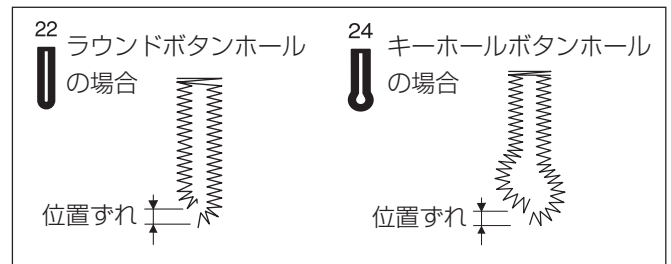
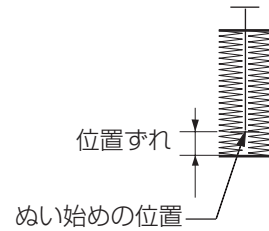
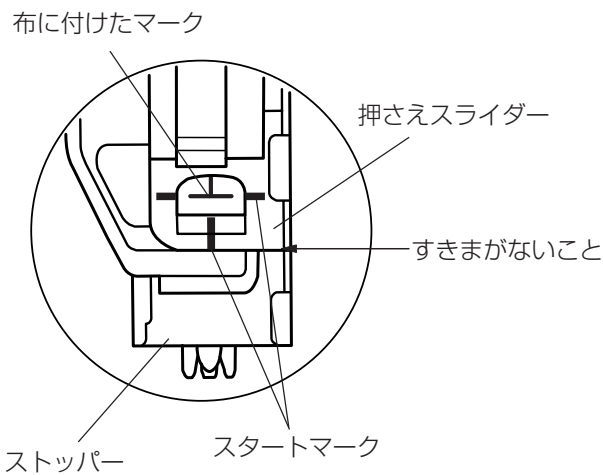


ボタンホール切りかえレバーをさげないでミシンをスタートすると、約0.5cmぬってミシンは停止します。このとき画面のボタンホール切りかえレバー表示が約3秒間点滅します。ボタンホール切りかえレバーを引きさげて再スタートしてください。



- ④ 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。  
布を入れ、押さえのスタートマークと布に付けたマークの位置を合わせます。

※ めい始める前に押さえスライダーとストッパーのあいだにすきまがないことを確認してください。  
すきまがあると、めい終わったときに位置ずれがおこることがあります。



- ⑤ ミシンをスタートさせます。  
ボタンホールをぬい終わったところで自動的に止まります。

### 【ぬい順序】

- 【1】 第1ステップ・・・ 下ぬいをし、左側のラインタックをぬいます。  
【2】 第2ステップ・・・ 下ぬいをし、かんぬきと右側のラインタックをぬいます。  
【3】 第3ステップ・・・ かんぬきと止めぬいをして自動的に止まります。

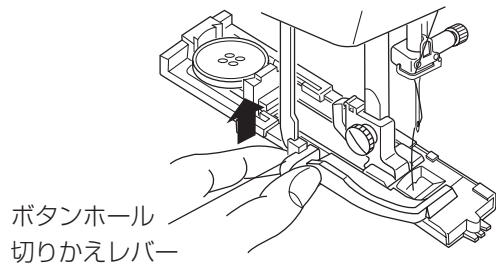
※ 引き続きボタンホールをぬう場合、糸切りボタンを押して糸を切り、押さえ上げをあげます。  
そのままの状態別の場所に押さえ上げをさげ、スタートします。

## 【重ねぬい】

ボリューム感のあるボタンホールができます。

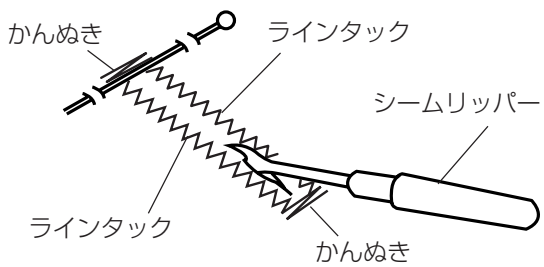
一度目のボタンホールをぬい終わったらそのまま押さえ上げをさげた状態でミシンをスタートすると、自動的に重ねぬいをします。

⑥



⑥ ぬい終わったら、ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱい押しあげてもどします。

⑦

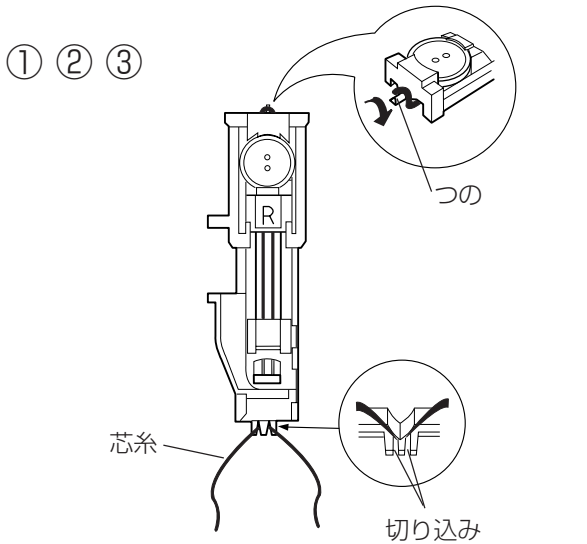


⑦ かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーで左右のラインタックの糸を切らないようにボタン穴を切り開きます。

## ★芯入りスクエアボタンホール

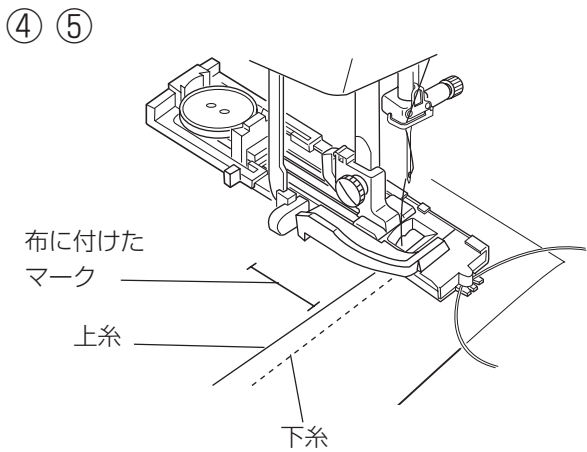
### ミシンのセット

表示画面 	模様 21 (モード2) 	押さえ  R: ボタンホール押さえ	糸調子ダイヤル オート 
----------	------------------------	-------------------------	--------------------

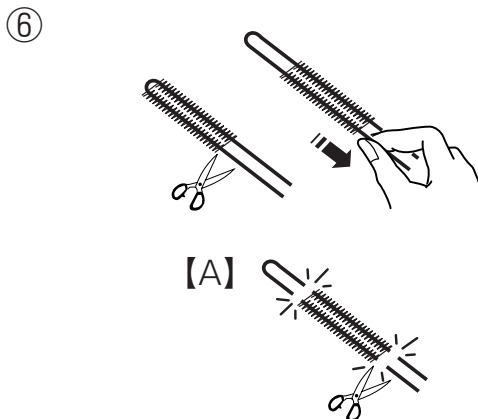


- ※ ぬい目の幅は芯糸に合わせてセットします。
- ※ 芯糸は、たるみのないように強く張ってください。

- ① 上糸と下糸を横に引き出してそろえます。
- ② 押さえ前部の右側の切り込みに芯糸の一方の端をはさみ、芯糸を押さえの下からうしろに引き、輪にして押さえ後部のつのにかけます。
- ③ つのにかけた芯糸を押さえの下を通して、押さえ前部の左側の切り込みにしっかりはさみます。



- ④ 押さえのスタートマークと布に付けたマークの位置を合わせます。
- ⑤ ボタンホールをぬいます。



- ⑥ 芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。
- ※ 左右どちらの芯糸も引けない場合は、芯糸の両側を切ってください。(【A】 図参照)
  - ※ ボタン穴のあけ方は 42 ページをごらんください。

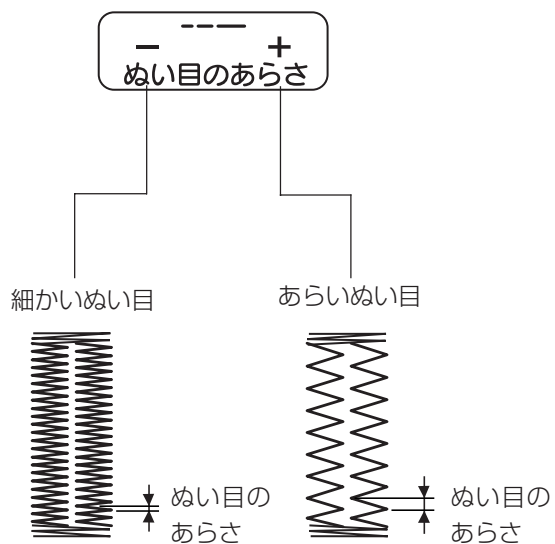
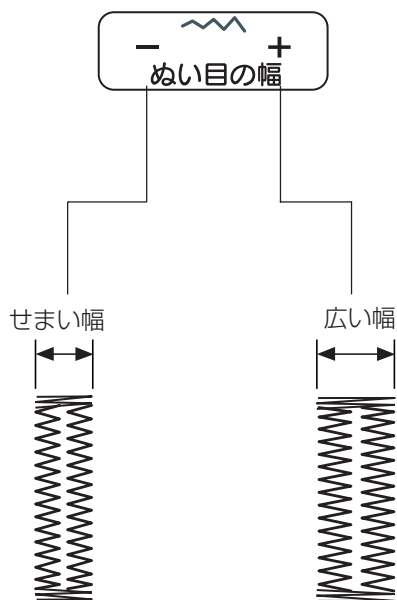
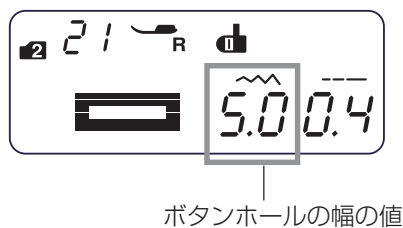
## ★ボタンホールの幅をかえるとき

ぬい目の幅調節キーを押して「2.5～7.0」まで0.5ずつかえることができます。

「+」を押すと、ボタンホールの幅は広くなります。

「-」を押すと、ボタンホールの幅はせまくなります。

※ 表示画面の数値は、ボタンホールの幅の目安をミリメートルで示しています。



## ★ ボタンホールのぬい目のあらかさをかえるとき

ぬい目のあらかさ調節キーを押して「0.3～0.8」まで0.1ずつかえることができます。

「+」を押すと、ぬい目のあらかさはあらかくなります。

「-」を押すと、ぬい目のあらかさは細かくなります。

※ 表示画面の数値は、ボタンホールのあらかさの目安をミリメートルで示しています。

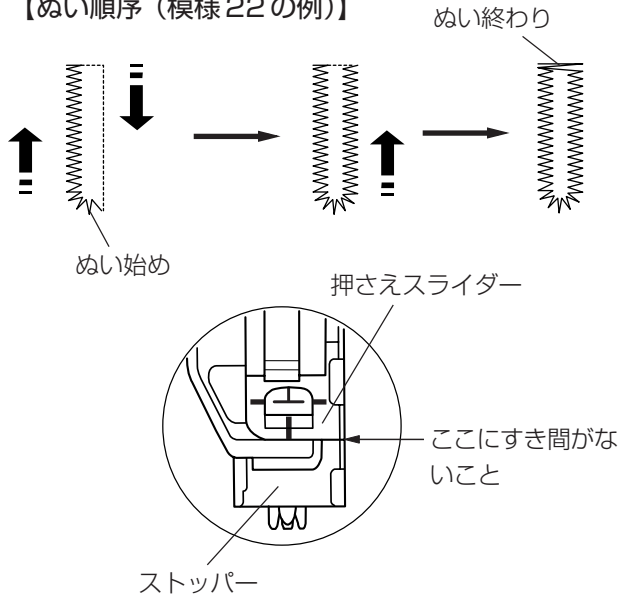
## ●ラウンドボタンホール

### ミシンのセット

表示画面 	模様 22 23 (モード2) 	押さえ 	糸調子ダイヤル オート 
----------	---------------------------	---------	--------------------

R: ボタンホール押さえ

#### 【ぬい順序 (模様22の例)】



※ ぬい方はスクエアボタンホール40～42ページをごらんください。

#### 【ボタンホールの幅をかえるとき】

ぬい目の幅調節キーを押して「2.5～5.5」まで0.5ずつかえることができます。

#### 【ボタンホールのぬい目のあさをかえるとき】

ぬい目のあさ調節キーを押して「0.3～0.8」まで0.1ずつかえることができます。

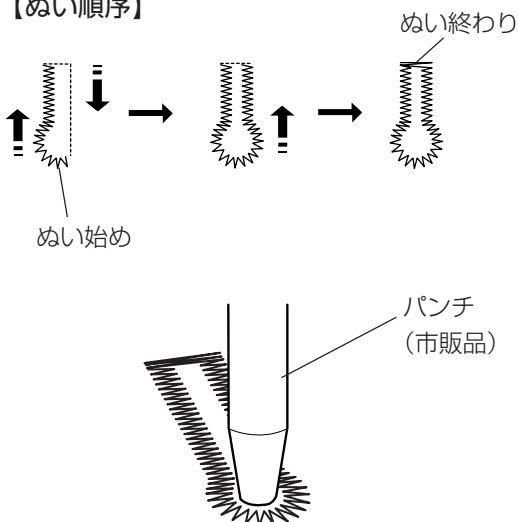
## ●キーホールボタンホール

### ミシンのセット

表示画面 	模様 24 (モード2) 	押さえ 	糸調子ダイヤル オート 
----------	------------------------	---------	--------------------

R: ボタンホール押さえ

#### 【ぬい順序】



※ ぬい方はスクエアボタンホール40～42ページをごらんください。

※ キーホールボタンホールの場合は、パンチ (市販品) で穴をあけてからシームリッパーで切り開いてください。

#### 【ボタンホールの幅をかえるとき】

ぬい目の幅調節キーを押して「5.5～7.0」まで0.5ずつかえることができます。

#### 【ボタンホールのぬい目のあさをかえるとき】

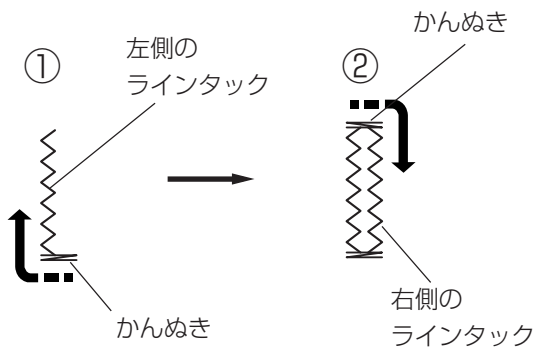
ぬい目のあさ調節キーを押して「0.3～0.8」まで0.1ずつかえることができます。

## ●ニットボタンホール

### ミシンのセット

表示画面	模様	押さえ	糸調子ダイヤル
	模様 25  (モード 2)	 R: ボタンホール押さえ	
	模様 26  (モード 2)		

### 〔模様 25 の例〕



※ ぬい方はスクエアボタンホール 40～42 ページをごらんください。

### 【ぬい順序】

- ① かんぬきと左側のラインタック部をぬいます。
- ② かんぬきと右側のラインタック部をぬい、止めぬいをして自動的に止まります。

### 【ボタンホールの幅をかえるとき】

ぬい目の幅調節キーを押して「2.5～7.0」まで0.5ずつかえることができます。

### 【ボタンホールのぬい目のあらかさをかえるとき】

模様 25 の場合：

ぬい目のあらかさ調節キーを押して「0.5～1.0」まで0.1ずつかえることができます。

模様 26 の場合：

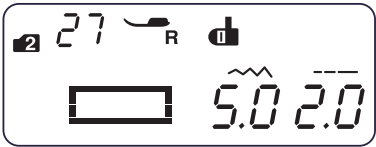

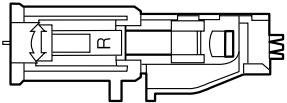

ぬい目のあらかさ調節キーを押して「0.5～2.5」まで0.5ずつかえることができます。

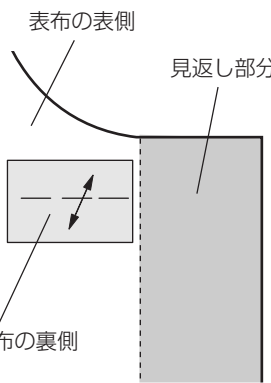
※ 左右のぬい目のあらかさがそろわないときには「◎操作方法／●模様の形の整え方」(15ページ)をごらんください。

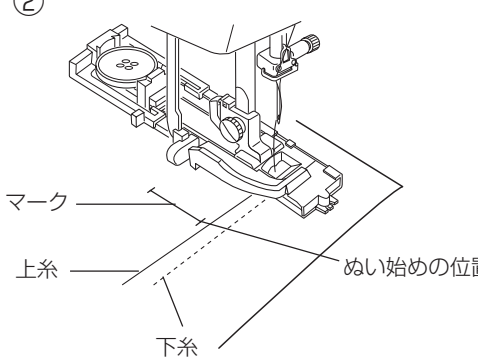


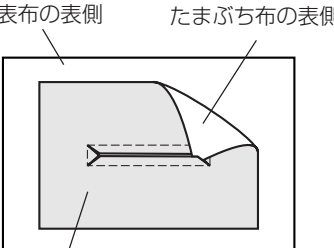
# ●たまぶちボタンホール

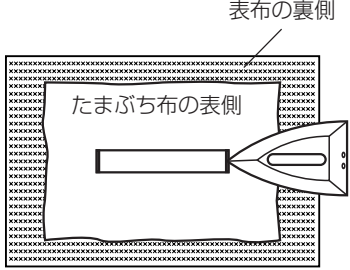
## ミシンのセット

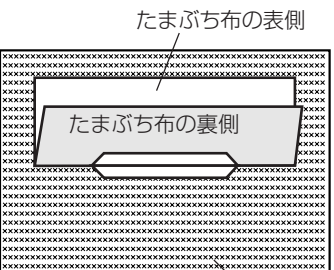
表示画面 	模様 27  (モード2)	押さえ  R: ボタンホール押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	---	---	---

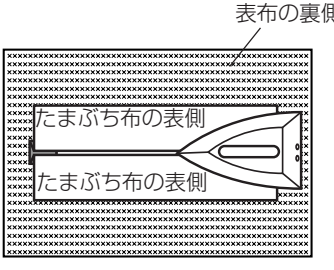
- ① 

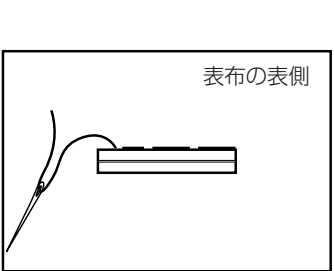
① バイヤス地のたまぶち布と表布をしつけぬいで止めます。
- ② 

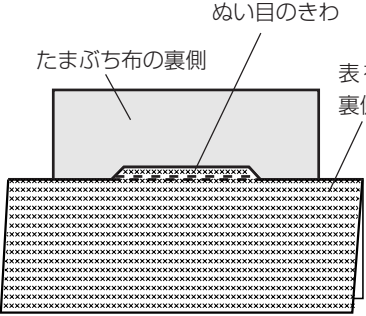
② ボタンホール押さえのボタン受け台にボタンをはさみ、ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげます。ボタンホール切りかえしバーをさげてぬいます。
- ③ 

③ ぬい終わったらY字型に切り込みを入れ、たまぶち布を裏側に出します。
- ④ 

④ 布表の裏側にたまぶち布の表側全体が見えるまでたまぶち布を引き出し、アイロンの先で角を整えます。
- ⑤ 

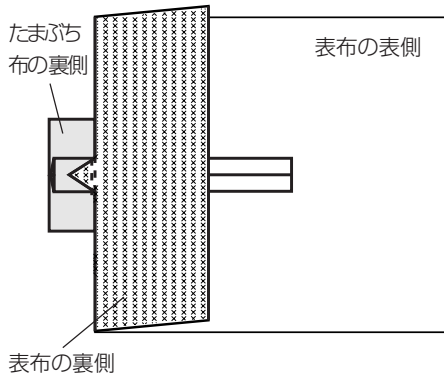
⑤ ぬいしろを正しく割ります。
- ⑥ 

⑥ アイロンで幅を整えます。
- ⑦ 

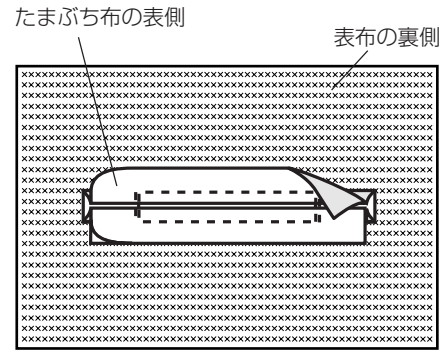
⑦ ぬい目にしつけをします。
- ⑧ 

⑧ ぬい合わせたぬい目のきわをぬいます。

⑨



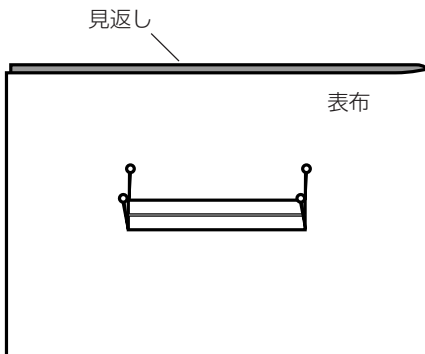
⑩



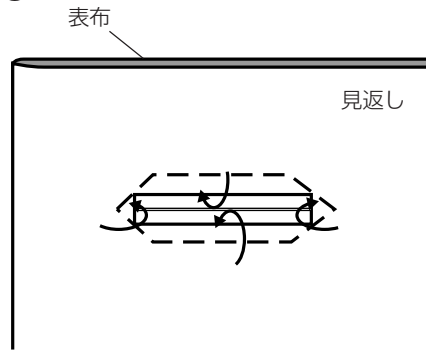
⑨ 三角の布に三重にぬいます。

⑩ たまぶち布を穴から1.0~1.5cmにたちおとします。角は丸くたちおとします。

⑪



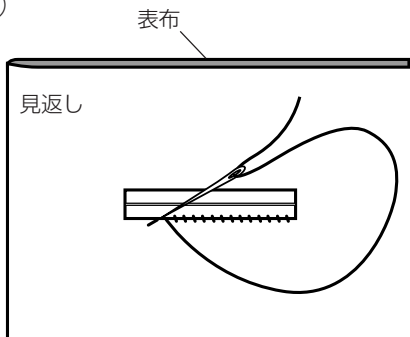
⑫



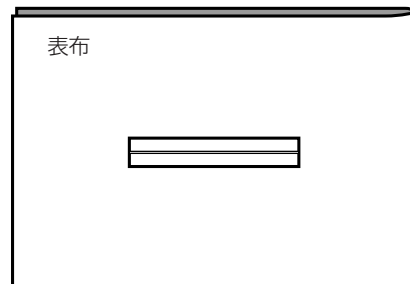
⑪ 見返しに、たまぶち穴の形のしるしを付けます。

⑫ 見返しの表から手順③のようにY字型に切り込みを入れて、できあがりの幅に折り、切り込まれた布を見返しとたまぶち布のあいだに折り込みます。

⑬



⑭



⑬ 細かくまつります。

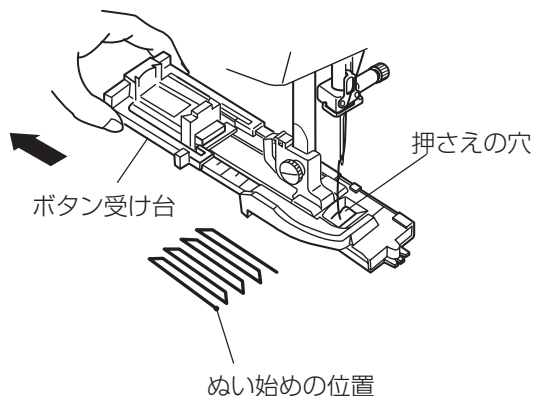
⑭ 完成です。

# ●ダーニング

## ミシンのセット

表示画面	模様	押さえ	糸調子ダイヤル
	 28 (モード2)	 R: ボタンホール押さえ	 オート 5 3

① ② ③

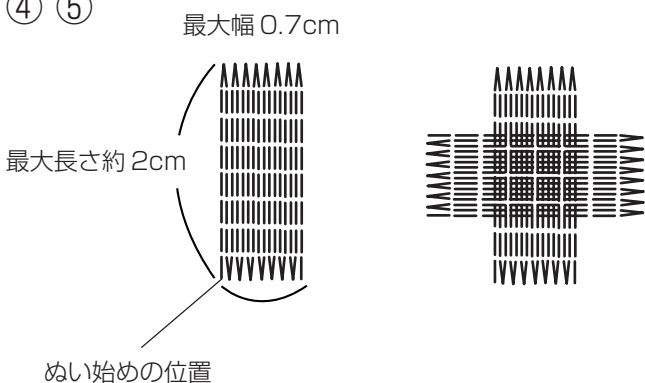


① ボタン受け台をいっぱい引き出します。

② 上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。

③ ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげます。

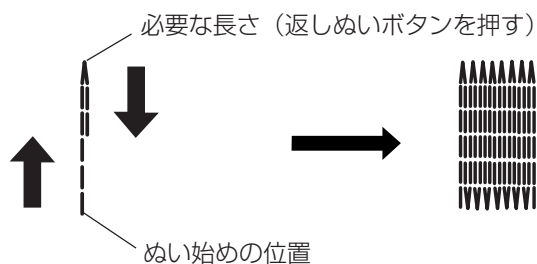
④ ⑤



④ ミシンをスタートし、自動的に止まるまでぬいます。

※ 自動的に止まるまでぬうと、最大長さ約 2cm のダーニングをぬうことができます。(幅は約 0.7cm) 2cm より短い長さでぬう場合は、下記をごらんください。

⑤ 布の向きをかえてぬいます。

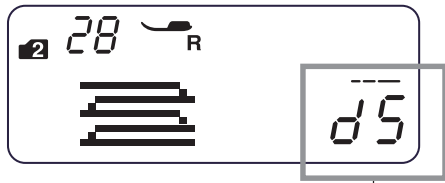


### 【2cm より短い長さでぬう場合】

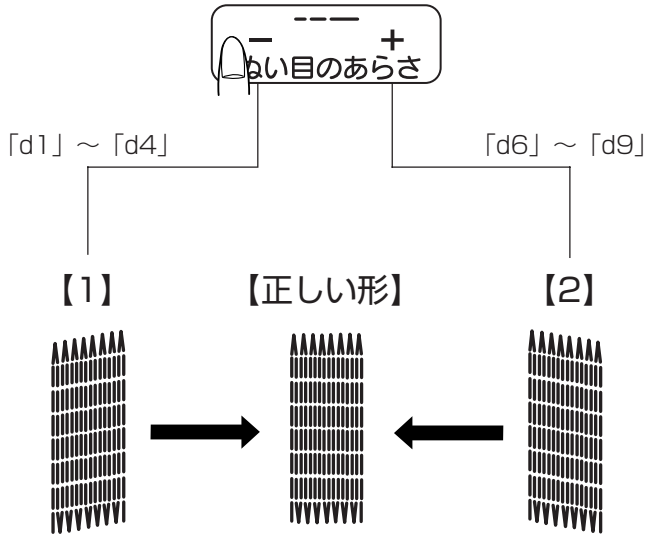
最初に必要な長さまでぬい、返しぬいボタンを押します。押した位置から折り返しますので、自動的に止まるまでぬいます。

※ ぬい終わると長さが記憶されていますので、同じ長さのダーニングをくり返しぬうことができます。(別の模様が選ばれるまで記憶されています。)





ダーニングの形の調節値



## 【ダーニングの形の整え方】

ダーニングのぬい始め（左側）と、ぬい終わり（右側）の高さがそろわないときは、ぬい目のあらかさ調節キーを押して調節します。

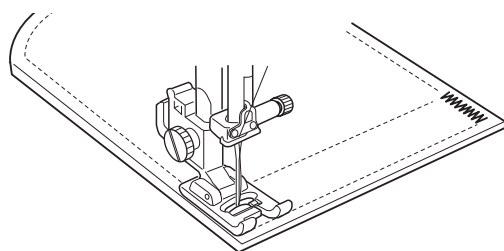
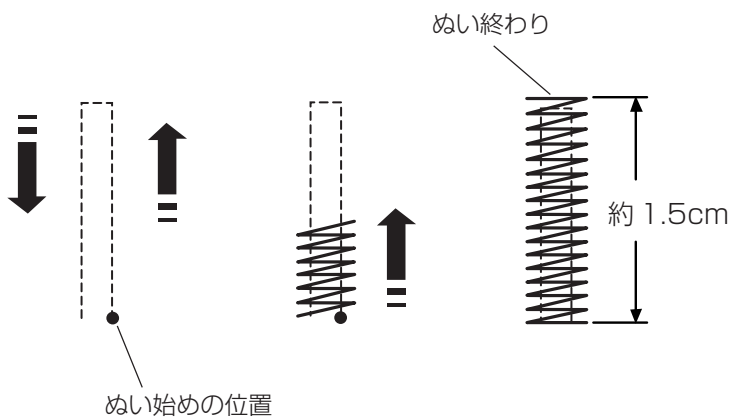
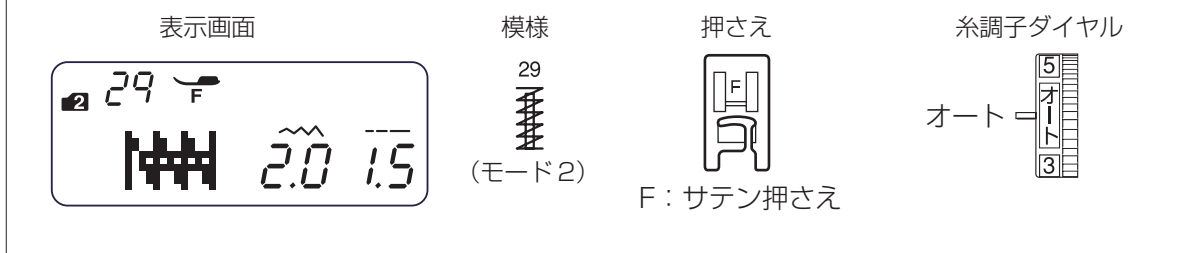
※「d1」～「d9」の範囲で調節できます。

【1】 左側が低いとき「-」を押します。…（「d1」～「d4」）

【2】 右側が低いとき「+」を押します。…（「d6」～「d9」）

## ●かんぬき止め

### ミシンのセット

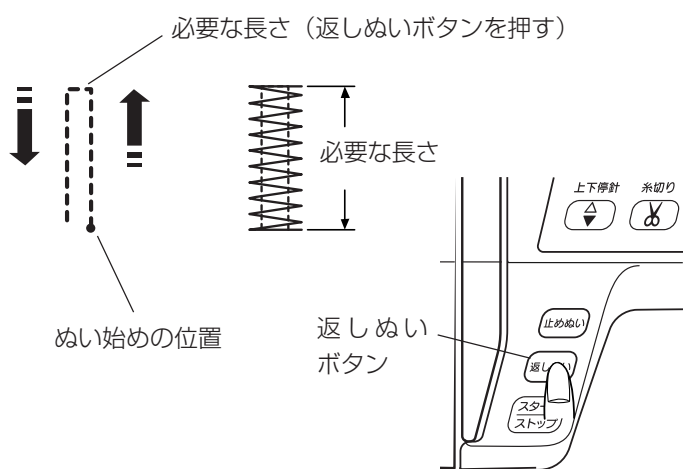


ポケットぐちなど、ぬい目に力がかかってほつれやすい部分などを補強します。

- ① ぬい始めの上糸と下糸は横に引き出しておきます。
- ② ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげます。
- ③ ミシンをスタートし、自動的に止まるまでぬいませ。

※ 自動的に止まるまでぬうと、最大長さ約 1.5cm のかんぬき止めをぬうことができます。  
1.5cm より短い長さでぬう場合は、下記をごらんください。

※ ぬい目の幅やあらかさは、ぬい目の幅調節キーとぬい目のあらかさ調節キーでかえることができます。  
(ぬい目のあらかさをかえると、自動でぬえる最大長さ「1.5cm」もかわります。)



### 【1.5cm より短い長さでぬうとき】

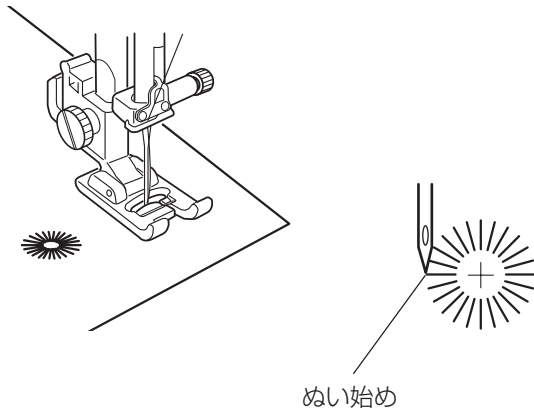
最初に必要な長さまでぬい、返しぬいボタンを押します。  
押した位置から折り返しますので、自動的に止まるまでぬいます。

※ ぬい終わると長さが記憶されていますので、同じ長さのかんぬき止めをくり返しぬうことができます。  
(別の模様が選ばれるまで記憶されています。)

## ●アイレット

### ミシンのセット

表示画面	模様	押さえ	糸調子ダイヤル
	30  (モード2)	 F：サテン押さえ	オート



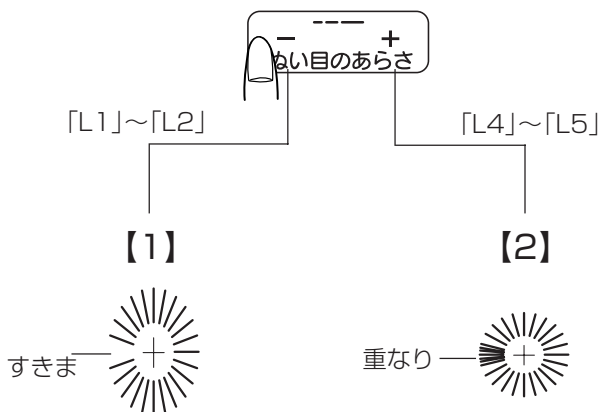
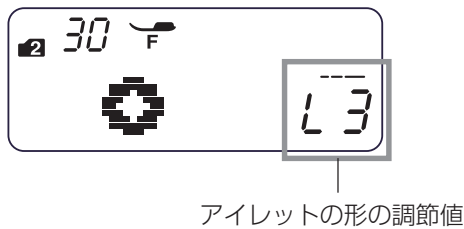
- ① ぬい始めの上糸と下糸は横に引き出しておきます。
- ② ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげます。
- ③ ミシンをスタートし、自動的に止まるまでぬいます。

※ ぬい目の内側をパンチ (市販品) などで穴をあけます。パンチの穴の大きさは直径 0.25cm 以下のものをご使用ください。

### 【アイレット形状の修正】

布によってアイレットの形がくずれるときは、ぬい目のあらか調節キーを押して調節します。

※ 「L1」～「L5」の範囲で調節できます。

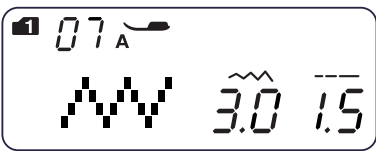



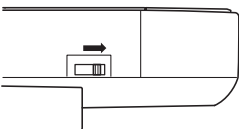


【1】 ぬい目にすきまがあるときは「-」を押します。  
… (「L1」～「L2」)

【2】 ぬい目が重なるときは「+」を押します。  
… (「L4」～「L5」)

## ●ボタン付け

### ミシンのセット



表示画面 	模様 07  (モード 1、2)	押さえ  F：サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 	ドロップつまみ 
---	--	--	---	--

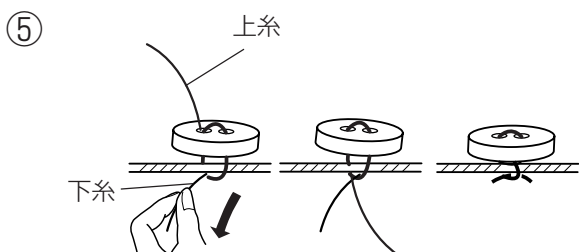
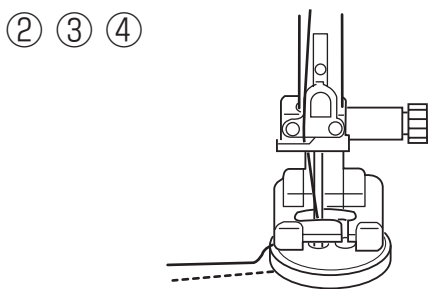
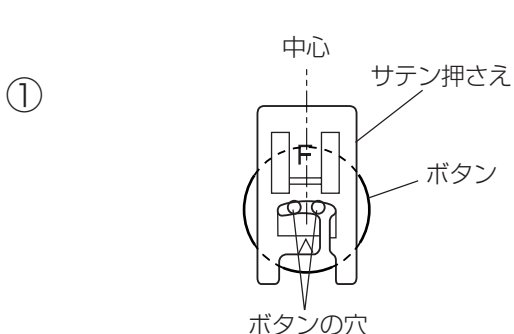
※ 送り歯を下げます。  
(13 ページをごらんください。)

### ⚠ 注意

必ず針がボタン穴の左右におりることを確認してください。ボタンに針があたると針が折れ、けがの原因になります。

### 【準備】

- (1) ドロップつまみで送り歯を下げます。
  - (2) スピードコントロールつまみで、ぬい速度をゆっくり側にします。
  - (3) ボタンの左右の穴の間かくをはかり、間かくと同じ値にぬい目の幅調節キーでぬい目の幅を設定します。<sup>07</sup>
- ※ ぬい始めに自動的に止めぬいを入れるために、下記【ぬい】の手順①からの操作を行うときは、必ず模様  を選んだ直後から行ってください。模様  を一度でもぬったあとに行うと、ぬい始めに止めぬいが入りません。



### 【ぬい】

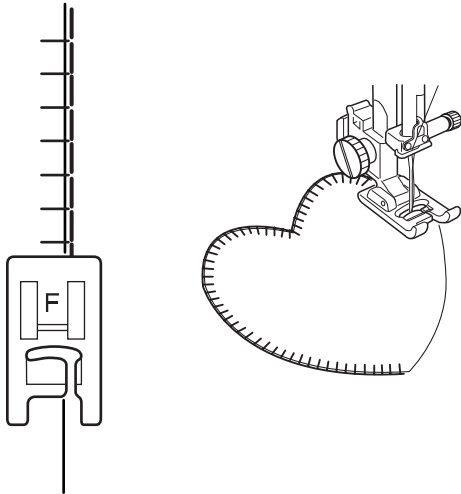
- ① ボタンの左右の穴が真横になるように押さえの中心にボタンを置き、押さえ上げを下げます。
- ② 手で、はずみ車を手前にまわして左側のボタンの穴に針が入ることを確認します。  
続けてはずみ車を数回まわすと、左側の穴を数回ぬったあと右側の穴に針が移動するので、針が右側の穴に入ることを確認します。
- ③ ミシンをスタートし、10針くらいぬったらミシンを止めます。
- ④ 針をあげ、押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を20cmくらい残して切ります。
- ⑤ ぬい始めの上糸と下糸は止めぬいが入っているので、ボタンのきわではさみで切ります。  
ぬい終わりの上糸と下糸は、下糸を引いて上糸を布の裏側に引き出し、上糸と下糸を結んでから切ります。

※ ぬい終わったら、ドロップつまみを「送り歯をあげる位置」にもどしてください。

# ●アップリケ

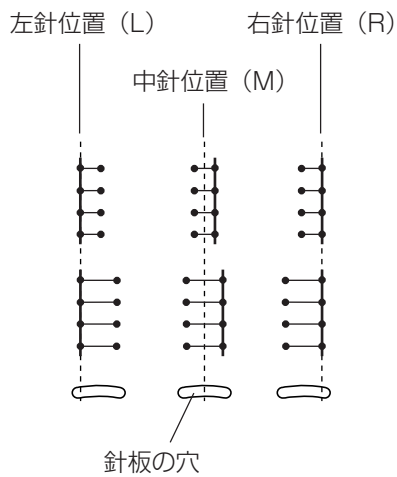
## ミシンのセット

表示画面	模様	押さえ	糸調子ダイヤル
	04  (モード3)	 F：サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート
※その他、用途に合わせ模様 $\sim$ を使用ください。			



アップリケ布をのり付けするか、しつけで止めます。  
針をアップリケ布の外側に落としてぬいます。

※ カーブのところや方向転換するところではミシンを止め、針を下位置にした状態で方向をかえるときれいに仕上がります。



模様 のMは、中針位置を基準（固定）にぬい目の幅が変化します。

模様 のRは、右針位置を基準（固定）にぬい目の幅が変化します。

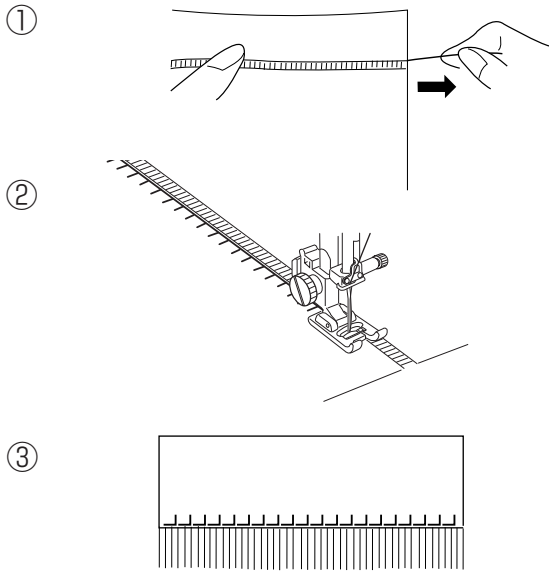
模様 のLは、左針位置を基準（固定）にぬい目の幅が変化します。



## ●フリンジ

### ミシンのセット

表示画面	模様	押さえ	糸調子ダイヤル
	04 M (モード3)	 F：サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 

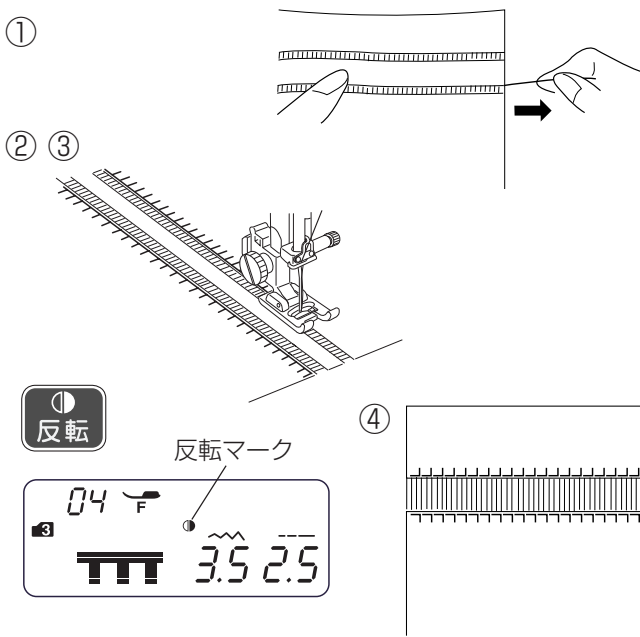


- ① フリンジのたばになる部分の織り糸を1～2本抜き取ります。
- ② 織り糸を抜いた上をぬいます。
- ③ フリンジにする部分の織り糸を抜き、ふさを作ります。

## ●ドロンワーク

### ミシンのセット

表示画面	模様	押さえ	糸調子ダイヤル
	04 M (モード3)	 F：サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 



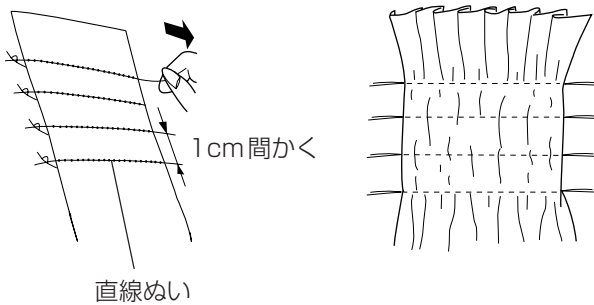
- ① ドロンワークする部分の両わきの織り糸を1～2本抜きとります。
  - ② 織り糸を抜いた左側をぬいます。
  - ③ 反転キーを押して模様を左右反転にし、右側をぬいます。
- ※ 模様を選んだ状態で反転キーを押すと、模様を左右反転した形でぬうことができます。
- ④ ドロンワークする部分の織り糸を全部抜きとります。

## ●スモッキング

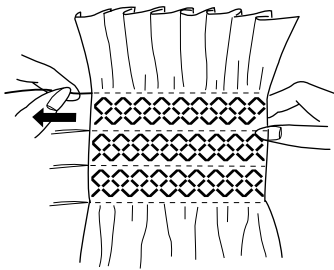
### ミシンのセット

表示画面	模様	押さえ	糸調子ダイヤル
	01 (モード1、2)  52 (モード3)	F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート
※ 模様  なども使用できます。			模様01は0~1 模様52はオート

① ② ③



④



① 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約10cmほど引き出しておきます。

※ 下糸を針板の上に引き出す方法は、「●上糸の準備／★下糸を針板の上に引き出す場合」(23ページ)をごらんください。

② 糸調子ダイヤルを「1」にして、ぬい目のあらかさが「3.0」～「5.0」の直線を1cm間かくで数本ぬいます。

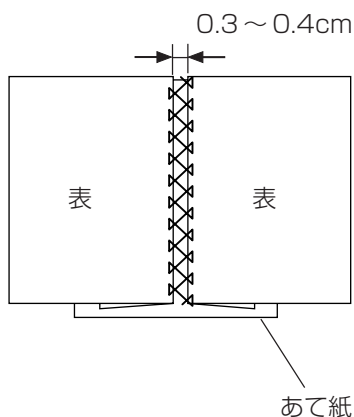
③ 上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いてひだをよせ、上糸と下糸を結びます。

④ 糸調子ダイヤルを「オート」にもどし、模様を選んで、直線ぬいと直線ぬいのあいだにぬいます。ぬい終わったら、直線ぬいの糸を抜き取ります。

## ●ファゴティング

### ミシンのセット

表示画面	模様	押さえ	糸調子ダイヤル
	45 (モード3)	F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート
※ 模様  なども使用できます。			







① 布端と布端の間かくを0.3~0.4cmあけて、下にあて紙をおきます。


② 布の表から、間かくの中央を中心にしてぬいます。

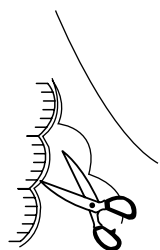
③ あて紙をとります。

## ●スカラップ

### ミシンのセット

表示画面 	模様 30  (モード3)	押さえ 	糸調子ダイヤル オート 
---	---	---	---

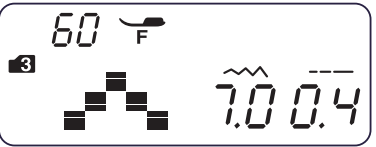

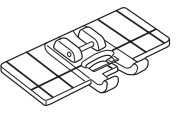

※ 模様  なども使用できます。 A：基本押さえ



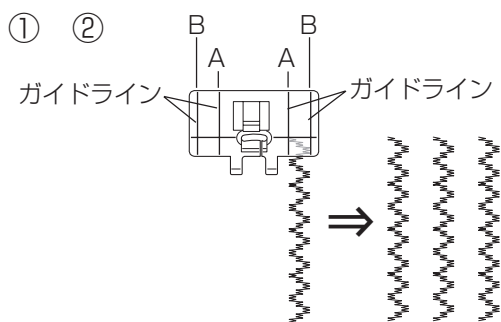
布の表から布端を1cmくらい残してぬいます。  
糸を切らないように外側の布を切り落とします。



## ●ボーダーガイド押さえの使い方

### ミシンのセット

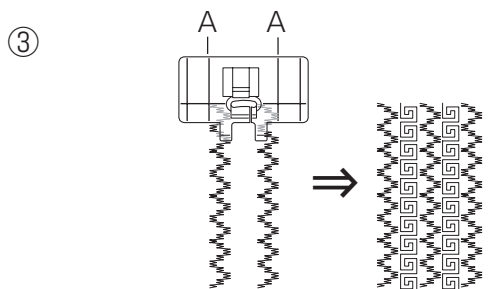
表示画面 	模様 60 89  (モード3)	押さえ  ボーダーガイド押さえ	糸調子ダイヤル オート 
--	---	---	--

※ ボーダーガイド押さえのガイドラインを利用すると、  
模様を平行に等間かくでぬうことができます。



例. 模様  のあいだに模様  を組み合わせる

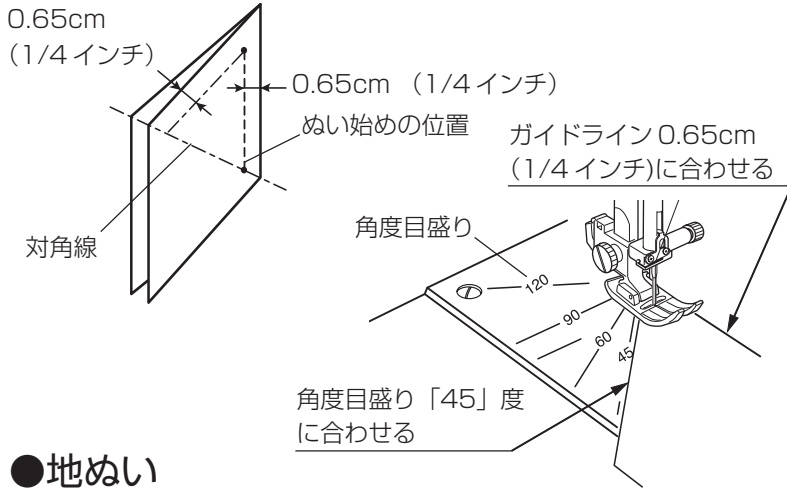
- ① モード3の模様番号60を1列ぬいます。
- ② ぬい終わった模様をガイドラインAとBのあいだに合わせながら、同じ模様をとなりにぬいます。  
同じ方法で必要な数だけぬいます。



- ③ ぬい終わった2つの模様の両側をガイドラインAに合わせながら、模様番号89をぬいます。  
模様番号60の2つの模様のあいだに模様番号89をきれいにぬうことができます。

# ◎パッチワーク／キルト

## ●針板角度目盛りの利用



角度目盛りは、パッチワークのピース作りに使うと便利です。

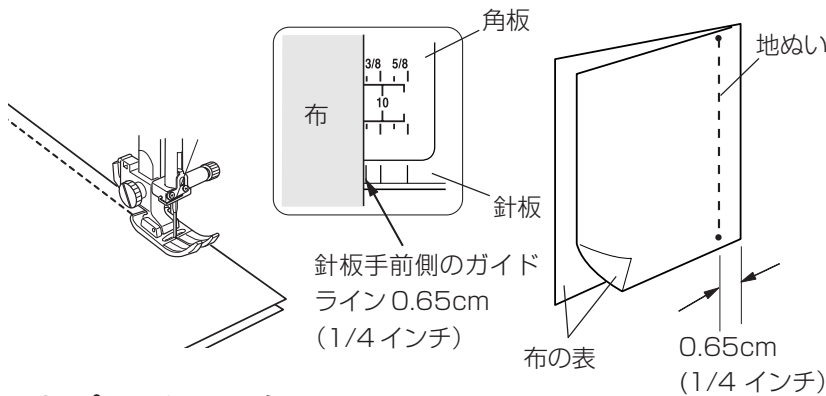
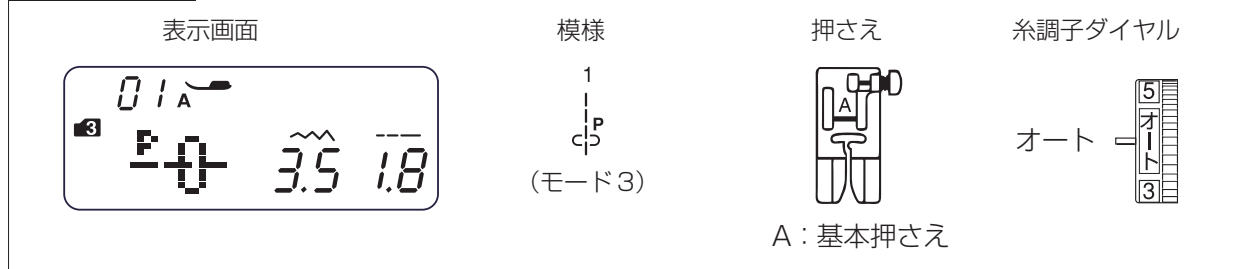
パッチワーク布(ピース)の角度と同じ角度目盛りに布端を合わせると、しるしなしでめいしろ0.65cm (1/4インチ)のめい始めの位置を決めることができます。

### 【例】レモンスター

- ① ピースの対角線に折り目を付けます。
- ② めい始めは、布端をガイドライン0.65cm (1/4インチ) および角度目盛り「45」度に合わせて布を置きます。
- ③ めい終わりは、対角線までぬって止めます。

## ●地ぬい

### ミシンのセット

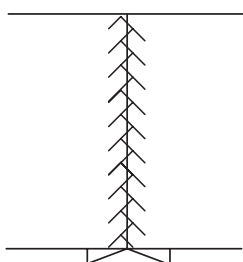
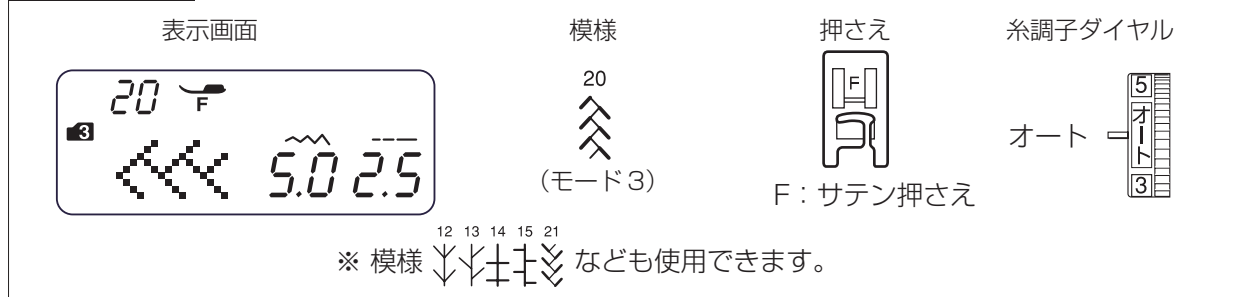


パッチワーク布(ピース)を中表に合わせ、布端を針板のガイドライン0.65cm (1/4インチ)に合わせてぬいます。

※ ガイドラインは「●直線ぬい／★針板ガイドの使い方」(25ページ)をごらんください。

## ●パッチワーク

### ミシンのセット

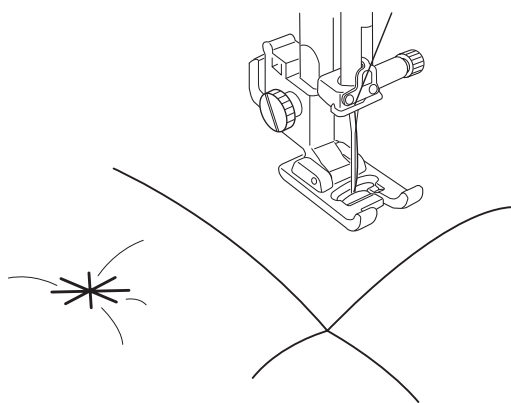


布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

## ●ワンポイント（とじぬい）

### ミシンのセット

表示画面	模様	押さえ	糸調子ダイヤル
	模様 22  (モード3)	押さえ  F:サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート



厚みのあるキルト綿をとじるときに使用します。

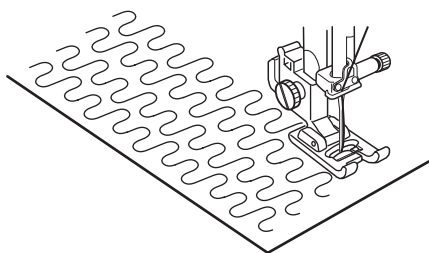
- ① 模様を1つだけぬうために、モード3の模様番号22を選んで、記憶キーを押します。
  - ② モード3の模様番号92を選んで、記憶キーを押します。
- ※ 記憶の方法は「◎記憶ぬい／●ワンサイクルぬい」(60ページ)をごらんください。
- ③ ミシンをスタートします。  
模様を1つぬって自動的に止まります。

## ●ステッピングステッチ

### ミシンのセット

表示画面	模様	押さえ	糸調子ダイヤル
	模様 16  (モード3)	押さえ  F:サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート

※ 模様 17 18 19 など也可以使用できます。



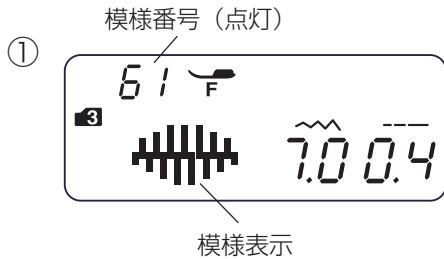
表布と裏布のあいだに綿を入れ、表に模様をうめていきます。

# ◎記憶ぬい

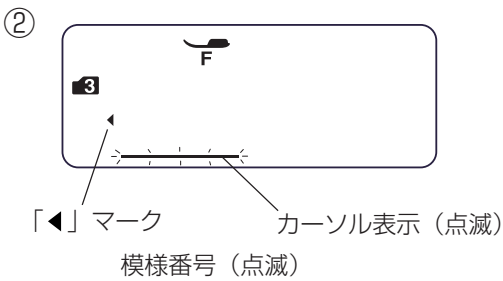
## ●ワンサイクルぬい

模様を1つだけ記憶し、そのあとに「止めぬい」を記憶すると、模様を1つだけぬって（ワンサイクルぬい）自動的にミシンを止めることができます。

模様を複数記憶して、そのあとに「止めぬい」を記憶すると、複数の模様をぬって自動的にミシンを止めることができます。



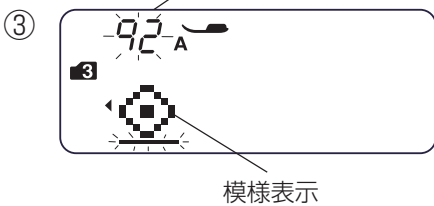
① モード3の模様番号61を選びます。



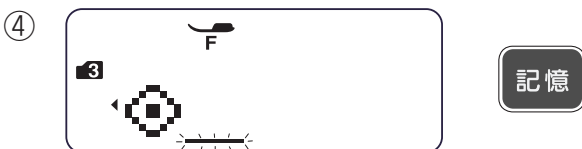
② 記憶キーを押します。

模様番号61が記憶され、模様表示が左へ移動して画面から消え、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。

※ 画面の「◀」マークは、画面に模様の表示はされていないが、記憶されている模様があることを示します。

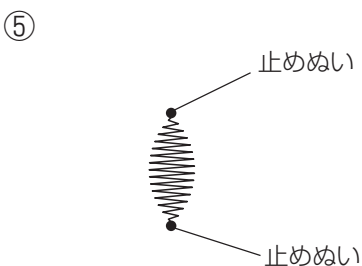


③ モード3の模様番号92「止めぬい」を選びます。  
カーソルの上に選んだ模様が表示されます。



④ 記憶キーを押します。

※ 「止めぬい」を記憶すると、それまでに記憶した模様をぬってミシンを止めることができます。  
(止めぬいを記憶したあとは、他の模様を記憶することはできません。)



⑤ ミシンをスタートすると、模様を1つだけぬったあと自動的に止めぬいをして止まります。

※ 模様のぬい始めには止めぬいが入っていますので、ぬい終わりにだけ止めぬいを入れてください。

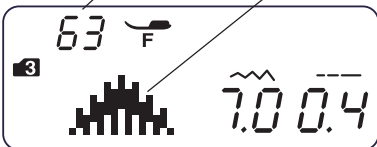
## ●組み合わせ記憶

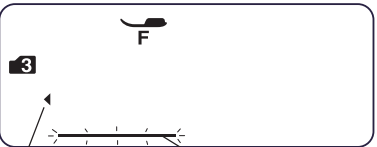
63 65 64

### 例. 模様 の組み合わせ

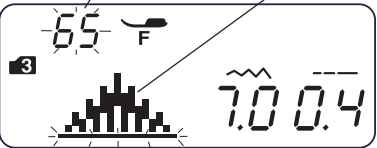
※ モードの異なる模様の組み合わせ記憶も可能です。

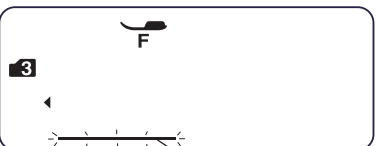
※ 模様は合計 50 個まで記憶できます。

- ① 

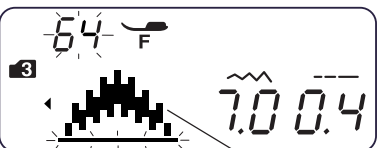
模様番号 (点灯) 模様表示
- ② 

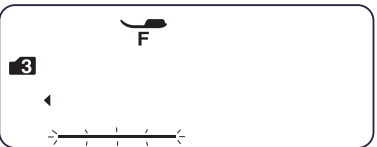
「◀」マーク カーソル表示 (点滅)

**記憶**
- ③ 

模様番号 (点滅) 模様表示
- ④ 

カーソル表示 (点滅)

**記憶**
- ⑤ 

模様表示
- ⑥ 

カーソル表示 (点滅)

**記憶**

① モード3の模様番号63を選びます。

② 記憶キーを押します。

模様番号63が記憶され、模様表示が左へ移動して画面から消え、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。

※ 画面の「◀」マークは、画面に模様の表示はされていないが、記憶されている模様があることを示します。

③ モード3の模様番号65を選びます。

カーソルの上に選んだ模様が表示されます。

④ 記憶キーを押します。

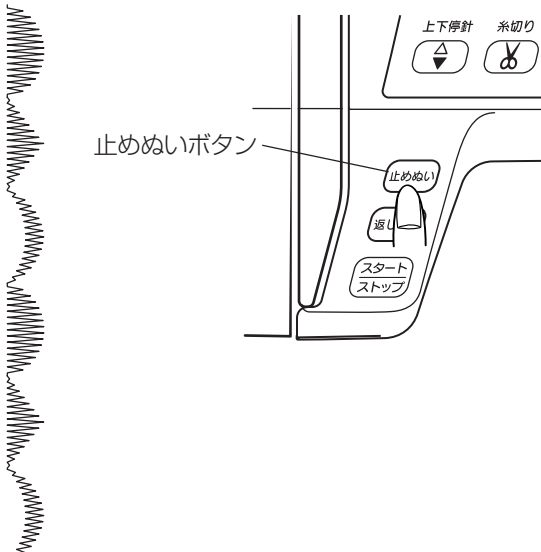
模様番号65が記憶され、模様表示が左へ移動して画面から消え、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。

⑤ モード3の模様番号64を選びます。

カーソルの上に選んだ模様が表示されます。

⑥ 記憶キーを押します。

模様番号64が記憶され、模様表示が左へ移動して画面から消え、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。

- ⑦ 

止めぬいボタン

上下停針 糸切り

止めぬい

返し

スタート

ストップ


⑦ ミシンをスタートすると、組み合わせ記憶した模様をくり返しぬいます。

ぬい終わりの模様の途中で止めぬいボタンを押すと、その模様を完成させたあと自動的に止めぬいをして止まります。

※ 止めぬいボタンの使い方は、「◎操作方法／●操作ボタンのはたらき【止めぬいボタン】」(8ページ)をごらんください。

## ●糸切り記憶

模様を記憶したあと、糸切りボタンを長押しして糸切り記憶を行うと、模様をぬったあとに、自動的に止めぬいおよび上糸と下糸の糸切りを行うことができます。

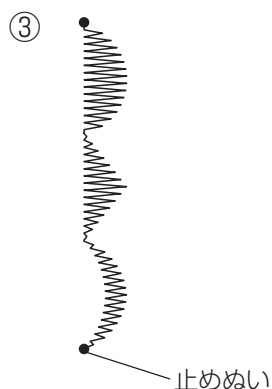
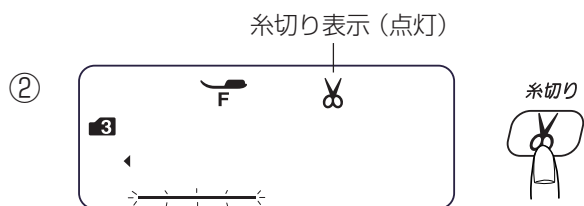
例. 模様 <sup>63 65 64</sup>  を3個ぬったあと自動的にミシンを止めて糸切りを行う

① 61 ページの手順①～⑥を行い、モード3の模様番号63、65、64を記憶します。

② 糸切りボタンを長押しして、表示画面に糸切り表示を点灯させます。

③ ミシンをスタートすると、組み合わせ記憶した模様3個をぬったあと止めぬいをしてミシンが止まり、自動的に上糸と下糸を切ります。

※ 糸切りボタンの使い方は、「◎操作方法／●操作ボタンのはたらき【糸切りボタン】」(8ページ)をごらんください。





## ●つなぎ模様

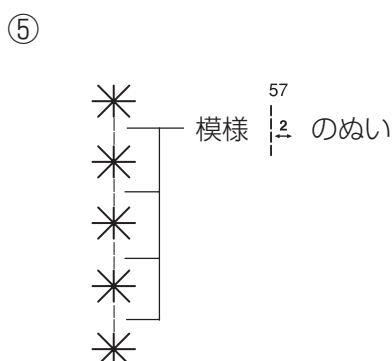
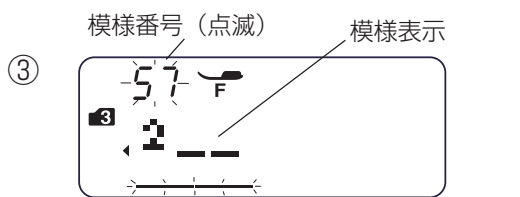
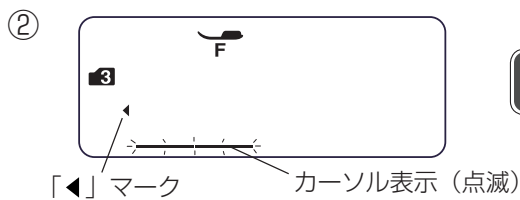
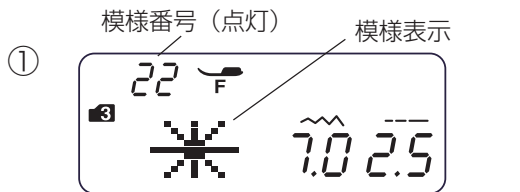
モード3の模様  $\begin{matrix} 55 & 56 & 57 & 58 \\ | & | & | & | \\ \text{1} & \text{1} & \text{2} & \text{2} \\ \text{中} & \text{中} & \text{中} & \text{中} \end{matrix}$  は、つなぎ模様です。

つなぎ模様は、模様と模様の間かくをあけるときの使います。模様の右側の数字は模様を1つ記憶したときのぬい目の数を示します。

模様  $\begin{matrix} 55 & 56 \\ | & | \\ \text{1} & \text{1} \\ \text{中} & \text{中} \end{matrix}$  は、針位置やぬい目のあらをを、ぬい目の幅調節キーとぬい目のあらか調節キーでかえることができます。

模様  $\begin{matrix} 57 & 58 \\ | & | \\ \text{2} & \text{2} \\ \text{中} & \text{中} \end{matrix}$  は、針位置やぬい目のあらかをかえることができます。針位置やぬい目のあらかは、つなぎ模様の1つ前に記憶されている模様と同じになります。

例. 模様  $\begin{matrix} 22 \\ | \\ \text{米} \\ | \\ \text{米} \end{matrix}$  と模様  $\begin{matrix} 57 \\ | \\ \text{2} \\ | \\ \text{2} \end{matrix}$  の組み合わせ



① モード3の模様番号22を選びます。

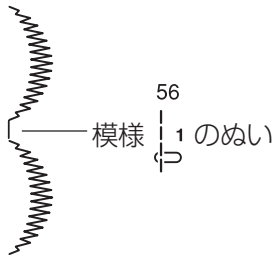
② 記憶キーを押します。  
模様番号22が記憶され、模様表示が左へ移動して画面から消え、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。

※ 画面の「◀」マークは、画面に模様の表示はされていないが、記憶されている模様があることを示します。

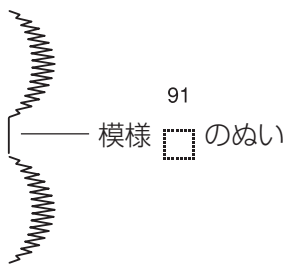
③ モード3の模様番号57を選びます。  
カーソルの上に選んだ模様が表示されます。

④ 記憶キーを押します。  
模様番号57が記憶され、模様表示が左へ移動して画面から消え、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。

⑤ ミシンをスタートとすると、模様番号22の間かくがあいた状態でくり返しぬいます。  
模様番号22のあいだには、直線のぬい目が2つ入っています。



※ つなぎ模様の1つ前に記憶されている模様のぬい目の  
 あらさが細かい模様の場合、つなぎ模様には  $\begin{matrix} 57 & 58 \\ | & || \\ 2 & 2 \end{matrix}$  を利  
 用すると、つなぎ部分のぬい目のあらさも細かくなっ  
 て次の模様とほとんど間かくがあきません。  
 ぬい目のあらさが細かい模様の場合は、模様  $\begin{matrix} 55 & 56 \\ | & | \\ \oplus & \oplus \end{matrix}$  を  
 使用してください。



### 【その他の間かくをあげる方法】

模様と模様の間かくをあげる模様は、つなぎ模様の他に  
 スペース模様  $\begin{matrix} 91 \\ \square \end{matrix}$  (モード3)、 $\begin{matrix} 97 & 98 & 99 \\ \square & \square & \square \end{matrix}$  (モード4~6)  
 があります。

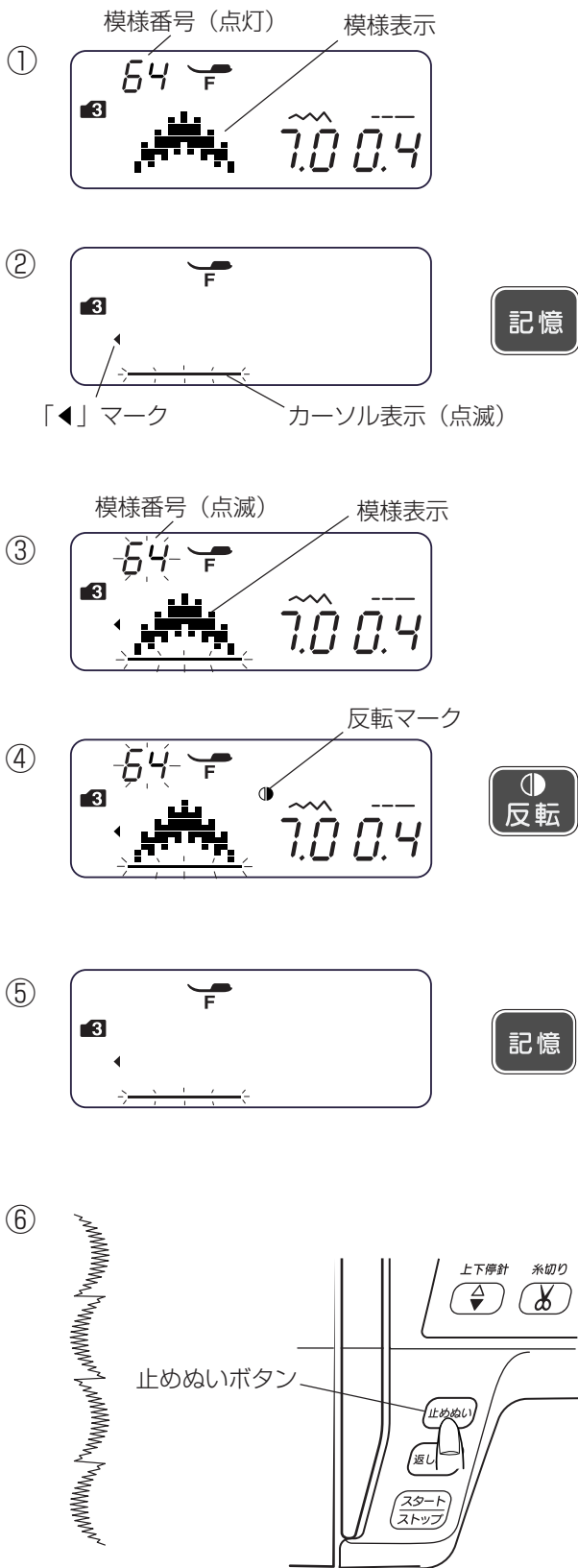
モード3の模様番号91は約0.5cm、モード4~6の模  
 様番号97は約0.25cm、模様番号98は約0.35cm、  
 模様番号99は約0.5cmの間かくがあきます。

※ 上記間かくの長さは、ぬい目のあらさがオート値(電  
 源を入れたときに自動的に設定されている値)のとき  
 の値です。  
 設定値を変更すると間かくもかわります。

## ●模様の反転機能

反転機能は、選んだ模様を左右反転した形でぬうことができます。

例. 模様  と模様  の反転模様を交互にぬう



① モード3の模様番号64を選びます。

② 記憶キーを押します。  
模様番号64が記憶され、模様表示が左へ移動して画面から消え、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。

※ 画面の「◀」マークは、画面に模様の表示はされていないが、記憶されている模様があることを示します。

③ モード3の模様番号64を選びます。  
カーソルの上に選んだ模様が表示されます。

④ 反転キーを押します。  
反転マークが表示されます。

※ 反転マークが表示されている場合は、その模様が左右反転した形でぬわれることを示します。

⑤ 記憶キーを押します。  
模様番号64の反転模様が記憶され、模様表示が左へ移動して画面から消え、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。

⑥ ミシンをスタートすると、反転模様を含む組み合わせ記憶した模様をくり返しぬいます。

ぬい終わりの模様の途中で止めぬいボタンを押すと、その模様を完成させたあと自動的に止めぬいをして止まります。

※ 止めぬいボタンの使い方は、「◎操作方法／●操作ボタンのはたらき【止めぬいボタン】」(8ページ)をごらんください。

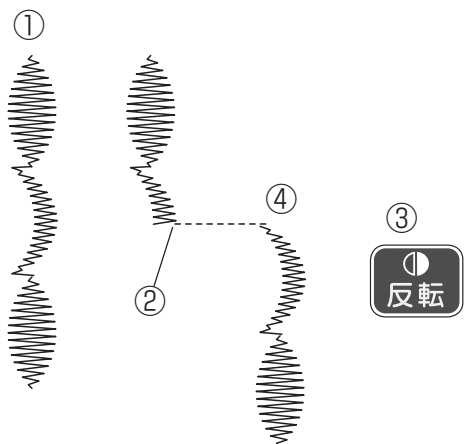
※ 反転機能は、記憶ぬい以外の通常のぬいにも使えます。

※ 文字は、反転機能が使えません。  
その他、反転機能が使えない模様(ボタンホール等)があります。

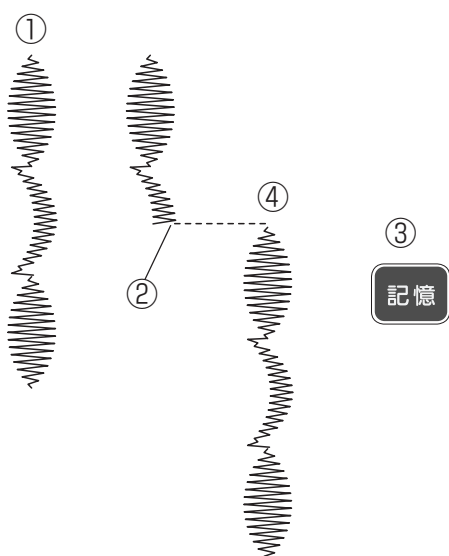
## ● 模様の頭出し機能

組み合わせ模様の記憶ぬいの場合、ぬいを途中で止めた場合、模様の始めからぬうことができます。

### 【ぬっている途中でミシンを止め、ぬいかけた模様の始めからぬう場合】



### 【ぬっている途中でミシンを止め、記憶した模様の先頭からぬう場合】



# ◎文字ぬい

## ●文字選択

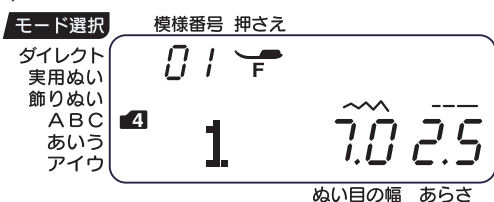
モード4～6の文字グループは、通常の模様と同じように文字を1つだけぬうことも、複数の文字を組み合わせでぬうこともできます。

文字の選び方、組み合わせ記憶の方法も通常の模様と同じです。

※ 文字を選んで、他の模様（文字）と組み合わせないでぬうと、その文字を1つだけぬって自動的にミシンは止まります。

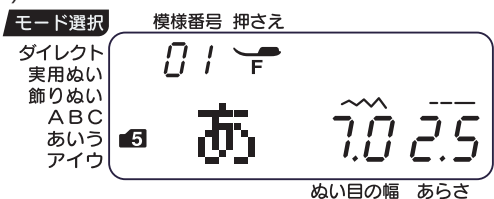
ぬわれた文字のぬい始めとぬい終わりには、ほつれ止めの止めぬいが入っています。

(1)



(1) モード4：アルファベット（大文字、小文字）  
数字  
記号

(2)



(2) モード5：ひらがな（横書き）

(3)

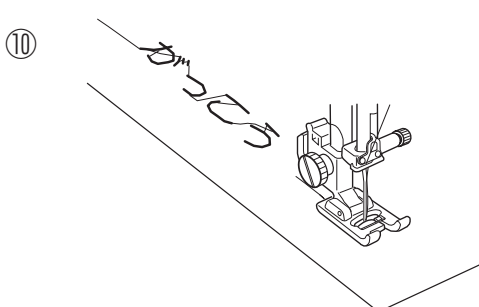
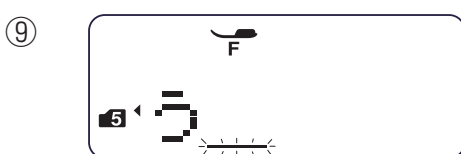
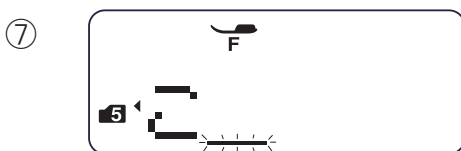
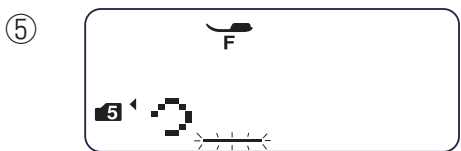
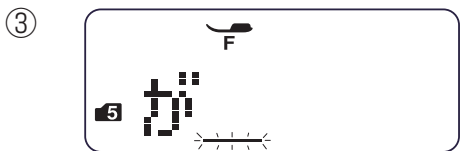
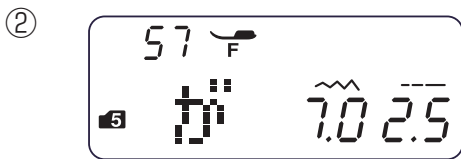


(3) モード6：カタカナ（横書き）

### 【文字ぬいの注意】

1. 必ず同じ布地で試しぬいをしてください。
2. 針は、付属のブルー針を使用してください。
3. 伸びる布地、薄手の布地などのときには、布の裏に市販品の芯地を貼るか、または、トレーシングペーパーや薄い紙を布の下に敷いてぬってください。

## ●ぬい例



## ★ひらがな

### 例. がっこう

① モードキーを押して、モード5のひらがなを選びます。

② 文字番号57「が」を選びます。

③ 記憶キーを押します。

④ 文字番号52「っ」を選びます。

⑤ 記憶キーを押します。

⑥ 文字番号10「こ」を選びます。

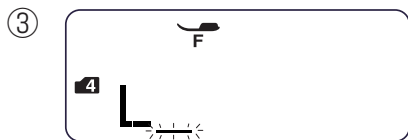
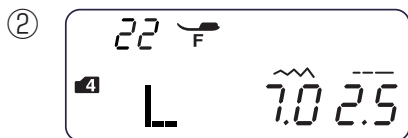
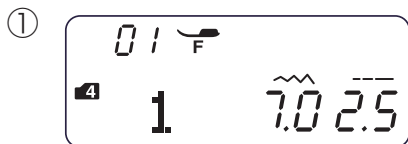
⑦ 記憶キーを押します。

⑧ 文字番号03「う」を選びます。

⑨ 記憶キーを押します。

⑩ ミシンをスタートすると、「がっこう」をぬったあと自動的にミシンは止まります。

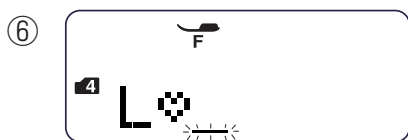
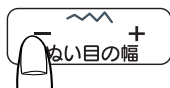
※ 文字のぬい始めとぬい終わりには止めぬいが入っていますので、止めぬいを入れる必要はありません。



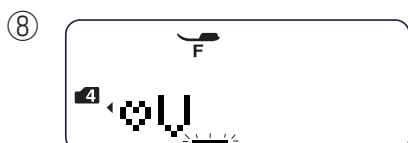
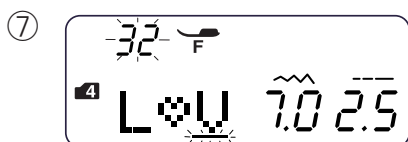
記憶



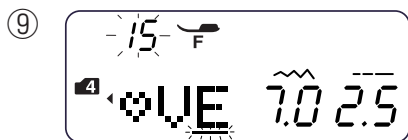
(表示が「7.0」から「5.0」にかわります。)



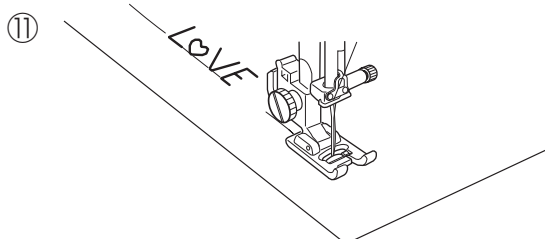
記憶



記憶



記憶



### ★ 文字サイズの縮小

文字（記号を含む）を選んでから、ぬい目の幅調節キー「一」を押すと、文字（数字、記号）の高さを約2/3に縮小できます。

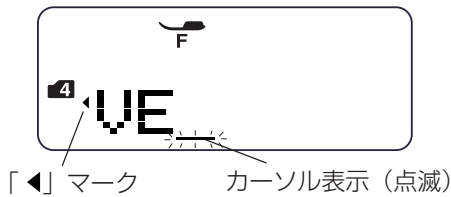
### 例 . L♡VE (「♡」の縮小例)

- ① モードキーを押して、モード4（英数字）を選びます。
- ② 文字番号22「L」を選びます。
- ③ 記憶キーを押します。
- ④ 文字番号85「♡」を選びます。
- ⑤ ぬい目の幅調節キー「一」を押します。
- ⑥ 記憶キーを押します。
- ⑦ 文字番号32「V」を選びます。
- ⑧ 記憶キーを押します。
- ⑨ 文字番号15「E」を選びます。
- ⑩ 記憶キーを押します。
- ⑪ ミシンをスタートすると、「L♡VE」をぬったあと自動的にミシンは止まります。「♡」が縮小されています。

# ◎編集機能 (1)

## ● 記憶の確認

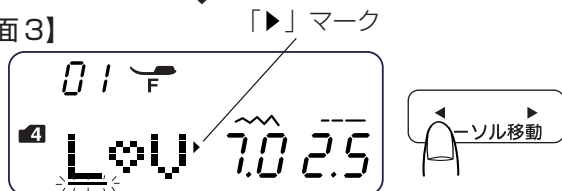
【画面 1】 [L♡VE を記憶した直後の画面]



【画面 2】



【画面 3】



カーソル移動キーでカーソルを左や右へ移動させることで、画面に表示されていない記憶した模様を表示させ、確認することができます。

例. 模様 <sup>22 85 32 15</sup> L♡VE を記憶したとき  
(69 ページの記憶例)

カーソル移動キーの「◀」キーを押すごとにカーソルは左の模様 (文字) に移動するので、移動しなくなるまで押すと、記憶した模様の確認ができます。

※ カーソル移動キーの「▶」キーでカーソルを右に移動できます。

※ 【画面 1】の「◀」マークは、模様 (文字)「V」の前に別の模様が記憶されていることを示します。

※ 【画面 3】の「▶」マークは、模様 (文字)「V」のうしろに別の模様が記憶されていることを示します。

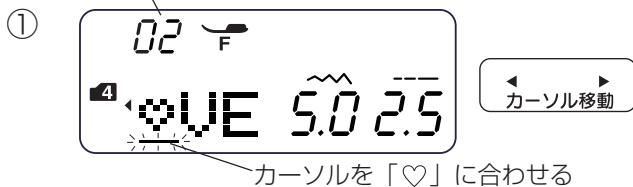
※ 【画面 2】の数値「04」は、カーソルが付いている模様 (文字) が、記憶されている何番目の模様か (記憶模様の順番) を示します。

※ むい始めると、ぬう模様の位置でカーソル表示は点灯状態になります。

ぬったあとに編集機能を利用する場合は、一度カーソル移動キーを押して、カーソル表示を点滅させてください。

## ● 記憶の修正

記憶模様の順番 (点灯)



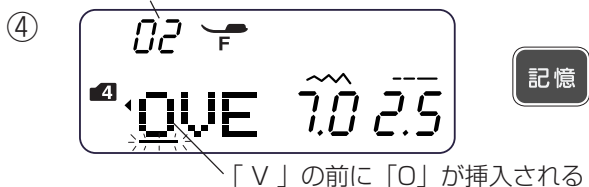
記憶模様の順番 (点灯)



模様番号 (点滅)



記憶模様の順番 (点灯)



## ★模様の削除と挿入

カーソルを合わせた模様のところでとりけしキーを押すと、その模様を削除することができます。

カーソルを合わせた模様のところで新しく選んだ模様を記憶すると、その模様の前に新しい模様を挿入することができます。

例. 記憶されている <sup>22 85 32 15</sup> L♡VE から、模様 <sup>85</sup> ♡ を  
削除し、模様 <sup>25</sup> O を挿入する

① カーソル移動キーで、削除する模様「♡」にカーソルを合わせます。

② とりけしキーを押します。  
模様「♡」が削除され、カーソルは「V」の文字のところに移動します。

③ 文字番号 25「O」を選びます。

④ 記憶キーを押します。  
文字「O」がカーソルの付いていた「V」の前に挿入されます。

※ とりけしキーをブザーが「ピー」と鳴るまで長押しすると、記憶したすべての模様を一度に削除できます。



## ★模様のコピー（記憶）

カーソルを合わせた模様のところでは記憶キーを押すと、同じ模様をコピーして続けて挿入することができます。

例. 記憶されている <sup>01</sup>1 <sup>02</sup>2 <sup>03</sup>3 から、文字 <sup>02</sup>2 をコピーして挿入する

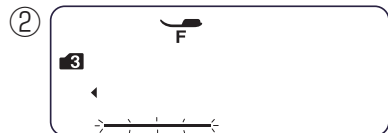


① カーソル移動キーで、コピーする文字「2」にカーソルを合わせます。

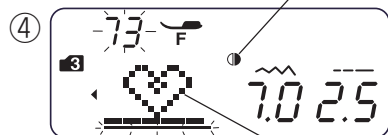
② 記憶キーを押します。  
文字「2」がコピー（記憶）され、「2」が2個組み合わせられます。

## ◎編集機能 (2)

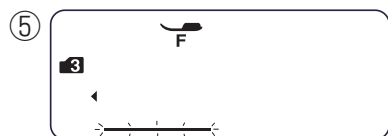
### ●統一マニュアル方式



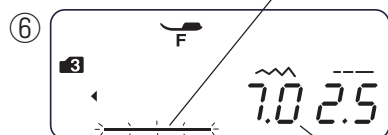
反転マーク



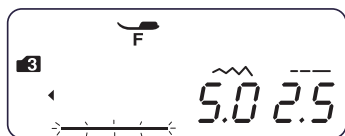
模様表示



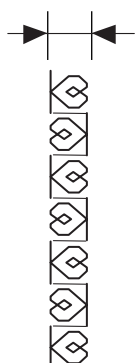
カーソル表示



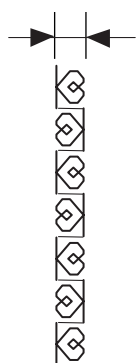
↓ (ぬい目の幅を「7.0」から「5.0」に変更)



⑦ オート値  
ぬい目の幅「7.0」



統一マニュアル値  
ぬい目の幅「5.0」



記憶された複数の模様全体を1つの模様として、ぬい目の幅、ぬい目のあさを一括調節する方法（統一マニュアル方式）です。

すべての模様が、同じ幅とあさでぬわれます。

※ 模様の組み合わせによっては、ぬい目の幅やあさが一括して調節できない場合もあります。

例. 模様 、（左右反転）の組み合わせ

【ぬい始める前に統一マニュアル値を変更する場合】

① モード3の模様番号73を選びます。

② 記憶キーを押します。

③ モード3の模様番号73を選びます。

④ 反転キーを押します。

⑤ 記憶キーを押します。

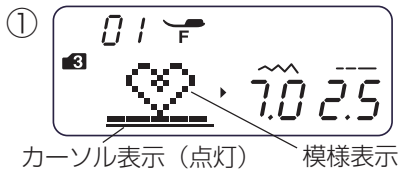
⑥ カーソル表示の上側に模様表示がない状態で、ぬい目の幅調節キーまたはぬい目のあさ調節キーを押して統一マニュアル値を設定します。

※ 統一マニュアル値の設定は、記憶した模様の外側（右側）にカーソル表示があるときにできます。

記憶キーを押して記憶した直後は、カーソル表示は模様の外側にあります。

⑦ ミシンをスタートさせると、記憶したすべての模様を設定したぬい目の幅（あさ）でぬいます。

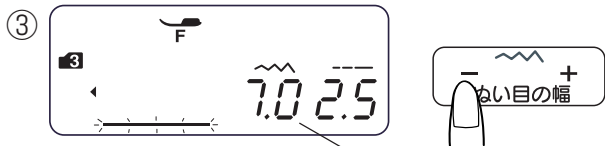
〔ぬい終わったあとの画面〕



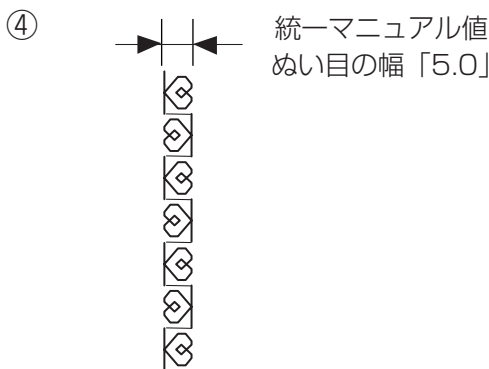
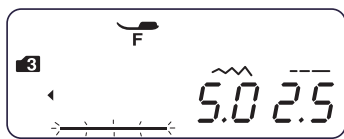
カーソル表示 (点灯) 模様表示



カーソル表示 (点滅)



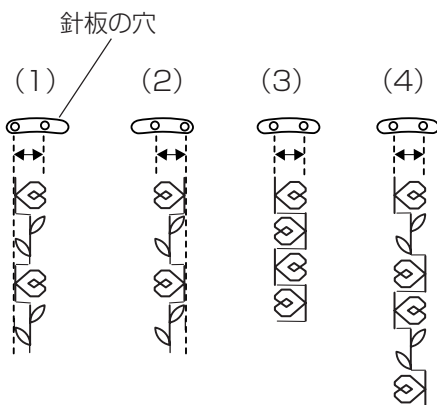
↓ (ぬい目の幅を「7.0」から「5.0」に変更)



### 【ぬったあとに統一マニュアル値を変更する場合】

- ① ぬい終わったあとは、模様表示の下にカーソルがあります。
- ② カーソル移動キーを押し、カーソル位置を模様の外側 (右側) に移動します。
- ③ ぬい目の幅調節キー またはぬい目のあかさ調節キーを押して統一マニュアル値を設定します。
- ④ ミシンをスタートさせると、記憶したすべての模様を設定したぬい目の幅 (あかさ) でぬいます。

模様の基準となる針位置が異なる模様を組み合わせた場合に統一マニュアル値を設定すると、ぬい目の幅を小さくして模様がぬわれたときの針位置は図のようになります。




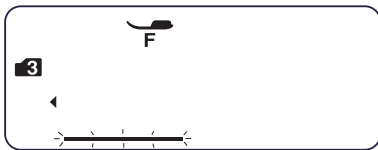
- (1) 左針位置模様 <sup>73</sup> と中針位置模様 <sup>67</sup> の組み合わせ  
..... 左針位置 (左合わせ) に統一されます。
- (2) 中針位置模様 <sup>67</sup> と右針位置模様 <sup>73</sup> (左右反転) の組み合わせ  
..... 右針位置 (右合わせ) に統一されます。
- (3) 左針位置模様 <sup>73</sup> と右針位置模様 <sup>73</sup> (左右反転) の組み合わせ  
..... 中針位置 (中合わせ) に統一されます。
- (4) 左針位置模様 <sup>73</sup> と中針位置模様 <sup>67</sup> と右針位置模様 <sup>73</sup> (左右反転) の組み合わせ  
..... 中針位置 (中合わせ) に統一されます。

※ 基準となる針位置が異なる直線系の模様を組み合わせた場合も、上記と同じ針位置になります。

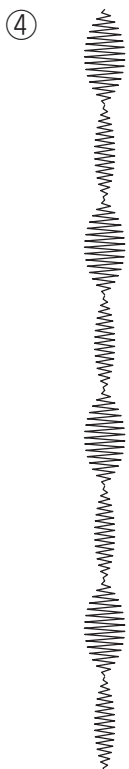
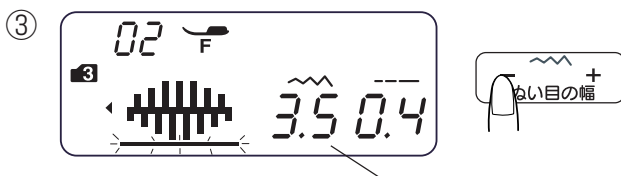
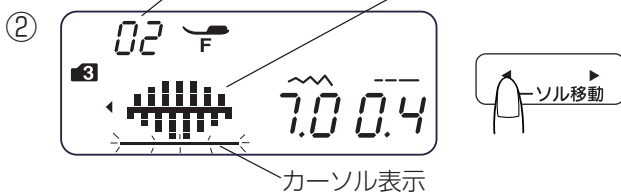
## ●個別マニュアル方式

記憶された個々の模様について、ぬい目の幅、ぬい目のあ  
らさを調節する方法（個別マニュアル方式）です。

例.記憶した2つの模様（模様<sup>61</sup>）のうち、2番  
目の模様のぬい目の幅を変更する



記憶模様の順番（2番目）      変更する模様



① モード3の模様番号61を2個記憶します。

② カーソル移動キーを押して、変更する模様（2番目）に  
カーソルを合わせます。

※ 記憶模様の順番は、画面の数値で確認してください。

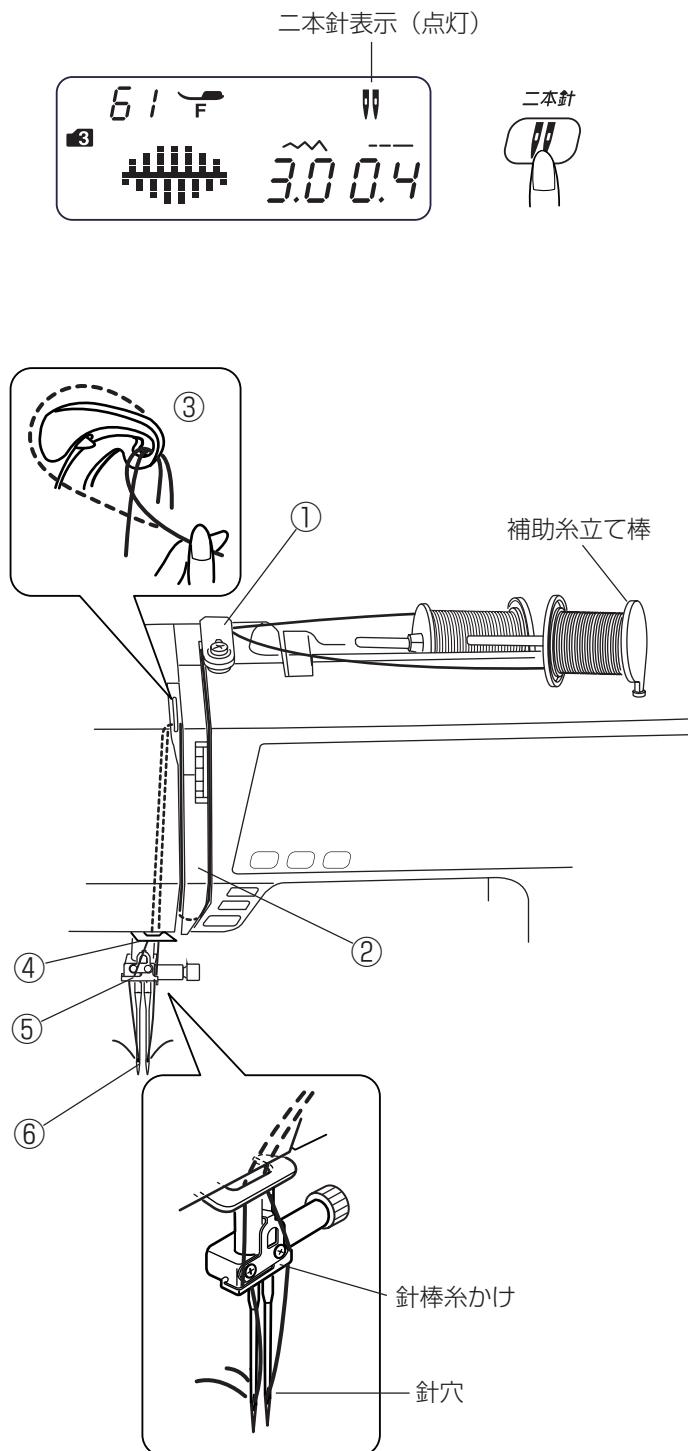
③ ぬい目の幅調節キーを押して「3.5」に設定します。

④ ミシンをスタートさせると、ぬい目の幅が1番目の模  
様は約7mm（オート値）、2番目の模様は約3.5mm  
（設定値）の2つの模様を交互にぬいます。

## ◎二本針ぬい

### ⚠ 注意

針の取りかえは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがの原因になります。



- ※ 二本針ぬいを行うときは必ず二本針ボタンを押して、表示画面に二本針表示を点灯させてください。
- ※ 二本針ぬいは、試しぬいをして確認してください。
- ※ 二本針は付属の専用二本針をご使用ください。
- ※ 二本針ぬいの際の押さえは、A:基本押さえ、またはF:サテン押さえをご使用ください。
- ※ 二本針ぬいのぬい始めは、必ず上糸と下糸を押さえの下から横または向こう側へ引き出してからぬってください。
- ※ 二本針ぬいの際は、糸は60番および60番より細い糸を使用してください。
- ※ 二本針ぬいが終了したら、必ず通常の針に交換してください。二本針が取り付けられた状態で通常のぬいを行うと、針が押さえや針板にあたる場合があります。

### 【糸の通し方】

- ※ 補助糸立て棒の取り付け方法は、「●下糸の準備／★補助糸立て棒の利用」(18ページ)をごらんください。

2つの糸こまから引き出した2本の糸は、途中でよじれないように①～⑥の順序で正しくかけてください。

- ①～④の糸の通し方は通常の上糸かけと同じです。「●上糸の準備／★上糸をかけます」(21ページ)をごらんください。
- ⑤ 針棒糸かけに左右に分けてかけます。
- ⑥ 二本針に左右に分けて糸を通します。
- ※ 針穴に糸を通すときは、糸通しは使えませんが針の手前から向こう側に手で通してください。

# ミシンのセット

表示画面

模様

61

(モード3)

押さえ

F: サテン押さえ

糸調子ダイヤル

オート

二本針表示 (点灯)

二本針

ぬい目の幅の値

[針の交換をうながす注意表示画面]

二本針表示 (点滅)

模様を選んだあと、二本針ボタンを押して二本針モードにセットします。

表示画面に二本針表示が点灯します。

※ ぬい目の幅は 3.0mm に制限されます。  
(直線状の模様の場合は、針位置が2.0~5.0に制限されます。)

※ 二本針モードのときに二本針ボタンを押すと、針の交換をうながす注意表示画面が出ます。  
注意表示画面が出ているあいだは、二本針ボタンを除くすべてのボタンやキーの操作は受け付けません。  
二本針ボタンをもう一度押すと、通常が表示画面になります。

## 《二本針ぬいの注意事項》

※ ぬい方向をかえるときは、針を上げて布の方向をかえてください。

※ 二本針ぬいは、左図の模様から選んでください。

二本針ぬいができない模様を選ばれていて、二本針ボタンを押しても二本針モードにセットできません。  
このとき、ブザー音(警告音)が鳴り、二本針表示が数秒間点滅します。

また、二本針モードにセットされた状態で二本針ぬいができない模様は選べません。  
このときも上記同様、ブザー音(警告音)が鳴り、二本針表示が数秒間点滅します。

[模様番号 37 を選んでいる場合の例]

二本針表示 (点滅)

※ 二本針モードのときは、記憶ぬいはできません。

※ 二本針ぬいで糸を切る場合は、面板に付いている糸切りを使用してください。(25 ページ参照)

(二本針ぬいのできる模様)

モード 1	01	02	03	04	05	06	07	08	11	12	
モード 2	13	16	17	18	19						
モード 3	01	02	03	05	12	13	15	16	17	20	
	21	23	24	27	29	30	38	42	43	45	
	48	49	50	51	52	55	56	59	60	61	
	63	64	65	66	67	69	71	78	82	83	
	89	90									

## ◎ミシンの設定

下記3項目(A、B、C)の設定をミシンの初期の状態(購入時の設定状態)から変更することができます。

### A: ブザー音の設定

ボタンやキーを押して受け付けられたときに鳴るブザー音など、正しい操作をしたときの受け付け音を「ブザー音あり」(初期の状態)から「ブザー音なし」に変更

※「ブザー音なし」に設定しても、正しい操作をしたときの受け付け音以外の音(禁止、警告音等)は鳴ります。

### B: ミシン停止時の針位置設定

ミシンを停止したときの針の位置を「下位置停止」(初期の状態)から「上位置停止」に変更

### C: キー位置の設定

操作パネルの外観上のキーの位置と実際のキーの位置が少しずれていて、キーがうまく押せない場合のキー位置の調整

## 【設定方法】

① 記憶キーを押したままミシンの電源スイッチを入れます。

※ 記憶キーは左図の画面が表示されるまで押し続けてください。画面が表示されたら指をはなします。左図の画面が表示されなかった場合は、もう一度電源スイッチを切ってやり直してください。

※ 設定の途中で変更内容を確定するための記憶キーが押されずに電源スイッチを切った場合は、変更した内容は取り消されます。(ミシンはもとの状態のままです。)

### A: ブザー音の設定

② 画面は、ブザー音の設定画面です。(ブザー音の設定をしない場合は、モードキーを押し、78ページの手順④にしたがってください。)

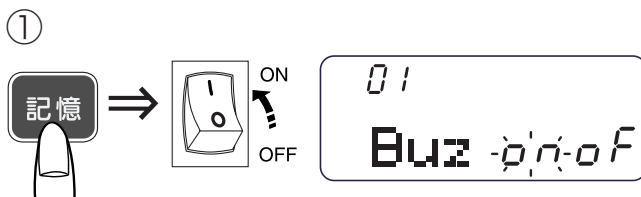
ブザー音をなしに設定する場合は、カーソル移動キーの「▶」を押して「oF」表示を点滅させます。

※ 初期の状態は、ブザー音ありに設定されていて、表示は「on」が点滅しています。

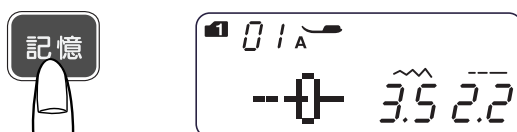
※ ブザー音ありに設定する場合は、カーソル移動キーの「◀」を押して「on」表示を点滅させます。

③ これで設定を終了する場合は、記憶キーを押します。(変更内容が確定されて通常の画面にもどります。)

続けて別の項目を設定する場合は、記憶キーを押さずに、モードキーを押します。



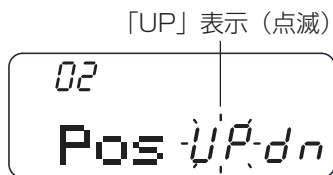
③ 《設定を終了する場合》



《別の項目を設定する場合》



④

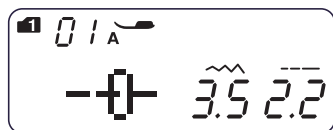


### B: ミシン停止時の針位置設定

④ 画面は、ミシン停止時の針位置の設定画面です。(針位置設定をしない場合は、モードキーを押し、79ページの手順⑥にしたがってください)  
 上位置停止に設定する場合は、カーソル移動キーの「◀」を押して「UP」表示を点滅させます。

- ※ 初期の状態は、下位置停止に設定されていて、表示は「dn」が点滅しています。
- ※ 下位置停止を選択する場合は、カーソル移動キーの「▶」を押して「dn」表示を点滅させます。

⑤ 《設定を終了する場合》



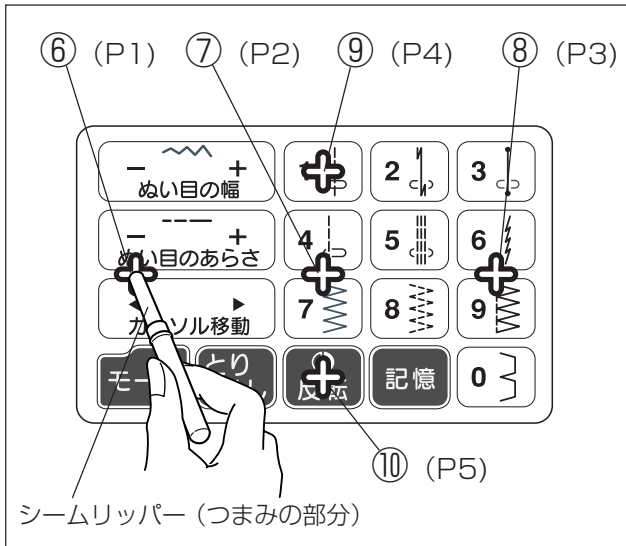
⑤ これで設定を終了する場合は、記憶キーを押します。(変更内容が確定されて通常の画面にもどります。)

続けて別の項目を設定する場合は、記憶キーを押さずに、モードキーを押します。

《別の項目を設定する場合》



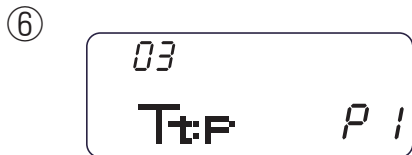




### C：キー位置の設定

※ キーは指で押さないで、付属のシームリッパーのつまみの先など、とがっていない細いもので押ししてください。

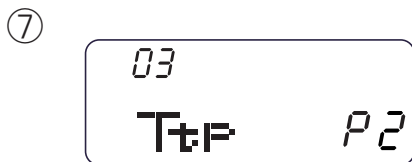
左上の図を参照して、下記⑥～⑩の操作を行います。



⑥ 画面は、キー位置の設定画面です。

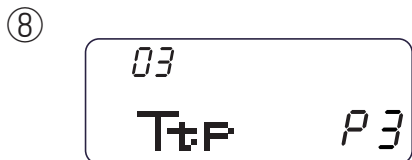
画面の右側に「P1」と表示されています。

キーの「-」と キーの「◀」の中央を押します。



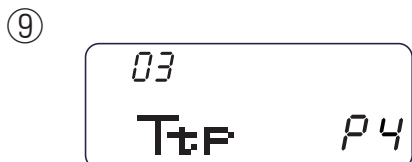
⑦ 画面は「P2」の表示にかわります。

キーと キーの中央を押します。



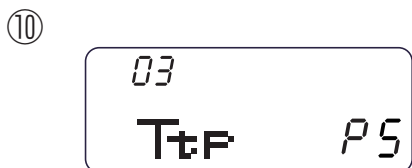
⑧ 画面は「P3」の表示にかわります。

キーと キーの中央を押します。



⑨ 画面は「P4」の表示にかわります。

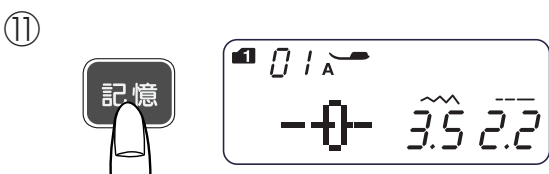
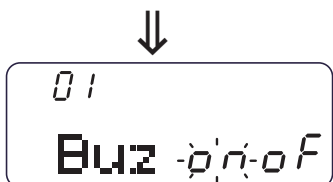
キーの中央を押します。



⑩ 画面は「P5」の表示にかわります。

キーの中央を押します。

キー位置の設定が完了し、ミシンの設定の最初の画面(手順①の画面)にもどります。

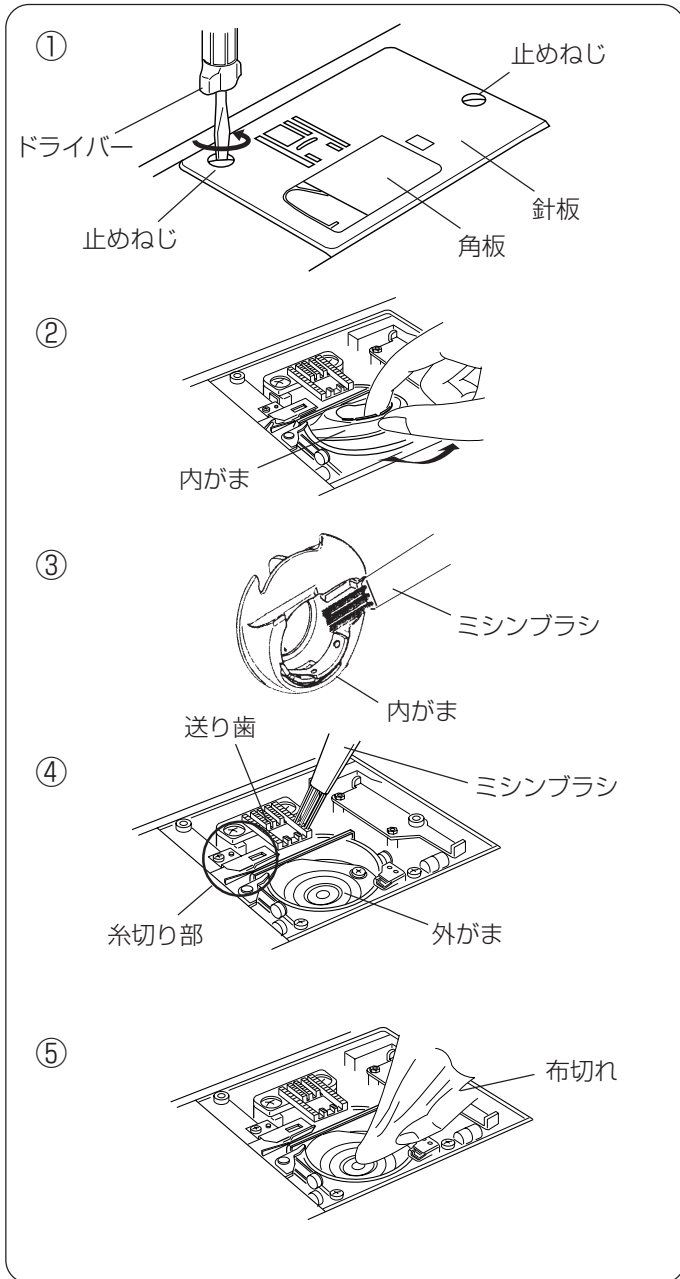


⑪ これで設定を終了する場合は、記憶キーを押します。(変更内容のすべてが確定されて通常の画面にもどります。)

※ 記憶キーを押さずに電源スイッチを切った場合は、変更した内容は取り消されます。(ミシンはもとの状態のままです。)

## ◎ミシンのお手入れ

### ●かまと送り歯、糸切り部の掃除

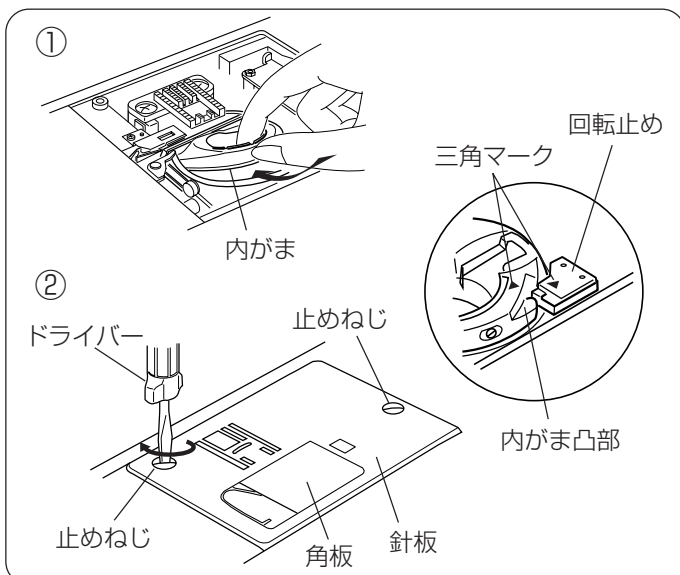


## ⚠ 注意

- ・お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
  - ・説明がある場所以外は分解しないでください。
- 感電・火災・けがの原因になります。

- ① 針と押さえホルダーを外し、角板とボビンを外します。止めねじ（2個）を外し針板を外します。
  - ② 内がまの手前を上へ引きながら外します。
  - ③ 内がまを付属のミシンブラシで掃除し、布きれで軽くふきます。
  - ④ 送り歯、糸切り部のごみをミシンブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
  - ⑤ 外がまの中央部を布きれで軽くふきます。
- ※ ミシンブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸い取ってください。

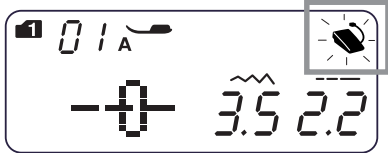
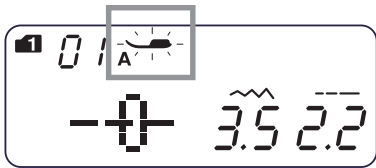
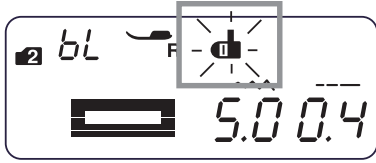

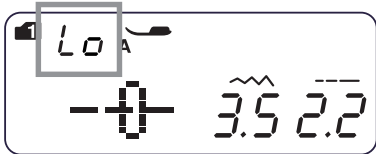
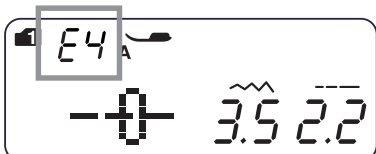
### ●内がまと針板の組み付け



- ① 内がまを差し込みます。  
内がまの三角マークと回転止めの三角マークを合わせて、内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
  - ② ボビンを入れ、針板を止めねじで取り付けます。
- ※ お手入れが終わったら忘れずに角板、針、押さえホルダーを取り付けてください。

## ◎こんな表示が出た場合

警告音とともに下の表示が出た場合は、対処方法にしたがってください。

表 示	対 処 方 法
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フットコントローラーを接続した状態で、スタート/ストップボタンを押したときに、フットコントローラー表示が数秒間点滅します。スタート/ストップボタンを使用する場合は、フットコントローラーの接続を外してください。</li> <li>2. フットコントローラーを使用中にフットコントローラーが故障すると、フットコントローラー表示が点滅します。フットコントローラー表示が点滅中は、ミシンの操作ができません。フットコントローラーを外し、お買い上げの販売店へご連絡ください。</li> </ol>
	<p>押さえ上げをさげないで、スタート/ストップボタン、返しぬいボタン、糸切りボタンを押したとき、およびフットコントローラーを踏んだときは、押さえ表示が点滅します。</p> <p>押さえ上げをさげて、操作を行ってください。</p>
	<p>ボタンホール切りかえレバーをさげないでボタンホールを約0.5cmぬうと、ボタンホール切りかえレバー表示が点滅します。</p> <p>ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートしてください。</p>
	<p>糸巻き軸が下糸巻き位置にセットされているあいだ糸巻き表示が点灯します。</p> <p>他の操作を行う場合は、糸巻き軸をもとの位置（左側）にもどしてください。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全装置の作動によりミシンモータが緊急停止したときに約15秒間表示されます。この時間はミシンの操作ができませんのでしばらくおまちください。</li> <li>2. 糸巻き中に糸がらみなどで糸巻き軸がロックされると表示されます。電源を切り不要な糸を取り除いてください。</li> </ol>
	<p>ミシンが正しく作動しなかった場合に表示されます。</p> <p>電源を切り、針板を外し、かまや送り歯、糸切りメスに糸がからんでいないか確認してください。</p> <p>直らない場合は電源を切り、お買い上げの販売店へご連絡ください。</p>

## ★ブザー音の種類

ブザー音	内 容
ピッ	正しい操作をしたときの受け付け音です。
ピー	記憶した模様等を一括して取り消すときに、とりけしキーを長押しして受け付けたときの音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音、またはミシン異常時の警告音です。
ピピピー	ボタンホールぬいが終わったときの終了音です。

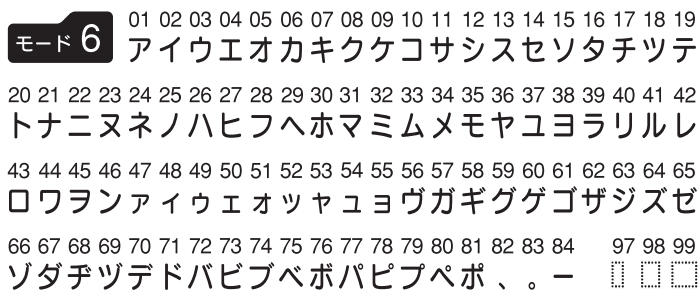
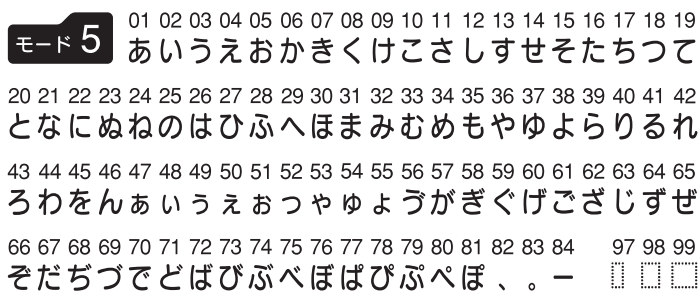
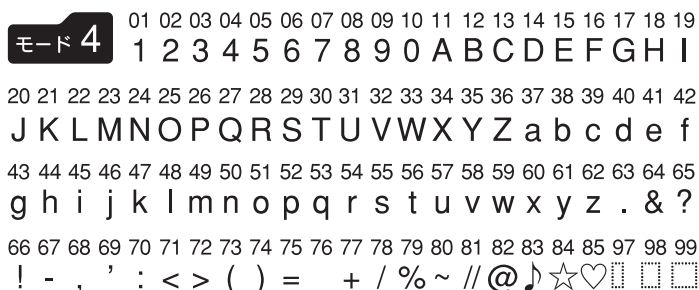
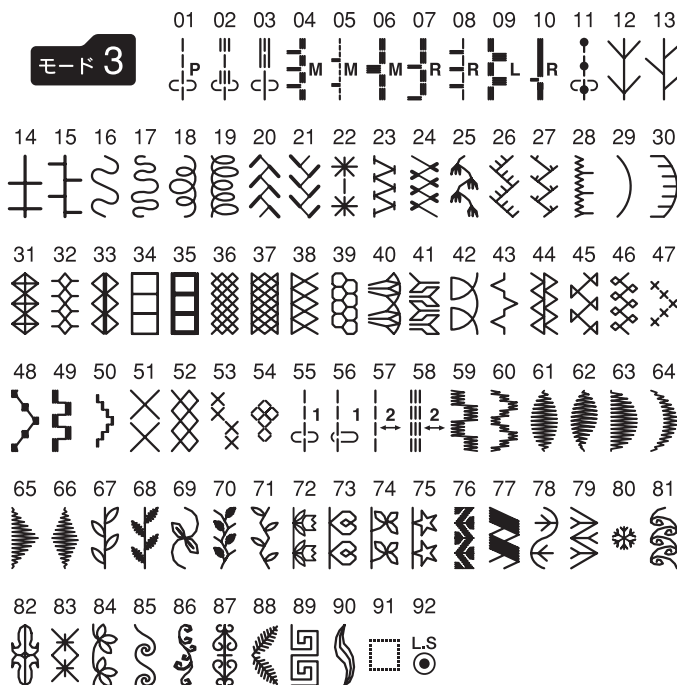
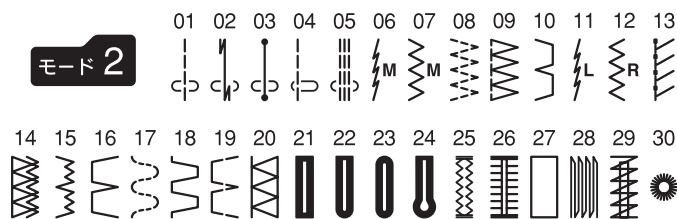
## ◎ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。</li> <li>2. 上糸調子が強すぎる。</li> <li>3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。</li> <li>4. 針の付け方がまちがっている。</li> <li>5. ぬい始めに上糸を押さえの下にそろえて引いていない。</li> <li>6. 糸がかまなどからまっている。</li> <li>7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。</li> <li>8. 糸こまに上糸が引っかかっている。</li> </ol>	<p>21 ページ参照 14 ページ参照 17 ページ参照 17 ページ参照 24 ページ参照 80 ページ参照 17 ページ参照</p> <p>糸こま押さえを付ける</p>
下糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 下糸の通し方がまちがっている。</li> <li>2. 内がまの中にごみがたまっている。</li> <li>3. ボビンにきずがあり回転がなめらかでない。</li> </ol>	<p>20 ページ参照 80 ページ参照</p> <p>ボビンを交換する</p>
針が折れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</li> <li>2. 針止めねじのしめつけがゆるんでいる。</li> <li>3. ぬい終わったとき布を手前に引いている。</li> <li>4. 布に対して針が細すぎる。</li> <li>5. 模様にあった押さえを使用していない。</li> </ol>	<p>17 ページ参照 17 ページ参照</p> <p>布を向こう側に出す 17 ページ参照</p> <p>指定の押さえに交換する</p>
ぬい目がとぶ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</li> <li>2. 布に対して針と糸が合っていない。</li> <li>3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針（市販SP針）を使っていない。</li> <li>4. 上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>5. 品質の悪い針を使用している。</li> </ol>	<p>17 ページ参照 17 ページ参照</p> <p>17 ページ参照 21 ページ参照</p> <p>針を交換する</p>
ぬい目がしわになる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸調子が合っていない。</li> <li>2. 上糸下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。</li> <li>3. 布に対して針が太すぎる。</li> <li>4. 布に対してぬい目があらずすぎる。</li> <li>5. 押さえ圧が合っていない。</li> </ol>	<p>14 ページ参照</p> <p>20、21 ページ参照 17 ページ参照</p> <p>ぬい目を細かくする 13 ページ参照</p>
布送りがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 送り歯に糸くすがたまっている。</li> <li>2. ぬい目が細かすぎる。</li> <li>3. 送り歯があがっていない。</li> </ol>	<p>80 ページ参照</p> <p>ぬい目をあらくする 13 ページ参照</p>
ぬい目に輪ができる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸調子が弱すぎる。</li> <li>2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。</li> </ol>	<p>14 ページ参照 17 ページ参照</p>
ミシンがまわらない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電源のつなぎ方がまちがっている。</li> <li>2. かまに糸やごみがたまっている。</li> <li>3. ボビンに糸がからまっている。</li> <li>4. 押さえ上げがさがっていない。</li> </ol>	<p>6 ページ参照 80 ページ参照</p> <p>ボビンの糸を確認する 13 ページ参照</p>
ボタンホールがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 布に対してぬい目のあらしさが合っていない。</li> <li>2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。</li> <li>3. ボタンホール切りかえレバーがさがっていない。</li> </ol>	<p>44、45、46 ページ参照 40 ページ参照 40 ページ参照</p>
音が高い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. かまの部分に糸くすが巻きこまれている。</li> <li>2. 送り歯にごみがたまっている。</li> <li>3. 電源投入時、制御モータからわずかな共鳴音ができる。</li> </ol>	<p>80 ページ参照 80 ページ参照</p> <p>異常ではありません</p>
ぬいずれがおこる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 押さえ圧が合っていない。</li> </ol>	<p>13 ページ参照</p>
糸切りボタンでうまく糸が切れない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 使用している糸が太すぎる。</li> <li>2. 糸がからまっている。</li> </ol>	<p>9 ページ参照 80 ページ参照</p>

※ 静かな部屋で使うと「ウーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モータから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※ 長時間使うと表示画面や操作パネル付近の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

# ◎模様一覧表



---

# MEMO

---

仕 様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	35W
外形寸法	幅 40.6cm × 奥行 17.5cm × 高さ 30.2cm
質 量	6.6kg (本体)
使用針	家庭用 HA X 1
最高ぬい速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時 毎分 820 針 (直線模様)

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

## 修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より 1 年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

## 修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間の基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

## 無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスを行います。  
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
  1. 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  2. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  3. お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  4. お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
  5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

## お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

### 蛇の目ミシン工業株式会社

〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地

お客様相談室 TEL. 0120-026-557 (フリーダイヤル)  
042-661-2600

受付…平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <http://www.janome.co.jp>  
問合せフォームをご利用ください。

